

1. 日本保健医療社会学会役員選挙について

去る4月5日に2名の選挙監理委員(金子雅彦氏、萩原康子氏)により、投票された封筒を開票し、集計していただきました。その結果、5名の理事と2名の会計監査が決まりました。さらに、4月13日に選挙で選ばれた理事が集まり、理事会推薦枠の2名の理事を決定いたしました。平成13年度、14年度の役員体制は以下の通りとなりましたので、会員の皆様にご報告させていただきます。理事の互選で学会長は渋谷優子先生にお願いし、お引き受けいただきました。詳細な理事の役割分担については、学会大会の総会で報告させていただきます。予定です。(事務局)

●理事

渋谷優子 (東京医科歯科大学) 学会長

園田恭一 (東洋大学)

山崎喜比古 (東京大学大学院)

黒田浩一郎 (龍谷大学)

朝倉隆司 (東京学芸大学)

(以上5名は得票数上位5名という規則に基づいて選出された理事です。)

野口裕二 (東京学芸大学)

福島道子 (日本赤十字看護大学)

(以上2名は5名の新理事から推薦された理事です。)

●会計監査

山手 茂 (新潟医療福祉大学)

萩原康子 (東京国際大学)

(以上が選挙により選出された会計監査2名です。)

2 第27回日本保健医療社会学会大会ポスターの掲示と広報のお願い

来る5月19日(土)・20日(日)と東京大学本郷キャンパスにて開催される第27回大会の準備に向け、機関誌『論集』の編集事務局の仕事とも重なり、文字通りてんてこ舞いの毎日です。

今回の通信には、大会のプログラムと一緒に、大会のポスターを2枚同封しました。1枚は、各会員の近くに、もう1枚は、友人の方にお渡しするなどして、掲示、広報してくださいませよう、お願い申し上げます。なお、このポスターについては、学会外にも少し手を広げて送付し、掲示のお願いをしております。

第27回日本保健医療社会学会大会事務局

責任者：山崎喜比古、副責任者：山本武志

Tel [REDACTED] (助教授室) [REDACTED] (事務局) Fax [REDACTED]
(ニュース前号に掲載のFaxナンバーに間違いがありました。お詫び申し上げます。)

3 研究情報(2000年1月～12月：五十音順)

(あ)

- 朝倉京子、濱田悦子：看護職者の「セクシュアリティに対する態度」と「共感的態度」に関する検討、日本=性研究会議会報、第12巻、第1号、pp20-29、2000年
- 朝倉京子：我が国の保健医療領域におけるセクシュアリティ概念の問題点、保健医療社会学論集、第11号、pp82-93、2000年
- 朝倉隆司：中学生における対人的な攻撃行動パターンに関する研究—性差と小学校高学年時の遊び方との関連—、学校保健研究、第42巻 第2号、pp123-141、2000年
- 朝倉隆司：栄養・食教育介入で認められた精神健康指標(GHQ-12)とBMIの関連性、若年成人への栄養・食教育の診断・評価の指標に関する総合的研究(研究代表者 武見ゆかり)、平成11年度 厚生科学研究費補助金 健康科学総合研究事業報告書、pp47-57、2000年3月
- 朝倉隆司：雇用形態・人事制度の多様化の中で労働者が能力発揮できる職場環境に関する調査研究報告書、雇用情報センター (pp23-32, pp90-106, pp150-158)、2000年3月
- 蘭由岐子：ハンセン病療養所入所者のライフストーリー実践、好井裕明・桜井厚編「ワールドワークの経験」 せりか書房、2000、5
- 池田俊也、武藤香織：臓器移植と臨床経済学、日本臨床死生学会誌、第5巻第1号、61-67、2000
- Ishikawa, H., Yamazaki, Y.: The effects of job and family conditions on cumulative fatigue of working mothers in double income family, Journal of Science of Labour. 76(3); 1-15, 2000. 10.

(か)

金子雅彦：Health Care Institution Policy in Meiji Period、防衛医科大学校進学課程
研究紀要、第23号、39-47、2000.3

厚生科学研究、疫学研究におけるインフォームド・コンセントに関する研究と倫理ガイド
ライン策定研究班（玉腰暁子（主任研究者）、石川鎮清、尾島俊之、菊地正悟、小橋元、
斎藤有紀子、杉森裕樹、中村好一、中山健夫、武藤香織、山縣然太郎、鷺尾昌一）、
斎藤有紀子、杉森裕樹、中村好一、中山健夫、武藤香織、山縣然太郎、鷺尾昌一）：
『疫学研究のインフォームド・コンセントに関するガイドライン（第一版）』、日本医事
新報社、2000

小林優子、朝倉隆司：思春期のヘルスコンサーンに関する研究 —高校生と母親サンプルと
の比較—、学校保健研究、第42巻 第5号、pp393-412、2000

Komatsu Naoko：Doctor - Patient Collaboration—The New Model in Decision Making.
VALDES Research Paper Series E. 11, 1-13, 2000

(さ)

清水準一、山崎喜比古：ヘルスプロモーションにおけるエンパワーメントと健康教育、健
康教室、52(11)；8-11、東山書店、2000.8.

関由起子、山崎喜比古、井上洋二、片山千栄、吉井清子、丸山由香、木村知香子、若林チヒロ、瀬
戸信一郎：日本の薬害HIV感染者への告知に関する実態と問題点。保健医療社会学論
集、第11号、58-68、2000.5.

(な)

野口裕二：臨床実践への社会学的接近。三重野卓・平岡公一編「福祉政策の理論と実際」、
東進堂、2000,3.

野口裕二：サイコセラピーの臨床社会学。大村英昭・野口裕二編「臨床社会学のすすめ」、
有斐閣、2000,9.

(は)

藤江知郁子、山崎喜比古：医療過誤訴訟にみる「説明」と医療者-患者関係。保健医療社会
学論集、第11号、34-44、2000.5.

細田満和子：医療における患者と諸従事者への視座—「チーム医療」の社会学・序説、ソ
シオロゴス、24号、79-95、2000.9.

細田満和子：医療従事者の組織認識—「チーム医療」の理想と現実、現代社会理論研究、
10号、253-265、2000.11.

(ま)

丸山由香、三田優子、山崎喜比古、杉本豊和、川久保陽子、石川真理、庄司 完、松田暁子、
園林 今日子、吉本真紀：精神障害者地域共同作業所のあり方と利用者の生活に対する肯
定的な評価との関連性に関する研究、病院・地域精神医学、43(3)：303-315、2000.10.

武藤香織、小倉康嗣：現代日本人のぼけ観に関する調査研究、CLINICIAN、第47巻第
491号、73-75、2000

- 武藤香織：イギリスの研究倫理審査システムへのクレームと制度改革について、1999
年度厚生科学研究「疫学研究におけるインフォームド・コンセントに関する研究と倫理
ガイドライン策定研究班」報告書、59-64、2000
- 武藤香織：逆選択の防止と「知らないでいる権利」の確保—イギリスでのハンチントン病
遺伝子検査結果の商業利用を手がかりに」、国際バイオエシックスネットワーク、第30
号、11-20、2000
- 武藤香織、岩木三保：神経難病の療養環境整備と医療情報ネットワーク、BIO Clinica、
第15巻第12号、53-57、2000
- 武藤香織、岩木三保、吉良潤一：難病患者に対する入院施設確保事業の現状と問題点—
福岡県重症神経難病ネットワークの取り組みより、医療と社会、第10巻第1号、
145-157、2000
- 武藤香織、阿久津撰、ぬで島次郎、米本昌平：日本の遺伝病研究と患者・家族のケアに関
する調査—家族性アミロイドポリニューロパチー（FAP）を対象に—、Studies 生命
・人間・社会、No.4、2000
- (や)
- 矢原隆行：視点としての看護師—『あたりまえのこと』をみるために、看護学雑誌、64巻
11号、2000、11
- 山崎喜比古、朝倉隆司、原谷隆史、吉井清子：雇用形態・人事制度の多様化の中で労働者
が能力発揮できる職場環境に関する調査研究報告書、財団法人雇用情報センター、
2000.3.
- 山崎喜比古：職場でのエンパワーメントと健康づくり、労働の科学、55(6)；340-344、
2000.6.
- 山崎喜比古：過労自殺と労災、総合臨床、49(12)；2988-2990、2000.12.
- 山崎喜比古、瀬戸信一郎編：H I V感染被害者の生存・生活・人生—当事者参加型リサー
チから—、有信堂、1-212、2000.12.
- (わ)
- 渡辺千佳子、玉井真理子、山崎喜比古：出生前診断に対する産婦人科医・小児科医の態度、
周産期医学、30(7)、937-941、2000.7.

● 編集後記：

今期の広報担当による最後のニューズレターをお届けします。あつという間の2年間で
したが、この間に、ニューズレターの形式を一新し、また、学会ホームページの充実など
を手がけてきました。なにぶん「家内制手工業」のため、何かといたらないところがあり、
会員の皆様にはご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫びいたします。新世紀を迎
えて、本学会のさらなる発展のため、事務局体制の充実を切に希望するとともに、会員の
皆様のますますのご協力と積極的なご参加を期待しております。(の)

日本保健医療社会学会ニューズレター No.47 2001/08/13

日本保健医療社会学会事務局
東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室内
東京都文京区本郷 7-3-1
(発行：山崎 喜比古 編集：福島 道子)

I. 第27回日本保健医療社会学会大会の報告

去る5月19日(土)、20日(日)の2日間、東京大学本郷キャンパス山上会館・安田講堂で開催された第27回日本保健医療社会学会大会は、おかげさまで、盛況裡に終わることができました。ご協力、ご支援くださった学会内外の皆さまに、心からお礼を申し上げます。ここ5年間、200人前後で推移してきた大会参加者数が、今回の大会で、要員もしていただくことで参加費を免除した院生・学生の皆さん20名を含めて、320名にのぼりました。参加費からみた参加者の内訳は、〔会員〕：〔非会員〕：〔学生〕は概ね1：1：1でした。今回の大会は、21世紀最初の年の大会として、転機、跳躍台の大会になることが学会の内外から期待されていましたが、規模の上でも、内容的にも、そうした期待に応え得るものになったことを、共に喜びたいと思います。

しかし、大会の開催準備は大幅に遅れました。根本的には、大会参加者数100人余という研究会時代(当学会は、1989年に研究会より学会に変わりました)の理事会・事務局の体制をそのまま引き継いでいることに起因しています。大会1ヶ月前になって、危機的状況を自覚し、遅れを取り戻し危機を回避すべく、学会史上初めて、コンベンション・サービスを入れるとともに、ポスターやメールによる大会の広報宣伝と内容の詰めを強めました。しかし、大会参加者数の大幅増も、コンベンション・サービスの力を借りた分をカバーし切れず、かなりの赤字を抱えてしまいました。その他、いろいろなお迷惑をおかけすることにもなりました。こうした問題点を含めて、きちんと総括し、来年の大会とその準備に生かす所存であります。

いずれにしても、今回の大会は、保健医療社会学と学会への関心と期待がますます広がっており、私たちのとりくみ次第でさらに発展させ得ることを示してくれた点で、大きな成果を収めたものと深く確信しております。ありがとうございました。

第27回日本保健医療社会学会大会
大会長 山崎 喜比古

II. 第28回日本保健医療社会学会大会のお知らせ

来年の学会大会の概要が以下のように決定いたしました。現在、企画運営委員会体制をとって、開催の準備をすすめております。

会期：2002年5月18日(土)・19日(日)

場所：日本赤十字看護大学(東京)

大会長：福島道子(日本赤十字看護大学)

Ⅲ. 第 27 回日本保健医療社会学会総会の報告

学会の総会は、2001 年 5 月 19 日に東京大学の山上会館にて行われた。議事次第と審議結果は以下の通りである。

1. 学会長 挨拶

2. 議長選出 (姉崎 正平 先生)

3. 第 1 号議案 2000 年度 (平成 12 年度) 事業報告

① 第 26 回日本保健医療社会学会大会・総会を奈良女子大学

(2000 年 5 月 20 日～21 日 進藤雄三大会長) で開催

② 保健医療社会学論集第 12 号発刊

③ 定例研究会を開催 (2000 年 12 月 11 日、於：学会館分室)

④ 看護研究部会を開催

⑤ ニュースレターの発刊

⑥ 学会ホームページの更新

⑦ 学会員名簿の作成

⑧ 理事並びに監事の選挙 (選挙監理委員：金子雅彦、萩原康子両氏)

理事 (敬称略)：渋谷優子(学会長)、園田恭一、山崎喜比古、黒田浩一郎、野口裕二、朝倉隆司、福島道子

監事 (敬称略)：山手 茂、萩原康子

4. 第 2 号議案 2000 年度 (平成 12 年度) 決算報告

以下の通り決算報告がなされ、承認された。

日本保健医療社会学会 2000 年度決算報告書

自 2000 年 4 月 1 日 至 2001 年 3 月 31 日

単位：円

収入の部				支出の部			
費目	予算額	決算額	差異	費目	予算額	決算額	差異
前期繰越金	304,589	304,589	0	印刷製本費	500,000	537,075	△37,075
会費収入	1,220,000	1,870,677	650,677	郵送費	200,000	297,290	△97,290
学会誌刊行物売上	30,000	23,000	△7,000	謝金費	250,000	135,000	115,000
受取利息	875	209	△666	名簿作成費	250,000	119,000	131,000
				消耗品費	50,000	43,375	6,625
				会議費	50,000	7,400	42,600
				部会・研究会活動補助費	150,000	325,200	△175,200
				予備費	105,464	734,135	△628,671
合計	1,555,464	2,198,475	643,011	合計	1,555,464	2,198,475	△643,011

5. 第 3 号議案 2001 年度 (平成 13 年度) 事業計画並びに審議事項

① 理事の役割分担について (敬称略)

渋谷優子：学会長

園田恭一：学術会議・研究活動 (東京)

山崎喜比古：総務

福島道子：広報 (ニュースレター、HP の企画関連)

黒田浩一郎：研究活動 (関西)

野口裕二：論集編集

朝倉隆司：論集編集

上記の役割分担の決定に伴い、事務局の移動を行う。

付則1の改正 本会の事務局は当分の間、東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室に置く。

- ② 第27回日本保健医療社会学会大会・総会を、東京大学で開催
(2001年5月19日～20日、山崎喜比古大会長)
- ③ 第28回日本保健医療社会学会大会・総会の準備
- ④ 保健医療社会学論集の発刊
『保健医療社会学論集』編集規定2の改正：論集の原則年2回発行について年2回の発行が認められた。
- ⑤ 定例研究会の開催（東京並びに関西地区）
- ⑥ 研究部会活動
- ⑦ 学会ホームページの運営管理など広報活動
- ⑧ ニュースレターの発行 年4回発行
- ⑨ 学会員名簿の発行
- ⑩ 総務担当理事が運営する事務局の体制強化と専従人員の確保について
- ⑪ その他
会員より、総会の成立条件について検討するよう提案があり、理事会で規約整備を検討することになった。

6. 第4号議案 2001年度(平成13年度)予算計画

- ① 学会の規約第18条1の改正：会費の値上げについて
- ② 付則2の改正：本規約は2001年4月1日より改正施行する。
- ③ 総務担当理事から、会費4,000円(現状)の場合の事業計画、予算計画と会費を6,000円に値上げした場合の事業計画、予算計画の2案が提示され、これまでの会費では学会活動に支障を来すことが報告された。それについて審議された結果、今年度の4月1日に遡って会費を6,000円に値上げし、それに沿った事業計画・予算計画が承認された。

会費値上げの根拠となる事項

- ① 論集の年2回発行
 $54\text{万円} \times \text{約} 1.5 = 80\text{万円}$
- ② 事務局専従者の謝金+発送作業・HP更新等のアルバイト謝金
週3回 \times 2時間 \times 1,000円 \rightarrow 年間288,000円
アルバイト \rightarrow 62,000円
合計350,000円
- ③ 論集編集関連の謝金
年1回の発行時5万円 \times 2回 \rightarrow 100,000円
- ④ 郵送費 選挙の減少分-2万円
論集1回追加郵送費210円 \times 400人 \rightarrow 84,000円
ニュースレター1回増加分80円 \times 400人 \rightarrow 32,000円
合計29万+96,000=386,000円
- ⑤ 交通費 理事 25,000円 \times 3回 \rightarrow 75,000円
編集委員 30,000円 \times 2人 \rightarrow 60,000円
合計135,000円
- ⑥ 定例研究会
東京+関西 各10万円 \rightarrow 200,000円

学会大会補助

10万円を50万円に増額

合計70万円+学術会議会費2万円→720,000円

日本保健医療社会学会2001年度予算

自2001年4月1日 至2002年3月31日

単位:円

収入の部		支出の部	
前期繰り越し分	643,011	印刷製本費	800,000
会費収入		郵送費	386,000
(6000円×320人分、新会員7000円×50人分)	2,270,000	交通費	135,000
学会論集売り上げ	30,000	事務局・広報謝金	350,000
受取利息	300	論集編集謝金	100,000
		名簿発行費	90,000
		消耗品費	50,000
		会議費	20,000
		部会・研究会活動補助費	720,000
		(講師謝金,大会準備費を含む)	
		予備費	292,311
合計	2,943,311		2,943,311

(前総務担当理事 朝倉隆司)

IV. 日本保健医療社会学会 理事会の報告

第1回 理事会 5月12日(土) 於 東京医科歯科大学

出席: 渋谷優子(学会長)、園田恭一、朝倉隆司、黒田浩一郎、山崎喜比古、福島道子

1. 新理事の役割分担を決めるとともに、学会事務局の体制強化の方策が話し合われた。
2. 学会費の値上げと、学会誌『論集』の年2回発行化について、学会総会ならびに後者については編集委員会にも提案することになった。

第2回 理事会 5月18日(金) 於 東京大学

出席: 朝倉隆司、黒田浩一郎、野口裕二、山崎喜比古、福島道子

1. 学会総会の運営、ならびに、総会に報告・提案する事項について、検討し決定した。

第3回 理事会 6月23日(土) 於 東京医科歯科大学

出席: 渋谷優子(学会長)、朝倉隆司、黒田浩一郎、山崎喜比古、福島道子、山本武志

1. 第27回大会の総括案が大会長と大会事務局より提案され、討議された。第27回大会で出た赤字分503,176円のうち、20万円は次回大会の補助費から、残り30万円余は予備費から補填することになった。
2. 第28回大会については、例年と同じ時期に東京で開催し、大会長・大会事務局長以外に複数の実行委員が加わる実行委員会体制で大会準備を当たることが確認された。開催時期と開催場所については、実行委員会で話し合い、早急に決めていくことになった。

3. 学会誌の編集委員会の構成ならびに次号および次次号の編集・発行方針について編集担当理事より提案され、討議された。
4. 学会事務局の新体制について、総務担当理事から学会事務局次長として、山本武志会員が紹介され、原則として理事会に毎回出席していただくことが確認された。
5. 今秋に関東と関西で開催する予定の定例研究会の開催案が、研究活動担当理事から提案され討議された。
6. 7月に発行予定の学会ニューズレターの編集方針が広報担当理事より提案され、討議された。
7. 次回理事会を9月21日(金)6時より、東京医科歯科大学にて開催する予定とし、学会総会の定是数の問題、名誉会員推挙の問題についても討議することが確認された。

(総務担当理事 山崎喜比古)

V. 新学会長挨拶

「日本保健医療社会学会の学会体制に向けて」

21世紀の最初の第27回学会大会総会は盛会に終了し、7年前の学会参加者と比較して3倍参加者増になっており、このような状況において、本学会の学際性の高い存在意義は重要であり、学問体系の構築が一層期待される所であります。この度学会長に指名されましたのは、理事会の中での年の功であり、女性会長第一号として女性先輩諸姉の活躍に負うところ大の評価として、今後に生かしていけるよう決意しました。どうぞご指導、ご協力お願い致します。本学会で探求されてきた保健・医療・看護領域への社会科学のアプローチ方法論や技術論の有効性が重要であり、そこでは人間を含めた環境に対する専門職の働きかけとして有効性が中心課題です。有効性とは、よりよい質の保健・医療・看護の提供です。しかし有効性を発展させるためには、そこで生じる現象を方法、技術、対応論の対象として因果関係的アプローチだけではなく、社会科学的対象として人間として生活を営む者として、社会的背景を持つ人々の内面性(自我、パーソナリティ)、生活者としての文化、関係性、集団や組織(個人、家庭、地域社会、公的部門など)、社会制度(法的保障など)、社会構造などから捉えることで、有効性の発展や示唆を得た貴重な研究成果からもすでに証明されていることです。より積極的に活用して行くための研究方法も必要です。本学会としての体制を図る組織、運営、財政、会員を増やす、学会活動の場を広げるなど多くの課題があり、専従職員の問題と予算化、会員相互の交流支援に役立つ環境づくりができたらと、微力ながら進めていく所存です。

(学会長: 渋谷 優子)

VI. 「保健医療社会学論集」編集委員会からのお知らせ

1. 編集委員会の体制

今年度の理事の改選に伴い、新しい編集担当の理事が決まり、編集規定第4項に基づき編集委員も新たに選出されました。新しい編集委員会の体制は、以下のとおりです。

委員長	朝倉隆司(東京学芸大学)		
副委員長	野口裕二(東京学芸大学)		
委員	市野川容孝(東京大学)	黒田浩一郎(龍谷大学)	
	中山和弘(愛知県立看護大学)	西田真寿美(兵庫県立看護大学)	
	星旦二(東京都立大学)	宮本真巳(東京医科歯科大学)	

2. 論集の年2回発行実現による原稿大募集

保健医療社会学論集が今年度より年2回発行する運びとなりました。今年度はもう1冊論集が発行され、第12巻2号となります。その発行時期は11月を予定しています。先の5月の大会（於：東京大学）で研究を発表された会員の方々を始め、ぜひこの機会を生かして研究をまとめて投稿されることをお奨めします。また、原稿は年中受け付けていますが、第12巻2号に掲載を希望される場合は、9月末日までに下記の編集事務局まで、投稿規定に沿って原稿をお送り下さい。新しい編集委員一同、多数の投稿を期待しています。なお、本学会では、良い論文として仕上がるよう示唆に富む査読が行われています。

また、インフォメーションのコーナーでは、当学会と関連が深い海外の学会や国際学会、国際会議の動向などをエッセイのような形式で構いませんので、掲載していきたいと考えています。そのような国際的な学会や会議に参加された会員の方々は、是非、積極的に他の会員の方々に情報提供して下さいをお願いします。短いものでも構いません。もちろん、会員に参考となる研究情報について格調高く書いていただくのも歓迎です。

3. 編集委員会事務局

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学 保健学（朝倉）研究室
保健医療社会学論集 編集委員会事務局

VII. 平成13年度 看護研究部会活動

1. 平成13年度の活動計画

1) 本年度は、会員の研究会参加と討議を活発にできるようにし、看護社会学の学習会とその成果をまとめることを計画し、年7回の定期研究会の開催日程と実施内容を予定している。

2) 平成14年度の学会参加に向けての準備について、看護研究部会活動の成果を学会参加することで、何らかの方法で発表し、多くの参加者との交流の場を広げることを意図する。そのための活動計画を進める予定ですので、課題や企画などのご意見を看護研究部会にお寄せ下さい。

2. 看護部会での決定事項

1) 看護研究部会の内規の一部改正が承認されました。

第3章の役員任期、第5条2役員が辞任した時は、原則として役員選挙における次点者が、残任期間その任に当たるものとする。付則平成13年3月17日改正と改める。

2) 事務局岩森龍夫様の辞任が承認されました。上記の内規に基づいて、看護研究部会において決まりました。1年間部会活動にご尽力いただき、大変お世話になりましたことお礼を申し上げます。今後ともご支援の程宜しくお願い致します。

日程	時間
第2回 7月14日(土)	10時から12時30分
第3回 9月8日(土)	
第4回 11月10日(土)	
第5回 12月15日(土)	
第6回 1月19日(土)	
第7回 3月23日(土)	

看護研究部会は看護の社会学的研究の発展、交流および共同研究の推進をはかることを目的としています。入会ご希望者は看護研究部会事務局にご連絡下さい。

事務局：長江弘子（聖路加看護大学地域看護）

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1

（看護研究部会長 渋谷優子）

Ⅷ. 定例研究会のお知らせ

<関東地区定例研究会>

日時：9月21日（金）午後6時から8時

場所：東京大学山上会館（予定）（本郷キャンパス）

報告者：杉澤秀博（東京都老人総合研究所）

題目：自治体保健福祉行政施策の評価の試み—世田谷・豊島調査の事例を通して—

問合せ先：園田恭一（東洋大学社会学部）

研究室

<関西地区例会>

日時：9月29日（土）午後2時から6時

場所：YWCA 山西記念福祉会館（右図参照）

（大阪市北区神山町 11-12

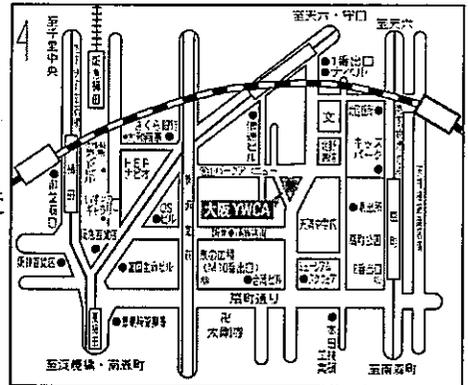
講演者：野村一夫

題目：健康主義的思考とは何か—社会構築主義的接近

その他：医学知識の社会構築主義に関する論文を1～

2本紹介・検討の予定

問合せ先：黒田浩一郎（龍谷大学社会学部）



Ⅸ. 第27回日本保健医療社会学会大会に参加して

今回の学術大会は、最先端医療と健康社会学との融合を狙ったまさにタイムリーなテーマであると感じた。21世紀における癒しやケアという利用者主体の保健医療を実現するために、保健医療に携わるものとして、また研究者として多くの課題を認識した大会となった。健康生成概念の紹介や当事者参加型研究のあり方は、保健医療サービスの利用者抜きにその本質は語れないということを示していたと思う。要望演題で取り上げた医療事故については、現状把握のために様々なアプローチが報告された。医療者への聞き取りや参加観察法を用いた質的アプローチで医療者側の課題を組織的・文化的にも明らかにする重要性を再認識した。質保証を求められる昨今の保健医療現場では忙しいからでは済まされない現実と第3者的に質改善に努める研究者や管理者等の人材配置の必要性という国レベルの制度やシステムの改善が必須であると痛感した。そのためにも、医療現場における当事者参加型の研究と実践が望まれているのだと感じた。同時にそれは研究者としての自分自身の質改善と向上をはかることであり、それが価値ある研究成果を生み出すのだとあらためて叱咤されエネルギーをいただいたように思う。

本大会を企画され、このような機会を下さった山崎先生に感謝いたしたいと思います。

（聖路加看護大学 長江弘子）

X. 日本保健医療社会学会の案内

<沿革>

昭和 48 年秋、日本社会学会大会に「保健・医療社会学」をテーマとする部会を設けた所、予想以上の盛況になりました。これを受けて同年、中央大学（所属は以下各氏とも当時）の那須宗一氏を中心に、保健・医療の社会学的研究の交流及び共同研究の推進を目的として、東京都神経科学総合研究所の山手茂氏が事務局となり、社会学、医学、看護学、社会福祉学等の広い分野の研究者に呼びかけ、月例研究会、共同調査、会報の発行等を行うことを決めたのがこの学会の始まりです。

発足に当たり、会長的那須宗一氏はこの研究会は社会学の研究者だけではなく、保健・医学・社会福祉の研究者と実務者が有力なメンバーとして主体的に参加することが重要である。この研究活動が社会学の単なる応用研究にとどまらず、各自の研究対象の特性に適合しつつ、本学会の特色としての総合性を充たす研究方法が、絶えず提示されるような集学的な研究実践の場となつてほしいと要望されました。

その後における本研究会は、東京大学医学部保健社会学教室の園田恭一氏を中心に、学会として以下のような活動を展開してきました。日本の保健医療に関心を抱く多くの方々の御参加を得て、この学会の発展が期待されています。

- 1977 年から「保健・医療社会学の成果と課題」と題して垣内出版から毎年刊行し、7 冊を数えました。1990 年には学会誌として、保健医療社会学論集の第 1 号を刊行し、1998 年で第 9 号となります。
- 1986 年には、磯村英一氏を会長にお迎えして千葉県浦安市で「都市化と保健医療」を主題として国際会議「第 2 回保健医療社会学アジア会議」を開催しました。
- 1989 年 5 月、日本保健医療社会学会と名称を変更し、初代の会長に芦沢正見氏が就任、本年第 27 回の大会を迎えました。

・学会ロゴの募集について

当学会のイメージや特徴を表すようなデザインを募集しております。応募は学会事務局までお願いいたします。

編集後記

やっと会員の皆様にニューズレターをお届けすることができました。新しい学会長の挨拶や第 27 回大会の報告など、盛りだくさんな内容となりました。本学会初の女性会長が誕生したことは、密かに同性として喜んでいるところです。また、東大で開催された大会は、今までの実績をふまえ、内容も形もより学会らしく発展したように感じられましたが、皆様いかがでしたか？

ニューズレターとしては今後、なるべく早く学会の動きを会員にお伝えすべく努力してまいりたいと思います。

猛暑の折り、お身体に気を付けてご活躍下さい。（福島）

学会事務局からのお知らせ

1. 学会年会費が4,000円から6,000円となりました。

平成13年度総会において、平成13年度からの年会費を6,000円とすることに決定いたしました。会費値上げの理由につきましてはニュースレターをご参照下さい。

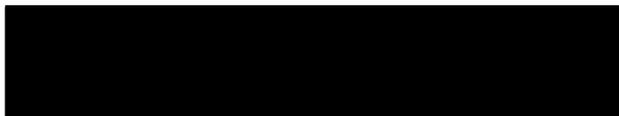
なお、年会費の変更は今年度から適用されます。すでに今年度の会費を納入済みの方は、差額の2000円分を同封の振込用紙にてお支払いいただきますようお願いいたします。

2. 学会事務局が移転しました。

昨年度まで、学会事務局を東京学芸大学保健学研究室に設置しておりましたが、平成13年度から、東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室に移りました。連絡先の変更や問い合わせ等は以下をお願いいたします。

新事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室内（担当：山本・山崎）



日本保健医療社会学会ニューズレター No.48 2001/11/12

日本保健医療社会学会事務局

東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室内

東京都文京区本郷 7-3-1

(編集：福島 道子 発行：山崎 喜比古)

I. 第28回日本保健医療社会学大会のご案内

第28回日本保健医療社会学大会を下記の要領にて開催いたします。

本大会はメインテーマ「ヒューマンサービスと保健医療社会学」を掲げ、保健・医療・福祉の領域におけるケア、あるいはケア提供者について議論を深めていきたいと考えています。

1. 日程 2002年5月18日(土)・19日(日)

2. 会場 日本赤十字看護大学

3. 大会長 福島道子(日本赤十字看護大学 地域看護学教授)

4. プログラム概要

大会長講演「地域づくりの看護実践」 福島道子(日本赤十字看護大学)

司会：山手茂(新潟医療福祉大学)

教育講演「感情労働と看護」 武井麻子(日本赤十字看護大学)

司会：野口裕二(東京学芸大学)

シンポジウムA「新しいケア提供者論」

司会：渋谷優子(東京医科歯科大学)、山崎喜比古(東京大学)

シンポジスト：「チームアプローチの視点から」 鷹野和美(広島県立保健福祉大学)

「ジェンダーの視点から」 山崎裕二(日本赤十字武蔵野短期大学)

「ボランティアの視点から」 石川到覚(大正大学)

シンポジウムB「地域の保健力を育てる」

司会：長江弘子(聖路加看護大学)、柳澤尚代(新潟青陵大学)

シンポジスト：「地域福祉の立場から」 野口定久(日本福祉大学)

「地域保健の立場から」 岩永俊博(国立公衆衛生院)

「地域看護の立場から」 岡本玲子(神戸大学)

要望演題セッション(口演)：「虐待・暴力・引きこもりへのアプローチ」

「ヘルスプロモーションの再検討」

「評価研究の展開」

「ケア提供者の検討」

「医療技術・政策」

一般演題セッション(口演)

5. 演題申し込み方法

発表抄録を下記の要領で作成し、2002年2月末日（必着）までに下記大会事務局まで郵送してください。

A4版1枚、ワープロ横書き、40字×40行、明朝体
詳細は1月発行ニュースレターでご案内いたします。

6. 参加費（当日会場受付にて申し受けます）

大会参加費 学会員 4,000 円、非学会員 6,000 円
 学生学会員 3,000 円、学生非会員 4,000 円
懇親会費 学会員・非学会員 4,000 円、
 学生学会員・学生非学会員 2,000 円

7. 大会事務局

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3
日本赤十字看護大学地域看護学福島研究室

(第28回大会長 福島道子)

II. 第4回理事会報告

日本保健医療社会学会 第4回 理事会 9月21日（金）於 東京大学

出席：渋谷優子（学会長）、園田恭一、朝倉隆司、福島道子、黒田浩一郎、野口裕二、
山崎喜比古、山本武志（学会事務局次長）

1. 定例研究会について

定例研究会が関西地区例会と関東地区例会として、それぞれ9月に1回ずつ設けられていることが各担当の理事より報告されるとともに、今後の予定についても討議され、予算の範囲内である限り、回数などに制限はないことなどが確認された。あわせて、看護研究部会の研究会について、渋谷部会長より報告があった。

2. 第28回大会と企画運営委員会体制等について

福島理事が大会長として、日本赤十字看護大学での2001年5月18・19日開催をお引き受けいただくことになったこと、6名からなる企画運営委員会と2名の協力による事務局という体制で大会の企画や準備に当たることが報告され、了承された。

3. 長期の会費滞納者の取り扱い、退会・除籍について

長期の会費滞納者の取り扱いについて、討議され、近いうちに年会費の請求を個人宛て及びニュースの両方であらためて行い、それでもなお、5年以上の年会費未納者については、「会費未納につき退会（会員資格喪失）」として処理するという事になった。

4. 次号『保健医療社会学論集』について

第12巻2号とすること、英文名に一時期ミスがあったこと、投稿資格は連名者も全員会員でなければならないとすることなどが確認された。

(総務担当理事 山崎喜比古)

Ⅲ. 第5回理事会報告

日本保健医療社会学会第5回 理事会 11月7日(水) 於東京医科歯科大学

出席：渋谷優子(学会長)、園田恭一、朝倉隆司、福島道子、山崎喜比古、
山本武志(学会事務局次長)

1. 第28回大会のメインテーマ、シンポジウム企画、教育講演、要望演題などについて、福島大会長より報告され、討議の上、了承された。また、大会プログラム・発表抄録集は『論集』の特別号として、大会開催前に全会員に学会として送付するという事になった。

2. 『保健医療社会学論集』について

第12巻第2号の編集状況が報告された。加えて、『論集』中の論文が手に入りにくい等の会員外からの声もあり、『論集』の普及、普及方法、大学図書館への依頼などについて早急検討し、次号から行うことが確認された。

3. 新入会員の承認について

9月14日以降10月31日までに入会申込のあった5名の新入会員が承認された。その年の大会での発表がらみで、演題の申し込みや抄録提出の受付が始まる1、2月以降に入会を申し込む者の年会費納入に関する扱い方について、討議され、従来方式で行くことが確認された。

4. 学会ニューズレターについて

次号(No.48)の内容と原稿分担について討議され確認された。

5. 定例研究会について

通し回数を使って第1回関東地区例会は日本保健医療社会学会第160回定例研究会とも、また第1回関西地区例会については同前第161回定例研究会とも呼称することが確認された。

(総務担当理事 山崎喜比古)

IV. 定例研究会のご案内

<163 回定例研究会>

日時：2002 年 1 月 25 日(金) 午後 6 時～8 時

場所：東京医科歯科大学医科新棟 (B 棟) 16 階小会議室 (予定)

報告者：林千冬 (群馬大学医学部助教授)

題目：看護と介護

<164 回定例研究会>

日時：2002 年 3 月 22 日(金) 午後 6 時～8 時

場所：東京医科歯科大学医科新棟 (B 棟) 16 階小会議室 (予定)

報告者：簗野脩一 (熊本学園大学教授)

題目：生命・健康・生活支援サービスの質

V. 関東地区定例研究会報告

1. 日本保健医療社会学会 160 回定例研究会

日時：9 月 21 日 (金) 18 時～20 時

場所：学士会館分館 6 号室

報告者：杉澤秀博氏 (東京都老人総合研究所)

題目：自治体保健福祉行政施策の評価の試み―世田谷・豊島調査事例を通して―

評価の対象としては、世田谷では「閉じこもりの予防サービス」、豊島では「介護保険制度」が取り上げられたが、両地区とも評価目的が不明瞭で、またマイナスの評価を行うことに対する関係者の抵抗が強いことが指摘され、さらには評価をすすめる費用も限られ、まだ十分な成果を挙げるには至っていないことが指摘された。

全体として、現時点では評価の枠組みや基準なども不統一で、多くの課題が残されていることが話し合われた。

参加者は報告者を入れて 26 名と盛会であった。

2. 日本保健医療社会学会 162 回定例研究会

日時：11 月 16 日 (金) 18 時～20 時

場所：東京医科歯科大学医科新棟 16 階小会議室

報告者：吉田澄江氏 (順天堂医療短期大学看護学科)

題目：看護職からの社会学への期待

報告者より、まず「ケアという現象」と「看護業務」、そして「看護という学問」は区別して取り上げることが必要だとする基本的前提にたつて、報告者自身の看護の学習、実習、そして臨床や教育の歩みが語られ、これらの過程を通しての社会学との接点や期待が述べられた。

討議では、学問としての看護等の確立なども論じられたが、それ以上に看護という

営みや実践の基本や核となるものをより明確にしていくことが大切という意見も出された。参加者は20名で予定の時間を超えて活発な議論が展開された。

(関東定例研究会担当理事 園田恭一)

VI. 看護研究部会報告と案内

1. 平成13年度前期活動報告

1) 看護社会学の学習会

前回のニューズレターNo.47でご案内しました年7回の定期研究会の開催計画により、前期では第2回を7月14日(土)日本赤十字看護大学、第3回を9月8日(土)東京医科歯科大学において午前10時から12時30分を実施し、結果は次の通りでした。看護社会学の学習会はメンバーの共通言語や認識をもつために文献の抄読会を行うことを通じて、さらに活動を発展させていくことにした。文献の一つは米本桂三著「看護の社会学」未来社とした。本著は看護社会学に興味を覚える人々にとり、素通りできない一度は手にしてみる貴重な著書である。著者は看護社会学の体系化を意図されていたが、志半ばで他界された。看護社会学の分野は未だ未確立であり、引き続ける教育、研究者の輩出することを期待し本部会としても寄与したいと考えている。

第2回は第一章看護社会学序説を報告者芦沢正見、第二章看護の社会学的研究を報告者清水準一により実施後討議を行った。第3回は第三章看護社会学対象領域と方法を報告者吉田澄江、中谷千鶴子により実施後討議を行った。第一章では看護の特異性として、倫理面、医師との関係性、チームワークを指摘し「看護婦」のための社会学を学問としてどのように捉えるかが議論となった。第二章では歴史の中で看護を捉え、戦後の病院組織としての問題、医学の発達に伴う看護問題から時代背景の看護状況を明らかにすることが指摘された。第三章では「看護社会学」固有領域とアプローチを確立するための理論的枠組みと方法論の形成過程の試みにおいて、看護現象を社会的にどのようにとらえるかの議論の必要性および「看護」を人間関係間の相互作用の観点から「状況的相互作用」の見方には共感するが、社会現象としての看護について、まず事実の検証をおこなうことの必要性を指摘された。何れも活発な討議に終始した。

2) 平成14年度の学会参加については検討中です。ご意見をお寄せ下さい。

看護研究部会は看護の社会学的研究の発展、交流および共同研究の推進をはかることを目的としています。入会ご希望者は看護研究部会事務局にご連絡下さい。

事務局：長江弘子(聖路加看護大学地域看護)

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

(看護研究部会長 渋谷優子)

Ⅶ. 「保健医療社会学論集」編集委員会からのお知らせ

① 保健社会学論集の英文名称の変更

年2回発行に伴い英文名称を「The Japanese Journal of Health and Medical Sociology」に変更いたします。

② 保健社会学論集第13巻1号の原稿を募集しています。

保健医療社会学論集が今年度より年2回発行する運びとなりました。現在、第12巻2号の原稿の編集を行っている最中です。編集事務がやや遅れており、会員の皆様には申し訳ありません。また、投稿原稿は年中受け付けていますが、第13巻1号に掲載を希望される場合は、査読がありますので、できるだけ早めに書き上げて下記の編集事務局まで、投稿規定に沿って原稿をお送り下さい。次号のニューズレターで、さらに詳しい情報を提供いたします。

また、インフォメーションのコーナーでは、当学会と関連が深い海外の学会や国際学会、国際会議の動向などをエッセイのような形式で構いませんので、掲載していきたいと考えています。そのような国際的な学会や会議に参加された会員の方々は、是非、積極的に他の会員の方々に情報提供して下さいようお願いします。短いものでも構いません。

③ 図書館等での論集購入のお願い

保健医療社会学論集は医学中央雑誌に取り上げられており、文献検索で論文を知ることができるのだが、その現物を手に入れにくいという問い合わせがときどききています。会員の皆様が所属される研究機関や教育機関で、論集の購入を是非検討していただけないでしょうか。編集委員会からのお願いです。論集の普及について、何らかの手段を講じる予定でいます。

④ 編集委員会事務局

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学 保健学(朝倉)研究室
保健医療社会学論集 編集委員会事務局

(論集担当理事 朝倉隆司)

<訂正とお詫び>

前回のニューズレターにおける編集委員の紹介欄で「西田真寿美(兵庫県立看護大学)」とありましたが、「西田真寿美(神戸市立看護大学)」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

Ⅷ. インフォメーション

学会ロゴの募集

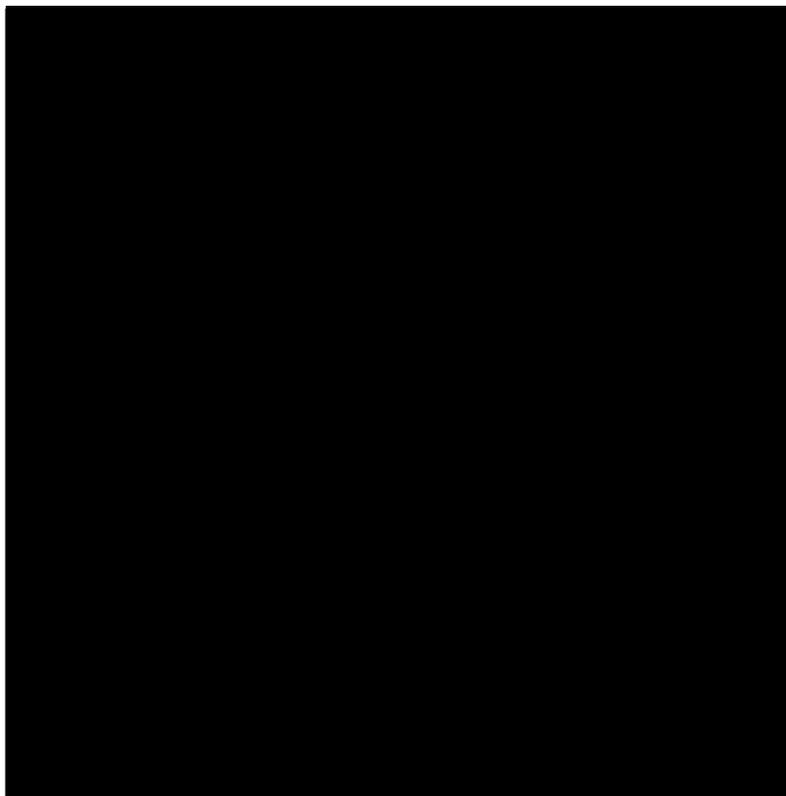
引き続き、当学会のイメージや特徴を表すようなデザインを募集しております。応募は学会事務局までお願いいたします。

IX. 会員の声

看護研究部会に入会して数年が過ぎました。今回、「会員の声」に登場させていただけることを嬉しく思ったのですが、さて何を書かせていただくかと思えば浮かびません。悩むうちに、なぜ私は看護研究部会に属しているのだろうか、と振り返る機会となりました。同じ職場で長く働いている私にとって社会学にふれたことは、あたりまえで違和感がない（少ない）と思っていた看護の世界を、自分なりに編み直していくきっかけを与えてくれました。例えば、質の高い看護を実践するためには基準に定められた人員数でも不十分であると感じていても、行動にうつすことはありませんでした。しかし、看護職の増員や労働条件を改善するには社会的・経済的評価の向上が必要であり、政策に働きかける必要があると痛感しています。そのためには、社会学という道具を使って、看護の成果を客観的に示したいと考えています。医療に携わるひとりとして積極的に参与し、看護集団を動かしていけたらと思い始めています。社会学的接近により看護の現象を追求していく方略を、看護研究部会の方々と探っていきたいと考えています。

（日本赤十字武蔵野短期大学 千葉京子）

X. 新入会員の紹介（敬称略）



（事務局 山本武志）

編集後記

秋の気配も深まり、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今回のニューズレターにおいては、来年開催される第28大会のアウトラインをお知らせしております。第28回大会の準備状況は、企画運営委員会を組織し、ここでプログラムの構成、シンポジストの交渉等を行い、あわただしくも創る楽しさを味わいながら進めています。

皆さん、どうぞ積極的に参加していただきたいと思います。

また、実りある大会となるよう、皆さんのご協力をいただきますようお願いいたします。

(福島道子)

日本保健医療社会学会ニューズレター No.49 2002/1/25

日本保健医療社会学会事務局
東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室内
東京都文京区本郷 7-3-1

(編集：福島 道子 発行：山崎 喜比古)

I. 第28回日本保健医療社会学会大会のお知らせ

第28回日本保健医療社会学会大会を下記の要領で開催いたします。

本大会のメインテーマとして、「ヒューマンサービスと保健医療社会学」を掲げました。保健・医療・看護・福祉等のさまざまなケア、ケア提供者、制度・政策を保健医療社会学の視点から見ると何が明らかになるのでしょうか。あるいは、現実のヒューマンサービスに対して、保健医療社会学はどのような貢献ができるのでしょうか。本大会においては、このような趣旨のもとに皆で交流し議論して参りたいと思います。

皆さまのご参加、お待ちしております。

また、非会員のご参加も歓迎いたしますので、どうぞお誘い合わせの上お越し下さい。

日 程：2002年5月18日(土)・19日(日)

会 場：日本赤十字看護大学(東京都渋谷区広尾4-1-3)

大会長：福島道子(日本赤十字看護大学 地域看護学教授)

プログラム：

5月18日(土)

9:20 開場、受付開始

10:00~12:00 一般演題セッション、要望演題セッション

13:30~14:30 一般演題セッション、要望演題セッション

14:40~15:10 大会長講演「地域づくりの看護実践」

福島 道子(日本赤十字看護大学) 司会：山手 茂(新潟医療福祉大学)

15:20~17:10 シンポジウムA「新しいケア提供者論」

司会：渋谷 優子(東京医科歯科大学) 山崎 喜比古(東京大学)

「チームアプローチの視点から」 鷹野 和美(広島県立保健福祉大学)

「ジェンダーの視点から」 山崎 裕二(日本赤十字武蔵野短期大学)

「ボランティアの視点から」 石川 到覚(大正大学)

17:20~17:50 総会

18:00～19:30 懇親会（会場：クロスガーデンけやき 日本赤十字社医療センター隣り）
当日も参加を受け付けますが準備の都合上、事前に同封の申込書にて大会事務局宛に、お申し込み下さい。

5月19日（日）

- 9:20 開場、受付開始
- 10:00～12:00 一般演題セッション、要望演題セッション
- 13:20～14:20 教育講演「感情労働と看護」
武井 麻子（日本赤十字看護大学） 司会：野口 裕二（東京学芸大学）
- 14:30～16:30 シンポジウムB「地域の保健力を育てる」
司会：長江 弘子（聖路加看護大学） 柳澤 尚代（新潟青陵大学）
「地域福祉の立場から」野口 定久（日本福祉大学）
「地域保健の立場から」岩永 俊博（国立公衆衛生院）
「地域看護の立場から」岡本 玲子（神戸大学）
指定発言：荘田 智彦（ノンフィクション作家）

○参加費：（当日申し受けます）

大会参加費 学会員 4,000 円、学会員(学生)3,000 円、非会員 6,000 円、
非会員(学生)4,000 円

懇親会費 一般 4,000 円、学生 2,000 円

○演題募集：

- ・本大会は「一般演題」と「要望演題」を募集します。
- ・「要望演題」は、特に現在の緊急課題や話題を取り上げて、皆さんに議論し交流していただきたいと設けました。

<要望演題>

1. 虐待、暴力、引きこもりへのアプローチ
2. ヘルスプロモーションの再検討
3. 評価研究の展開
4. ケア提供者の探求
5. 医療技術・政策

上記の内容について、積極的に、またお気軽に発表していただきたいと思います。

○演題の発表形式：

- ・1 演題につき、発表 12 分、質疑 8 分の予定です。
- ・発表の際は、スライドもしくはOHPを使うことができます（パソコンは不可）。

使用を希望する場合は、演題申し込み書の該当個所に○をつけて下さい。

- ・ OHPサポートは各自でお願いします。
- ・ 配布資料がある場合は各自用意し、当日、会場で配布して下さい。
- ・ 発表日時は4月にお送りする抄録集に載ります。各自で確認して下さい。

○演題申し込み方法：

- ・ 申し込み方法は「一般演題」「要望演題」とも同じです。
なお、「一般演題」で申し込まれた場合でも「要望演題」セッションで発表していただくことがありますので、ご了承下さい。
- ・ 発表資格は、研究者、共同研究者とも会員であることが必要です。会員でない方は、大会までに入会手続きを済ませて下さい。入会手続き先は、学会事務局（東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室）までお願いします。
- ・ 発表抄録を下記の要領で作成し、大会事務局まで郵送して下さい。
提出期日：2002年2月28日（木）必着
抄録形式：A4判1枚、ワープロ横書き、40字×40行、明朝体
上下30mm 左右25mmの余白、演題を第1行中央寄せで、氏名（所属）を第3行に右寄せで、本文は第5行から始めて下さい。連名の場合は、発表者に○をつけて下さい。
なお、抄録は抄録集の段階でB5判に縮小されますので、文字や図表の大きさに注意して下さい。
- ・ 演題申し込み書、原本1部、コピー1部の計2部と、フロッピーディスクをお送り下さい（FDは返却しません）。お手元に「演題申し込み書」がない場合は、大会事務局（日本赤十字看護大学内）に請求して下さい。
- ・ 大会事務局は、抄録を頂戴した時点で、受理した旨の葉書を郵送します。

○懇親会申し込み方法：

- ・ 当日の参加申し込み可能ですが、準備の都合上、なるべく同封の「懇親会申込書」にてお申し込み下さい（3月末迄）。
- ・ お手元に「懇親会申込書」がない場合は、氏名、所属を明記して、ファクシミリにて大会事務局に申し込んで下さい。

大会事務局：〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学地域看護学福島研究室

TEL. [REDACTED] FAX. [REDACTED]

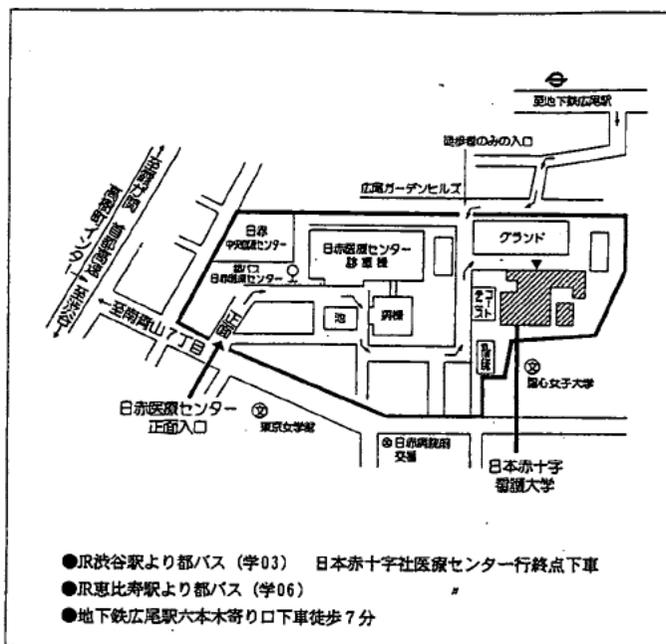
学会事務局（学会入会の問合わせ）：

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室

TEL. [REDACTED] FAX. [REDACTED]

○大会会場周辺図



(第28回大会長 福島道子)

Ⅱ. 第6回 理事会報告

日本保健医療社会学会 第6回 理事会 2002年1月11日(金) 於 東京医科歯科大学

出席：渋谷優子(学会長)、園田恭一、福島道子、黒田浩一郎、野口裕二、山崎喜比古、山本武志(学会事務局次長)

1) 第28回大会について

大会企画運営委員会で決まった大会プログラムや一般演題と要望演題の募集方法などについて、大会長(福島理事)より報告があり、了承された。

2) 定例研究会について

関東地区例会、関西地区例会それぞれの担当理事(園田理事、黒田理事)より3月の予定を含めて報告があり、了承された。

3) 学会誌の編集と発行について

年2回発行化以降初めての学会誌が印刷中であること、投稿規程中の英文アブストラクトに関する規程等を一部変更すること、今後は6月と12月の発行をめざすことなどが機関誌担当理事(野口理事)より報告され、了承された。

4) 新入会員の承認について

今回は、持ち回りで承認することになった。

5) 退会者の取り扱いについて

退会希望年度まで年会費を納入済みの退会希望者については、年度末までの退会希望日をもっての退会を理事会において承認し、今年3月末で5年以上の年会費未納者になる者については、年度末の理事会において、会員資格喪失による退会者として承認し公表すること、その後は、会員資格喪失による退会の要件である滞納期間を短くする旨、確認された。

6) ニュースレターについて

次号 (No. 49) の内容について、広報担当理事 (福島理事) より報告があり、会員からの情報やお知らせを積極的に受け付けることを含めて、了承、確認された。

7) その他

学会への他学会等他機関からの企画等についての広報・宣伝の依頼にどのように対応するのかについて討議された。

8) 次回理事会について

3月18日 (月) 6時～ 於 東京医科歯科大学

(総務担当理事 山崎喜比古)

Ⅲ. 関東地区定例研究会の案内

<164 回定例研究会>

日時：2002年3月22日 (金) 午後6時～8時

場所：東京医科歯科大学医科新棟 (B棟) 16階小会議室 (予定)

報告者：旗野脩一 (熊本学園大学教授)

題目：生命・健康・生活支援サービスの質

(関東地区定例研究会担当理事 園田恭一)

Ⅳ. 関西地区定例研究会報告と案内

1) 第165回定例研究会のご案内

日時：2002年3月30日 (土) 午後2時～5時

場所：未定 (大阪市梅田駅 (大阪駅) 付近を予定)

内容：著者の田口宏昭氏 (熊本大学教授) を囲んで、『病氣と医療の社会学』(世界思想社、2001年)の書評セッションを行い、それを通して、健康文化、医師-患者関係、臨死患者の医療、ホスピス、医師の専門職化、医薬分業などのテーマについてディスカッションを行う。

2) 関西地区定例研究会報告

日本保健医療社会学会第161回定例研究会

日時 2001年9月29日 (土) 午後2時～6時

場所：山西福祉記念会館

報告者：野村一夫（國學院大学経済学部教授）

題目：健康主義的思考とは何か——社会構築主義的接近

今日における健康情報環境の問題、それに対する社会構築主義的アプローチの必要性、「健康言説」研究の課題、健康関連新聞折込広告についての調査（健康主義的思考の類型学）について発表があった。これに関連して、医療社会学における社会構築主義に対して体系的な批判を展開したことで有名な論文、M. R. Bury, "Social constructionism and the development of medical sociology," *Sociology of Health and Illness*, 8(2), 1986 を黒田浩一郎（龍谷大学社会学部）が紹介した。

参加者は報告者を入れて 19 名であった。関西地区定例研究会の初回としてはまずまずの集まりというべきであろう。

（関西地区定例研究会担当理事 黒田浩一郎）

V. 看護研究部会活動報告

1) 臨時総会は 12 月 15 日（土）東京医科歯科大学で開催され、以下の通りであった。

①会計報告が承認された（2000 年度、2001 年度）。

②2002 年度の新役員選挙の選挙管理委員（中村美鈴、千葉京子）が承認され事務局と準備を進めることになった。

③役員選挙は 2 月に実施する。

④定例総会 3 月 16 日とする。

2) 看護社会学の学習会

学習会はメンバーの共通言語や認識を持つために主たる看護社会学書、医療社会学学書を読み、討議し今日の課題を見出す。11 月 24 日（土）、東京医科歯科大学で開催した。前回に引き続き米山桂三著『看護の社会学』（未来社）の第 5 章 看護婦の社会的地位を千葉京子による報告、付録 1 楽しく働くには等を中村美鈴による報告、付録 2 看護の社会学について福島道子による報告がなされ、興味深い有意義な討議が展開された。本書の最終まとめにおいて、著者は看護社会学の体系化を意図されていたが、不幸にして志半ばで他界され 8 年後に出版された。1960 年代から 1970 年代の研究資料であり、当時の状況を理解した上で現在なお問題であるとして共有できる課題が見い出せた。看護者としてのアイデンティティが不十分である、看護職の地位、役割、対人関係について今後も追求されること、看護社会学は看護状況（看護において様々な環境との複雑な関係から生じる現象）を拠り所として理論化するので、看護の専門性に依拠した看護状況の設定を図り、社会学視点で看護を探求することが課題である。

12 月 15 日（土）、東京医科歯科大学で開催した学習会では、今回から 1970 年代以降の医療社会学に多大な影響を与え続けてきたフリードマン著、新藤雄三、宝月誠訳『医療と専門家支配』（恒星社恒星閣）を取り上げた。序章 医療社会学における実質的諸問題、第 1 部 医療ケアの社会的アプローチ、第 1 章 医療社会学の現状、第 2 章 医療ケアの構造的アプ

ローチを細田満和子による報告がなされた。これまでの日本における医療社会学の系譜と、今後の医療社会学の展望までを射程に入れた討議が行われた。今後研究すべき実際の課題についての討議が深められた。

看護社会学部会は看護の社会学的研究の発展、交流および共同研究の推進をはかることを目的としています。入会ご希望者は看護研究部会事務局にご連絡下さい。

事務局：長江弘子（聖路加看護大学地域看護）

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 TEL&FAX [REDACTED]

（看護研究部会長 渋谷優子）

VI. 編集委員会からのお知らせ

保健医療社会学論集は今年度より年2回の発行となり、その記念すべき第12巻2号がようやく発行されました。編集作業に手間取って発行が遅れ、とくに執筆者の方々にご心配をおかけしましたことを詫び申し上げます。

今回の号から、論文の体裁を一部変更しました。これにともない、投稿規程と執筆要領の一部を改変いたしましたので、今後投稿を希望なさる方はご注意ください。

本誌の発行月は6月と12月です。投稿は随時受け付けておりますが、査読と修正に時間を要する場合がありますので、2月末、または、8月末を一応の目安にご投稿いただくようお願いいたします。

年2回発行の最大のメリットは、これまでより多くの論文を掲載可能であること、および、投稿から掲載までの日数を減らせることです。この2つのメリットを十分生かしていただければと思います。

会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

（機関誌担当理事 野口裕二）

VII. インフォメーション

1. 日本健康科学学会2002シンポジウム

- ・保健・医療・福祉情報の共有と活用 ーより質の高いサービスを提供するためにー
- ・保健・医療における保健機能食品等の活用

開催日：平成14年3月8日（金）

場所：ホテルグランドヒル市ヶ谷（新宿区市谷本村町4-1）

問い合わせ先：シンポジウム事務局（Tel：[REDACTED]，Fax：[REDACTED]，

E-mail：[REDACTED]

2. 第43回日本社会医学学会総会のお知らせ

2002年7月27日～28日（土・日）、於 東京都江東区文化センター

最寄り駅：地下鉄東西線東陽町駅

総会事務局： 東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室

企画運営委員長：山崎喜比古（東京大学大学院）Tel：[REDACTED] Fax：0 [REDACTED]

テーマ： 健康基本法・健康増進法、健康づくり、都市環境問題、
保健所医師の資質問題

などがあがっているが、会員からの積極的な提案を期待している。

学会の沿革： 学会理事長は上畑鉄之丞先生（国立公衆衛生院）。会員数約 500 名。

2000 年の総会は黒田研二先生（大阪府立大学社会福祉学部）が世話し、2001 年の総会は田村昭彦先生（九州社会医学研究所）を責任者として開かれ、「介護保険と人権」「メンタルヘルス対策と支援のあり方」の 2 つのシンポジウムと一般口演セッションなどが行われた。

（総務理事 山崎喜比古）

VIII. 新入会員の紹介（敬称略）

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

（学会事務局 山本武志）

編集後記

皆様、新しい年、いかがお過ごしでしょうか。

本年も会員にさまざまな情報提供・交換・交流の場をめざしてニュースレターを編集していきます。会員からの投稿も積極的に載せていきたいと思っておりますので、「会員の声」欄への投稿、学会や研究会の告知、最近出版した著書の紹介などお寄せ下さい。投稿の方法は、郵送、ファクシミリ、Eメールが可能です。

郵送：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内

日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子

FAX. [REDACTED]

（日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子）

Eメール： [REDACTED]

なお、紙面の都合等により、原稿の採否、若干の修正は当方にご一任願います。

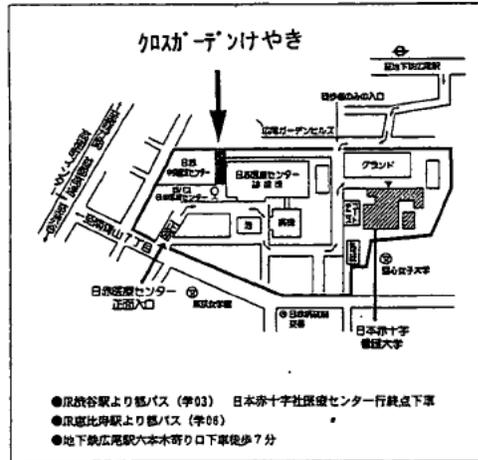
（福島道子）

第28回 日本保健医療社会学会 懇親会申込書

第28回 日本保健医療社会学会懇親会を下記日時にて開催いたしますので、
 会員のみならず、会員外の方々のご参加もお待ち申し上げます。なお、参加ご希望の方は
 申込書にご記入の上、下記大会事務局までお申し込み下さい。

記

懇親会開催日時：2002年5月18日（土）18：00～20：00
 場所：クロスガーデンけやき（日赤医療センター隣り）



会費：当日会場受付にて申し受けます。

学会員・非学会員4,000円、

学生学会員・学生非学会員2,000円

懇親会申し込みFAX連絡先：〒150-0012東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学地域看護学福島研究室

FAX: [REDACTED]

懇親会申込書

(ふりがな)

懇親会参加ご希望者氏名：

連絡先	* 下記のいずれか確実に連絡の付く所に○印をつけご記入下さい。	
	1. 自宅	
	2. 勤務先 (名称：)	
	住所 (〒 -)	
電話 ()	FAX ()	
E-mail:		

日本保健医療社会学会ニュースレター No. 50 2002/4/19

日本保健医療社会学会事務局
東京大学大学院医学系研究科健康社会学研究室内

東京都文京区本郷 7-3-1

(編集：福島 道子 発行：山崎 喜比古)

I. 第28回日本保健医療社会学会大会のお知らせ

第28回日本保健医療社会学会大会のプログラムは、すでにニュースレターNo. 49 でご案内していますが、再度お知らせいたします。

皆さまのご参加、心よりお待ちしております。

また、非会員のご参加も歓迎いたしますので、どうぞお誘い合わせの上お越し下さい。

メインテーマ：「ヒューマンサービスと保健医療社会学」

日 程：2002年5月18日(土)・19日(日)

会 場：日本赤十字看護大学(東京都渋谷区広尾4-1-3)

大会長：福島道子(日本赤十字看護大学 地域看護学教授)

プログラム：

5月18日(土)

9:20 開場、受付開始

10:00~12:00 一般演題セッション、要望演題セッション

13:30~14:30 一般演題セッション、要望演題セッション

14:40~15:10 大会長講演「地域づくりの看護実践」

福島 道子(日本赤十字看護大学)

司会：山手 茂(新潟医療福祉大学)

15:20~17:10 シンポジウムA「新しいケア提供者論」

司会：渋谷 優子(東京医科歯科大学) 山崎 喜比古(東京大学)

「チームアプローチの視点から」鷹野 和美(広島県立保健福祉大学)

「ジェンダーの視点から」山崎 裕二(日本赤十字武蔵野短期大学)

「ボランティアの視点から」石川 到覚(大正大学)

17:20~17:50 総会

18:00~19:30 懇親会

会場：クロスガーデンけやき(日本赤十字社医療センター隣り)

5月19日(日)

- 9:20 開場、受付開始
- 10:00~12:00 一般演題セッション、要望演題セッション
- 13:20~14:20 教育講演「感情労働と看護」
武井 麻子(日本赤十字看護大学)
司会:野口 裕二(東京学芸大学)
- 14:30~16:30 シンポジウムB「地域の保健力を育てる」
司会:長江 弘子(聖路加看護大学) 柳澤 尚代(新潟青陵大学)
「地域福祉の立場から」野口 定久(日本福祉大学)
「地域保健の立場から」岩永 俊博(国立公衆衛生院)
「地域看護の立場から」岡本 玲子(神戸大学)
指定発言:荘田 智彦(ノンフィクション作家)

参加費:(当日申し受けます)

- 大会参加費 学会員 4,000 円、学会員(学生)3,000 円
非会員 6,000 円、非会員(学生)4,000 円
懇親会費 一般 4,000 円、学生 2,000 円

大会事務局:〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3
日本赤十字看護大学地域看護学福島研究室
TEL. [REDACTED] FAX. [REDACTED]

学会事務局(学会入会の問合わせ):
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室
TEL. [REDACTED] FAX. [REDACTED]

◆なお、プログラムの時間配分などは、4月配布の抄録集でご確認ください。

(第28回大会長 福島道子)

II. 第7回 理事会報告

日本保健医療社会学会 第7回 理事会 2002年3月18日(金) 於 東京医科歯科大学
出席:渋谷優子(学会長)、朝倉隆司、黒田浩一郎、山崎喜比古、山本武志(学会事務局次長)

1. 第28回大会について

福島大会長に代わって企画運営委員としての山崎理事より、ポスターとプログラム概要を会員その他に送付したこと、演題と抄録の集まり状況は、各口演セッションを設け座長を依頼・交渉中であること、発表資格をチェックし非会員には入会と会費の請求を行う予定であることなど、準備状況が報告された。

2. 定例研究会と研究部会について

関東地区例会の開催予定が欠席の園田理事からは文書で、関西地区例会については黒田理事

から口頭にて報告された。

看護研究部会の現状が渋谷学会長から報告され、討議の結果、部会には今年度は1万円の補助を行うことが承認され、次期予算には活動実績等をふまえて計上することになった。

3. 学会誌の編集と発行等について

朝倉理事より、第12巻2号の反省として、編集に思いのほか時間と手がかかったこと、次号への投稿等原稿の集まり状況などが報告され、ここ1ヶ月以内にも投稿原稿の募集を強めることが確認された。また、第28回大会報告・発表抄録集を第13巻特別号にする件について承認されるとともに、学会誌の年間購読料方式への切り替えや大学や研究機関への普及について来たる総会で提案することが確認された。

4. 新入会員の承認ならびに退会者の確認について

新入会員と退会者は別項のとおりである。

また、退会者の取り扱いについて、前回理事会での確認事項「退会希望年度まで年会費を納入済みの退会希望者については、年度末までの退会希望日をもつての退会を理事会において承認し、今年3月末で5年以上の年会費未納者になる者については、年度末の理事会において、会員資格喪失による退会者として承認し公表すること、その後は、会員資格喪失による退会の要件である滞納期間を短くする旨」が再確認された。

5. 学会の財政状況について

山本事務局次長より、学会の財政状況について報告があり、年会費の徴収に引き続き努める必要性や、未払い金の当面の取り扱い方について討議され確認された。

6. ニュースレターについて

4月発行のニュースレターの内容について欠席の福島理事から文書による報告、提案があり、3月中の原稿提出、原稿集めが肝要であることが確認された。

7. 28回大会時学会総会に向けた審議事項

次回理事会では、28回大会時学会総会に提案または報告するために、28回大会の予算および経費概況、次期(29回)大会の開催地・開催校、学会総会の定足数問題、名誉会員の推挙、学会誌の購読料・投稿料および普及の問題が討議されなければならないことが確認された。

8. 次回理事会について

5月9日(木) 6時～8時 東京医科歯科大にて開催することになった。

(総務担当理事 山崎喜比古)

Ⅲ. 第165回定例研究会(第2回関西地区研究会) 報告および関西地区研究会の今後の予定
日時: 2002年3月30日(土) 午後2時～5時

場所: 山西福祉記念会館

田口宏昭著『病氣と医療の社会学』(世界思想社、2001年)の合評会という形で研究会を行

った。著者の田口氏（熊本大学文学部）には研究会にお越しいただいた。本書を以下のように4つのテーマに分け、それぞれに評者を配し、テーマごとに、評者のコメント、著者によるレスポンス、フロアーを交えてのディスカッションと進めていった。

テーマ1：健康および死をめぐる文化（第1章、第3章）

評者：黒田浩一郎（龍谷大学社会学部）

テーマ2：医療専門職（第8章、第9章）

評者：進藤雄三（大阪市大文学部）

テーマ3：病院における医師—患者関係（第2章、第4章）

評者：小川圭子（甲南女子大学）

テーマ4：ターミナルケアとホスピス（第5章～第6章）

評者：村岡潔（仏教大学文学部）

参加者は24名。活発な議論が交わされた。設定したテーマが広すぎたこと、3時間しか時間をとっていなかったこと、司会の進行が時間配分の点で手際よくなかったことが反省点である。

なお、2002年度は、9月下旬の土曜日、3月下旬の土曜日の2回を予定している。発表を希望される方は黒田までご連絡を XXXXXXXXXX。

（関西地区定例研究会担当理事 黒田浩一郎）

IV. 編集委員会からのお知らせ—投稿論文募集中（急募！）—

次号の論集は6月発行が目標です。年2回の発行を実現するためには、会員の皆様からの原稿がぜひとも必要です。この機会に、皆様の内で眠っているテーマを論文にされてはいかがでしょうか？

（論集編集委員会）

V. 会員の声

この頃、重度の障害を持って生まれてきた新生児の医療ケアをテーマに、医学、看護学、心理学、医事法、生命倫理の専門家といわれる人たちと共同で討議を行っている。私にとって新生児医療の場は馴染みの薄いところであったので、昨年の秋から新生児集中治療室（NICU）でのフィールドワークを始めた。そこではまず、600グラム位のまるで手のひらの上に乗るような赤ちゃんが生きようとしている姿を目のあたりにして驚きを感じた。だがさらに、新生児が重度の障害を持っている場合、医療者が手術などの治療をした方がよいと判断したときでも親によって治療が「拒否」され、治療をすれば助かる生命が救えないケースが少なくなく存在するという事に衝撃を覚えた。共同の討議では、こうした医療上の倫理的といわれる問題に対して、医師や看護師や臨床心理士が臨床的立場から議論し、法律家が児童福祉相談所の利用や親の承諾なしに治療をするときの法的手続きを議論し、生命倫理学者が「最善の利益」といった概念から議論している。ここでは、社会学研究者としての自分は、こうした問題にどのような貢献ができるのかという問いを、いつも突きつけられている。

ルネ・アンスパックは16か月に及ぶNICUでのフィールドリサーチを元に、1993年に『誰

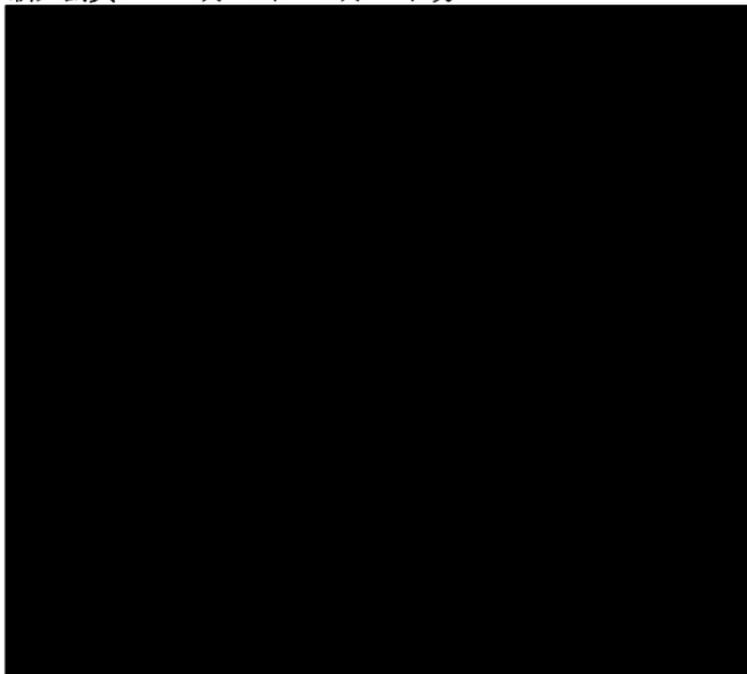
が生きるかを定める (Deciding Who Lives)』を著した (ちなみにこの本は 1996 年度アメリカ社会学会ロバート・マートン賞を受賞している)。そこでは赤ちゃんの生死に関わる重要な意思決定のプロセスで生じる、医療者と親あるいは医療者同士のジレンマや承諾・不承諾という問題が、倫理的原理と実践の双方の視点から論じられている。この業績は、医療において倫理的といわれる問題に社会学が介入する時のひとつの方向性を示してくれる。これをヒントに、日本という社会における、親による「治療拒否」という問題の構制のされ方を見極め、法的・倫理的原則と臨床的実践の乖離を指摘し、その間を繋ぐ道筋を見出していくことを、社会学研究者としての自分のできる貢献と考えたい。

細田満和子

所属：日本学術振興会特別研究員（東京大学）メールアドレス： 

VI. 会員の紹介（敬称略）

<新入会員> 11月20日～3月11日分



<退会者>


 (日本保健医療社会学会 学会事務局 山本武志)

VII. インフォメーション

1. 最近著書

- ・ 岩森龍夫他著「経営学の世紀」千倉書房
- ・ 岩森龍夫他著「人事マネジメントのケースと理論」五絃舎
- ・ 岩森龍夫他著「人材開発システム」全日本法規 (岩森龍夫)

2. 日本地域看護学会

- ・ 日時：平成14年6月22日（土）～23日（日）
- ・ 会場：高知県立県民文化ホール 高知市本町4-3-30
(JR高知駅より路面電車で15分)

- ・ メインテーマ：「住民とともに創造する地域看護活動」
- ・ 申し込み・問い合わせ先

高知女子大学看護学部看護学科第5回日本地域看護学会学術集会事務局

〒781-0111 高知市池2751-1 TEL&FAX: [REDACTED]

E-mail [REDACTED]

URL: <http://square.umin.ac.jp/comns5/>

(福島道子)

編集後記

昨日、当方では歴史始まって以来の珍事が起きました。子育ての季節、小さな新しい命は外敵に狙われる時期でもあります。

東京で、ふてぶてしく生きているカラスが、子猫を襲撃したために、驚いた子猫は松の木に登りました。カラスは仲間を集めてさらに子猫を襲います。一体何故襲っているのか分からないのですが、子猫はしっぽをカラスにつつかれ、ギャーギャー泣いています。発見した寮の管理人さんや学生が騒いでいると、教員たちも集まり、さて、どうやって救出するか……。子猫はおびえてどンドン木の上に上り、はや3時間もたちました。

現れたのは恵比寿の消防車……。ところが、届かないのです。梯子が……。(なんとあわれ) その木は広尾の大地に深く根をはって、大きく高く成長していたので、ビルの4階ぐらいでしょうか。時間稼ぎにテニスボールでカラスを威嚇する学生なども現れ、大騒ぎ……。そろそろ夕刻の17時……。なんとレスキュー隊が到着！彼らの梯子車はみるみるその救いの手を伸ばし、隊員が子猫に触れた瞬間！子猫はまさかさまに落ちたのです。あわや……。と言うところで、木の下の子猫たちは、張っていたネットの位置をすぐさま修正し、子猫はネットの真ん中に落ちました。一段と高い黄色の悲鳴と安堵の溜息が、拍手とともに歓声に変わりました。

さて、インフォメーション・コーナを設けていますので、「会員の声」欄への投稿、学会や研究会の告知、最近出版した著書の紹介などお寄せ下さい。投稿の方法は、郵送、ファクシミリ、Eメールが可能です。

郵送：〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内

FAX: [REDACTED]

日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子

Eメール: [REDACTED]

なお、紙面の都合等により、原稿の採否、若干の修正は当方にご一任願います。

(平山香代子)

日本保健医療社会学会ニュースレター No. 51 2002/9/13

日本保健医療社会学会（事務局）
東京大学大学院医学系研究科健康社会学研究室内
東京都文京区本郷7-3-1
（編集：福島 道子 発行：山崎 喜比古）

I. 第28回大会を終えて

平成14年5月18～19日、日本赤十字看護大学において第28回大会を開催しました。

参加者は、会員129人（一般104人、学生25人）、非会員78人であり、これに報道関係者と当日アルバイトを加えると229人でした。開催地が東京であったことを考えると、非会員の参加が必ずしも多かったとは言えず、広報活動をより積極的に行うべきであったと反省しています。

大会運営という点で、今回は次のような新しい試みをいたしました。ひとつには大学にまたがった複数体制の企画運営委員会を組織して臨み、この中に本学会から2人、委員として入っていただきました。このことによって膨大な準備作業が分散され、本学会との健楽がスムーズとなりました。また、今回の新しい試みとして展示・書籍コーナーを設けたり、抄録集に出版社の広告を載せ、相当額の収益を得ました。集会としての体裁を整え、かつ可能な限り参加費をおさえるために、今後も継続してはどうかと思います。さらに、従来抄録集は大会参加者のみに配布してきたのですが、本大会では事前に全会員に郵送しました。当日の運営は、企画運営委員のみならず、会員（特に、看護研究部会員）、日赤看護大学学生の協力を得ました。十分な指揮もなくこれだけの運営ができたことは、各々の自立した動きのためものと感謝しています。

プログラムとしてはメインテーマ「ヒューマンサービスと保健医療社会学」を掲げ、これに基づいて、シンポジウムA「新しいケア提供者論」、シンポジウムB「地域の保健力を育てる」、教育講演「感情労働と看護」、会長講演「地域づくりの看護実践」で構成しました。また、募集演題は一般演題と要望演題とに分けて行い、計37題の発表をしていただきました。各会場で盛んな意見交換がなされ、一貫したプログラム構成であった等、好評を得ました。

最後に、大会長を務めさせていただき、私自身、大きなそして有意義な学びをさせていただきました。本大会運営に共に汗を流して下さった企画運営委員をはじめ多くの方々に、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

（第28回大会長 福島道子）

II. 第29回大会について

1. 大会案内

来年度の大会は、5月17日（土）、18日（日）の両日、龍谷大学で開催されます。龍谷大学は、深草学舎、大宮学舎、瀬田学舎の3学舎に分かれており、私の所属する社会学部は瀬田学舎にあります。しかし、会場としては、瀬田学舎ではなく、大宮学舎を使うことにいたしました。大宮学舎は龍谷大学発祥の地であり、西本願寺に付設する格好で建てられています。また、JRの京都駅から歩いて15分ほどの距離です。こうした点を考慮して、大宮学舎に決しました。

私はこれまで、このような大会をお引き受けした経験がありません。また、龍谷大学には私以外に日本保健医療社会学会の会員がいません。そこで、関西在住の学会員の方々のご協力を仰ぎながら、大会の企画と運営を進めていくつもりです。ご協力のほど、よろしく

お願いいたします。

日本保健医療社会学会が関東以外の地で開催されるのはこれで2度目となります。1度目は1999年、奈良女子大学で開催された第26回大会です。当学会は、会員数400名以上の全国学会であり、それにふさわしく、大会を定期的に関東以外の地で開催するという構想があります。したがって、この構想が実現するか否かは、次回大会が成功するか否かに大きく関わっています。来年度の大会をおひきうけするにあたって、この責任の重大さを痛感するとともに、大会の成功に向けて、学会員の方々のご協力（つまり、大会への参加と発表）をぜひお願いする所です。

それでは、まず来年度の大会の日時と場所をスケジュール帳にご記入ください。そして、参加と発表のご準備のほど、重ねてよろしくお願いいたします。

(龍谷大学 黒田浩一郎)

2. 第28回日本保健医療社会学会大会の成果と次回に向けて

第28回日本保健医療社会学会大会は、福島道子大会長により日本赤十字看護大学で2002年5月18日(土)、19日(日)開催されました。本大会は学会体制や財源確保の在り方が問われ、検討されて開催に至りました。従来では、一大学の協力体制による大会開催でしたが、今回は四大学の協力体制の大会準備の検討から、更に6名の企画委員と2名の事務局の協力体制で大会の企画や準備を進めました。大会長、事務局理事をはじめ、理事会、会員の皆様のご協力により盛会な大会を開催することができました。大会長の保健・医療・福祉のサービスとケア提供者について深めたいとの思いは、今日的課題でありその成果に敬意を表したいと思います。

第29回日本保健医療社会学会大会は、2003年5月17日、18日の予定で黒田浩一郎理事による龍谷大学で開催致します。医療社会学の立場の黒田氏による学会に期待し、多くの皆様のご参加をお願い致します。

(学会長 渋谷優子)

III. 理事会・総会報告

1. 日本保健医療社会学会第7回 理事会

2002年3月18日(金) 於 東京医科歯科大学

出席：渋谷優子(学会長)、朝倉隆司、黒田浩一郎、山崎喜比古、山本武志(学会事務局次長)

● 第28回大会について

福島大会長に代わって企画運営委員としての山崎理事より、ポスターとプログラム概要を会員その他に送付したこと、演題と抄録の集まり状況は、各口演セッションを設け座長を依頼・交渉中であること、発表資格をチェックし非会員には入会と会費の請求を行う予定であることなど、準備状況が報告された。

● 定例研究会と研究部会について

関東地区例会の開催予定が欠席の園田理事からは文書で、関西地区例会については黒田理事から口頭にて報告された。

看護研究部会の現状が渋谷学会長から報告され、討議の結果、部会には今年度は1万円の補助を行うことが承認され、次期予算には活動実績等をふまえて計上することになった。

● 学会誌の編集と発行等について

朝倉理事より、第12巻2号の反省として、編集に思いのほか時間と手がかかったこと、次号への投稿等原稿の集まり状況などが報告され、ここ1ヶ月以内にも投稿原稿の募集を強めることが確認された。また、第28回大会報告・発表抄録集を第13巻特別号にする件について承認されるとともに、学会誌の年間購読料方式への切り替えや大学や研究機関への普及について来たる総会で提案することが確認された。

● 新入会員の承認ならびに退会者の確認について

新入会員と退会者は別項のとおりである。

また、退会者の取り扱いについて、前回理事会での確認事項「退会希望年度まで年会費を納入済みの退会希望者については、年度末までの退会希望日をもっての退会を理事会において承認し、今年3月末で5年以上の年会費未納者になる者については、年度末の理事会において、会員資格喪失による退会者として承認し公表すること、その後は、会員資格喪失による退会の要件である滞納期間を短くする旨」が再確認された。

● 学会の財政状況について

山本事務局長より、学会の財政状況について報告があり、年会費の徴収に引き続き努める必要性や、未払い金の当面の取り扱い方について討議され確認された。

● ニュースレターについて

4月発行のニュースレターの内容について欠席の福島理事から文書による報告、提案があり、3月中の原稿提出、原稿集めが肝要であることが確認された。

● 28回大会時学会総会に向けた審議事項

次回理事会では、28回大会時学会総会に提案または報告するために、28回大会の予算および経費概況、次期(29回)大会の開催地・開催校、学会総会の定数問題、名誉会員の推挙、学会誌の購読料・投稿料および普及の問題が討議されなければならないことが確認された。

● 次回理事会について

5月9日(木) 6時～8時 東京医科歯科大にて開催することになった。

(総務担当理事 山崎喜比古)

2. 日本保健医療社会学会 第9回 理事会

2002年5月9日(木) 於 東京医科歯科大学

出席：渋谷優子(学会長)、福島道子、園田恭一、黒田浩一郎、野口裕二、山崎喜比古、山本武志(学会事務局次長)

第28回大会時学会総会に報告、提案すべき事項について討議し決定した。

3. 第28回保健医療社会学会総会次第と報告

● 学会長 挨拶

● 議長選出

● 第1号議案 2001(平成13)年度事業報告

① 日本保健医療社会学会大会・総会の開催について

- ・第27回大会(東京大学、2001年5月)の開催。
- ・第28回大会(日赤看護大、2002年5月)の準備。

② 保健医療社会学論集について

- ・学会大会抄録集を論集の特別号にする件。

③ 定例研究会・研究部会について

- ・定例研究会－関東4回、関西2回開催。
- ・看護研究部会の活動と学会からの若干の財政的支援。

④ 日本保健医療社会学会ニュースレターについて

- ・ここ1年間の4号分の発行と編集方針。

⑤ 会員名簿の発行

- ・2001年5月の大会時に発行(2年ごと)。

⑥ 入退会の取り扱いについて

- ・5年以上滞納者は、資格喪失による退会者として承認・公表、どのようなペナルティを課すかは今後検討。この滞納期間は漸次ゆくゆくは3年にする。

- ⑦ 論集の販売額について
 - ・ 会員外定期購読：特別号を含む1年分1万円。バラでは原則として販売しないが、例外的に販売する場合には1部3000円。但し特別号は1部1000円。
- ⑧ その他
 - ・ 学会事務局＝東大大学院健康社会学にしばらくおく。
 - ・ 事務局次長を設け、理事会にオブザーバー参加してもらう。
- 第2号議案 2001（平成13）年度決算報告（下表参照）

日本保健医療社会学会2001年度決算報告書

自2001年4月1日 至2002年3月31日

単位：円

収入の部				支出の部			
	予算額	決算額	差異		予算額	決算額	差異
前期繰越金	643,011	643,011	0	論集編集謝金	100,000	50,000	50,000
会費収入	2,270,000	2,324,000	54,000	郵送費	386,000	294,300	91,700
学会誌刊行物売上	30,000	115,000	85,000	印刷製本費	800,000	1,118,250	△ 318,250
受取利息	300	340	40	事務局・広報謝金	350,000	349,700	300
				名簿発行費	90,000	84,000	6,000
				消耗品費	50,000	129,650	△ 79,650
				会議費	20,000	19,181	819
				交通費	135,000	108,180	26,820
				部会・研究会活動補助費	720,000	704,200	15,800
				その他(振込手数料等)		5,320	△ 5,320
				予備費	292,311	219,570	72,741
合計	2,943,311	3,082,351	139,040	合計	2,943,311	3,082,351	△ 139,040

- 第3号議案 2002（平成14）年度事業計画
 - ① 日本保健医療社会学会大会・総会の開催について
 - ・ 第28回大会（日赤看護大、2002年5月）の開催。
 - ・ 第29回大会の開催地候補：龍谷大学・京都、2003年5月。
 - ② 保健医療社会学論集について
 - ③ 定例研究会・研究部会について
 - ④ 日本保健医療社会学会ニューズレターについて
 - ⑤ その他
- 第4号議案 2002（平成14）年度予算計画（下表参照）

日本保健医療社会学会2002年度予算書

自2002年4月1日 至2003年3月31日

単位：円

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	219,570	印刷製本費	1,050,000
会費収入(6000円×320人分、新会員7000円×50人)	2,270,000	郵送費	470,000
学会誌刊行物売上	50,000	交通費	135,000
受取利息	300	事務局・広報謝金	350,000
広告収入	300,000	論集編集謝金	100,000
		消耗品費	130,000
		会議費	20,000
		部会・研究会活動補助費	380,000
		その他(振込手数料等)	6,000
		予備費	198,870
合計	2,839,870	合計	2,839,870

- 第5号議案 名誉会員の推挙
 - ・相磯富士雄先生、芦沢正見先生が推挙され、承認された。
- 予算・決算の報告

4. 日本保健医療社会学会 第10回 理事会

2002年9月3日(火) 於 東京医科歯科大学

出席： 渋谷優子(学会長)、福島道子、黒田浩一郎、山崎喜比古、山本武志(学会事務局次長)

- 2002年開催の第28回大会の総括
- 2003年開催の第29回大会の準備について
- 学会誌の編集と発行について
- 定例研究会の開催について
- 学会ニューズレターの発行について
- その他

・APNET(健康社会科学のためのアジア太平洋地域国際フォーラム)の日本での開催の検討については、ワーキンググループをつくって検討する。

(以上 総務担当理事 山崎喜比古、山本武志 学会事務局次長)

IV. 定例研究会(関東地区)の報告とご案内

- 第166回定例研究会の報告

◇日時： 2002年7月12日(金)午後6-8時

◇場所： 東京医科歯科大医科新棟(B棟)16階小会議室

◇発表者： 坂本照美先生(国立がんセンター中央病院治験コーディネーター)

◇題目： 臨床治療の現状とCRCの活動と役割

◇発表内容：

今回の定例研究会では、日本のがんの臨床研究の最先端の現場である国立がんセンター中央病院の治験コーディネーターである坂本照美氏から、「臨床治療の現状とCRCの活動と役割」と題して、臨床治療と臨床試験の概要と具体的な手続きに到るまで、詳細な資料をもとにご紹介いただいた。

がん治療の領域では、確立された標準的治療法は非常に少ない。そのため、従来の治療法と比較して少しでも有用性の高い治療法の確立を目指し、その有用性を評価するための綿密なプロトコルに基づいた臨床試験(一般には第I～IV相試験までである)が行われる。他疾患では、最初(第I相試験)から患者が臨床試験に参加することはないが、がん治療の領域では、第I相試験(被験薬の安全性や薬物動態の確認を行う)から患者が対象となること、また、そのために医療側/研究者側と患者側での倫理的問題が起りやすいことなどが提示された。またCRCの活動と役割については、プロトコルの検討や臨床試験が円滑に行われるように詳細なデータの収集と報告が必要とされることや、患者・家族のケアも行う必要があり、年々増加する臨床試験の課題数・症例数の増加にCRCの仕事の負担が増していること、臨床試験に関わる他職種との理解や連携のための教育も必要とされること等が報告された。

(高山智子 会員)

- 第168回定例研究会のご案内

◇日時： 2002年10月9日(水)午後6時半-8時半

◇場所： 東京医科歯科大医科新棟(B棟)16階小会議室

◇発表者： 柄本三代子先生(早稲田大学社会学博士課程修了、法政大学等講師)

◇題目： 健康の語られ方(同名の著書『健康の語られ方』青弓社、の即売も予定)

◇連絡先： 園田恭一(研究会担当理事、東洋大学社会学部、XXXXXXXXXX)

V. 定例研究会（関西地区）の報告とご案内

●第167回定例研究会のご案内

- ◇ 日時： 2002年9月28日(金) 午後2時～6時
 - ◇ 場所： 大阪市立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル6階）
 - ◇ 報告者： 筒井琢磨（皇學館大学社会福祉学部）
 - ◇ 題目： 「アレルギーの会」の活動
- *患者団体に関する医療社会学の論文1、2本の紹介も合わせて行う予定
- ◇問い合わせ先： 黒田浩一郎（龍谷大学社会学部）
- TEL: [REDACTED] e-mail [REDACTED]

（関西地区定例研究会担当理事 黒田浩一郎）

VI. 看護研究部会報告と案内

平成14年3月16日に、総会、役員改選が行われ、福島道子（部会長）、長江弘子（副部会長）、千葉京子（会計）、吉田澄恵（書記）が選出された。また、活動方針を話し合い、「将来的に、看護社会学の体系と内容を提示できるような成果を産出することを目指しつつ、断片的であっても、現段階では、メンバーの関心にしがたがって、議論を深めていく」ことになった。4月7日に第1回例会が行われ、吉田澄恵が担当し、看護関連領域における社会学研究には、①看護実践を職業として担う個人をサポートするツールとしての貢献、②看護実践に影響する「社会的要因」の理解への貢献、③看護学における人間の「社会的側面」の理解への貢献の3点が考えられると発表した。意見交換では、社会学研究者のみでは患者との接点をはじめ、医療の場でのフィールドリサーチやデータ源とのアクセスが困難である現状や、看護学研究者のみでは問題解決を指向しすぎ社会状況を分析しきれない等、看護学研究者・社会学研究者双方の研究実行上の課題や協力の必要性が確認された。6月29日に第2回例会が行われ、細田満和子が担当し、「再び生きる」ことを理解するための試論として、脳梗塞による障害を持つ人と家族と医療従事者の間で生じている状況を「身体」と「生活」についての定義を変更している時空間ととらえ、ロバート・マーフィーに倣って、ひとつの在り方からもうひとつの在り方への転換してゆく「境界状態」と捉える視座の提案があった。意見交換では、具体的に患者及び家族、医療者のどの時点からどの時点の時空間を境界状態と捉えるか等、提案された視座の適用に関する議論が行われた。今後の例会は、9、11、1、3月。関心のある方は吉田 [REDACTED] まで。

（看護研究部会 吉田澄恵）

VII. 編集委員会からのお知らせ

論集の発行が年2回となり、一年中切れ目のない作業が続いています。まず、第13巻1号の発行が大幅に遅れ、ご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。1本でも多くの原稿を掲載しようとして掲載決定の時期を遅らせたため、このような結果になってしまいました。今後は、既定の発行月を守るようスケジュール管理の徹底をはかりたいと思います。

13巻1号をご覧になればわかるとおり、執筆要領がいくつか変更になっています。英文抄録の位置、見出し数字の使い方、フォントのポイント数、等々、いくつか重要な変更があります。いまだに古い論集の執筆要領に従って執筆された原稿が散見されますので、投稿なさる方は、かならず最新号の執筆要領を参照して、ご投稿いただくようお願いいたします。

13巻2号は12月末発行の予定です。原則として、発行予定日の3か月前を締め切りの目安にしてご投稿ください。なお、それ以降でも、審査が順調に進めば掲載される可能性があります。また、インフォメーション等で修正を要さないものは、それ以降でも間に合いますので、編集委員会事務局までお問い合わせください。会員の皆様のご積極的なご投稿をお待ちしております。

(野口裕二)

次号の論集は6月発行が目標です。年2回の発行を実現するためには、会員の皆様からの原稿がぜひとも必要です。この機会に、皆様の内々眠っているテーマを論文にされてははいかがでしょうか？

(論集編集委員会)

Ⅷ. 会員の声

私は、臨床看護師の「役割葛藤」をテーマに研究を続けている。1995年頃を中心に、心理学において「ストレス」「不安」といった概念で盛んに取り扱われたテーマと対象を同じくする研究だが、ここで言う「役割葛藤」は「地位」と「役割」という社会学的な概念をキーワードにしてとらえようとするものである。

つい最近、このような話を聞いた。専門看護師(CNS)の臨床におけるシステム構築の難しさについてである。彼(女)らは、各分野において、看護の専門的な知識技術を持つ専門家として養成され臨床に出る。しかし、臨床での対応はまちまちであると言うのである。

ここで社会学的な、「役割」という概念を応用すると、「専門看護師という「地位」に対して、臨床の各担当者と彼(女)ら自身の「役割期待」に差があるのではないか？また「地位」に関する認識も各施設で異なるのではないか？」という考察ができる。つまり個人個人のパーソナリティ特性などといった、個人的問題に還元することなく、各ケースの構造的な問題点の抽出が可能になる。専門看護師に限らず、あらゆる日常的臨床の場面で看護師は悩みを抱えている。看護師という存在を取り巻く多くの曖昧で不明瞭な問題は、構造的な問題を指摘することで少なからず整理されるものであろうし、制度的解決という方向性を示すことができるものと思われる。「看護を社会学する」このような視点で今後も活動していきたい。

織田あゆみ(東洋大学大学院 社会福祉システム専攻)

Ⅸ. インフォメーション

● 第7回日本在宅ケア学会学術集会

◇メインテーマ「介護保険下での保健・医療・福祉の連携に向けて」

◇期日 平成15年1月25日(土) 9時~17時半

◇場所 大阪市国際交流センター

◇学術集会事務局

大阪市立大学大学院生活科学研究科障害者・高齢者福祉学分野研究室

TEL. [REDACTED]

(福島道子)

● 第1回日本ケアマネジメント学会研究大会

◇メインテーマ「ケアマネジメントの本質を問う」

◇期日 平成14年12月1日(日) 10時~16時

◇場所 立教大学コミュニティ福祉学部武蔵野新座キャンパス

◇大会準備室 東京都新宿区本塩町12 四谷ニューマンション206号

TEL. [REDACTED]

(福島道子)

● APNET(健康社会科学のためのアジア太平洋地域国際フォーラム)の国際会議

2002年10月14~18日、中国、「アジアのスイス」と呼ばれる景勝の地、昆明市にて開催されます。メインテーマは「アジア太平洋地域における近年の健康問題」です。2年に1回開かれています。日本での開催を期待する声は年々強まっています。

(姉崎正平 会員)

[Redacted text block containing multiple lines of obscured information]

<退会者>

[Redacted line]

子

計9名

(学会事務局 山本武志)

編集後記

暑い季節が過ぎ、広尾の木々も少しずつ季節を進めているように感じます。夏休み中のキャンパスは、お色直しで業者が足場を組み、ネットで大学をすっぽりくるんでいます。

当大学の南館と呼ばれる建物は、元々は看護婦や看護学生の寮でした。各階には外部に通じるドアがあり、このドアの外はテラスになっています。昔は非常階段があったのかもしれませんが、今はありません。建物内からテラスに出るドアのノブは、管理人さんの鍵で開閉でき、テラスからはノブの中央を回せば開くようになっています。いくら階段はないと言っても、外部から開閉が容易なんて・・・と驚いていると、管理人さんが「誰かが入ってくることで、学生さんが外に出ないようにしたんでしょうね」とつぶやきました。飛び降りとか、脱走??? ああ、ここは看護婦や看護学生の寮だったんだ・・・。

大学の壁が塗り替えられるのと同時に、このドアノブも付け替えられました。

さて、会員からの投稿も積極的に載せていきたいと思いますので、「会員の声」欄への投稿、学会や研究会の告知、最近出版した著書の紹介などお寄せ下さい。

投稿の方法は郵送、ファクシミリ、Eメールが可能です。

郵送：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内
日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子

FAX： [REDACTED]

(日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子)

Eメール： [REDACTED]

なお、紙面の都合等により、原稿の採否、若干の修正は当方にご一任願います。

(日本赤十字看護大学院・地域看護学専攻 平山香代子)

日本保健医療社会学会ニューズレター No.52 2002/12/20

日本保健医療社会学事務局

東京大学大学院医学系研究科健康社会学研究室内

東京都文京区本郷 7-3-1

(発行：山崎 喜比古 編集：福島 道子)

I. 第29回大会のご案内

第29回日本保健医療社会学会大会を下記の要領にて開催します。

本大会はメインテーマ「保健医療社会学の可能性を問う」を掲げ、保健医療社会学が今日の保健・医療についての認識にどのような地平をもたらさうのか、また、保健・医療のあり方にどのような提言をなさうのか、さらには、社会学に対してもどのような寄与をなさうのか、について議論を深めていきたいと考えています。

[記]

1. 日程 2003年5月17日(土)・18日(日)

2. 会場 龍谷大学大宮校舎

3. 大会長 黒田浩一郎(龍谷大学社会学部)

4. プログラム概要

- ・教育講演「医療倫理学と医療社会学(仮題)」土屋貴志(大阪市立大学文学部)
- ・大会長講演「保健医療社会学から社会学へ」黒田浩一郎(龍谷大学社会学部)
- ・シンポジウムA「病をめぐる意味・語り・会話」

シンポジスト:

橋本英樹(帝京大学医学部)

「病い世界の構造と医師との会話における表出

—慢性関節リウマチ患者のインタビュー調査を事例に(仮題)」

栗岡幹英(静岡大学人文学部)

「HIV薬害被害者へのインタビュー調査を事例に(仮題)」

樫田美雄(徳島大学総合科学部)

「エスノメソドロロジー・会話分析からみた医師と患者の会話(仮題)」

- ・シンポジウムB:目下のところ計画中です

- ・要望演題セッション(口演)

(要望演題)

医学知識の社会的構成/患者会・家族会およびセルフヘルプグループ/
代替医療・非正当医療/異なる医療関係職種間の関係/
福祉国家の変容と医療政策

・一般演題セッション（口演）

5. 参加費

大会参加費 学会員 4,000 円、非会員 5,000 円

学生参加費 学会員 3,000 円、非会員 4,000 円

懇親会費 一般 4,000 円、学生 2,000 円

(大会事務局)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1 - 5 龍谷大学社会学部黒田研究室

TEL. [REDACTED]、FAX. [REDACTED]

E-MAIL: [REDACTED]

(第29回大会長：黒田 浩一郎)

II. 第11回理事会報告

2002年11月8日(金) 於 東京医科歯科大

出席：渋谷優子(学会長)、

園田恭一、黒田浩一郎、野口裕二、山崎喜比古(各理事)

山本武志(学会事務局次長)

1. 第29回大会(2003年5月17・18日、於 龍谷大)について

1) 大会長(黒田理事)より、第29回大会の企画および準備状況が報告され、討議された。

2) 次号ニューズレターに第29回大会のプログラム概要を発表することが確認された。

3) 2004年度以降の開催地・開催校についての討議も今後継続して行うことが確認された。

2. 定例研究会及び研究部会について

関東地区例会と関西地区例会について、各担当の園田理事、黒田理事より、看護研究部会については、担当の福島理事欠席のため渋谷学会長より、今後の予定などの提案をいただき、討議された。

3. 学会誌(『保健医療社会学論集』)の編集と発行等について

担当の野口理事より、6月末発行予定の第13巻1号が会員の手元には9月に届けられることになった経緯と、12月中発行予定の次号(第13巻2号)の準備状況について報告され、討議の結果、前号で掲載しなかった研究会・部会の活動報告については第14巻1号で2年分まとめて掲載することなどについて確認された。

4. 新入会員の承認ならびに退会者の確認について

山本事務局次長より、8月22日以降11月5日までの入会および退会希望者の報告があり、いずれも承認された。

5. 財政状況について

山本事務局次長より、2002年度のこれまでの収支状況が報告され、新しく始まった広告収入の回収と獲得を強めることなどが確認された。

6. ニュースレターについて

次号を2002年12月半ばに発行すること、ならびに記事のアウトラインについて討議、決定した。次々号は、翌2003年1月末までに発行することも確認された。

7. 役員選挙について

2003年1月下旬発行予定のニュースレターに、役員選挙関係の文書を同封して会員に届けるというスケジュールで運ぶことが確認された。

8. その他

山崎理事より、元理事を含めたワーキンググループでAPNETの会議をここ数年内に日本で開催できるかどうか検討していたが、無理と判断された旨、報告された。

次回理事会： 2003年1月10日(金) 6-8時 於 東京医科歯科大
(総務担当理事：山崎 喜比古)

Ⅲ. 第169回定例研究会(関東地区例会)

関東地区定例研究会が、下記のように開催される予定です。

- ・ 日時：2003年 1月10日(金) 午後6時～8時
- ・ 場所：東京医科歯科大学中央診療研究棟 7階 第7ゼミナール室
(※いつもと建物、部屋が異なりますのでご注意下さい。)
- ・ 発表者：野口 裕二(東京学芸大学)
- ・ 演題：臨床社会学とナラティブ・アプローチ
発表者が先に刊行された『物語りとしてのケア』(医学書院)をあらかじめ読まれて参加していただくと有り難いとのことです。
なお、この著書は当日販売も行う予定です。

連絡先 園田 恭一 (研究会担当理事・東洋大学社会学部)

Tel & Fax

(関東地区定例研究会担当理事：園田 恭一)

Ⅳ. 関西地区例会

関西地区定例研究会が、下記のように開催されました。

- ・ 日時：2002年9月28日(土) 午後2時～6時
- ・ 場所：大阪市立大学文化交流センター(大阪駅前第2ビル6階)
- ・ 発表者：筒井琢磨氏(皇學館大学社会福祉学部)
- ・ 演題：「アレルギーの会」の活動
あわせて、以下の2本の論文の紹介・検討も行いました。
- ・ M. Bury, On chronic illness and disability, in C. E. Bird, et al., Handbook of Medical Sociology, 5th. ed., Prentice Hall, 2000, pp.173-183.
(要約担当：横山葉子[奈良女子大学大学院人間文化研究科])
- ・ S. E. Bell, Experiencing illness in/and narrative, in C. E. Bird, et al.,

Handbook of Medical Sociology, 5th. ed., Prentice Hall, 2000, pp.184-200.
(要約担当：心光世津子[大阪大学大学院人間科学研究科])

参加者は10名ほどで、盛況とは言いがたく、関西地区研究会が始まった昨年度に比べて多少減っているのが気になります。この研究会は関西近辺の学会員の交流会も兼ねていますので、お近くにお住まいの学会員の方々には、ご参加の程をよろしく願います。なお、次回の研究会は、3月29日(土曜)午後2時から6時に大阪市立大学文化交流センターで開催の予定です。発表者が決まり次第、ニューズレターと葉書であらためてご案内申し上げます。

(関西地区定例研究会担当理事：黒田 浩一郎)

V. 看護研究部会

今回は、9月、11月の例会活動を報告する。

9月は、千葉京子氏より、『大腿骨頸部骨折術後高齢者の「生活の折り合い」に関する研究—退院1週間前から退院1ヶ月後の心的過程—』(部会員：中村美鈴氏、長江弘子氏との共同研究)のプレゼンテーションがあった。「生活の折り合い(harmonious)」とは、研究者らにより、身体的機能障害によって変化した日々の生活スタイルを修正し、術前の生活に近い状態、あるいは自分の望む生活を自立的に選択して老いの成熟に向かうありさまと定義されている。4名の高齢患者に、退院1週間前から退院1ヶ月後までの縦断的面接調査を行い、内容分析の手法から結果を導き出している。その結果、退院1週間前の「生活の折り合い」は、「杖無し歩行への取り組み」「不自由さを抱えた生活の受け入れと不安」「自分らしさの立て直し」「受けた医療に対する評価」の4カテゴリとされた。また、退院1ヶ月後の「生活の折り合い」は、「動作制限によるとまどいと受けとめ」「股関節屈曲制限がもたらす生活動作の調整」「これまでの妻役割が担えないことの情けなさ」「支援を受けての生活の立て直し」「再転倒の不安」の5カテゴリとされた。例会では、研究者らの定義する「生活の折り合い」概念と類似概念に関する議論、内容分析の手法の適用範囲等に関する議論が行われた。

11月は、山崎裕二氏により、「男性看護職の感情の歴史点描；看護師社会におけるジェンダーの行方」(『看護学雑誌』Vol.66 No.11 2002年11月 所収)の内容紹介が行われた。明治には、戦地救護に派遣された日赤看護人が中国婦人患者からその看護を拒否され戸惑いを感じたこと、大正では、東京府巣鴨病院の看護人たちが病院の松沢移転に際してストライキを行い俸給増額を勝ち取った満足感を味わったこと、昭和では、戦前から看護人に期待された「力」に象徴されるジェンダー役割に疑問を持ち、新たな男性看護者役割について模索する看護師たちがいたこと、平成では、男女同一の教育課程を卒業した看護師が、婦人科病棟に配属されたものの現場で求められた役割が「力」であったことに憤りを感じたこと等が報告された。そして、今後も男性看護師のジェンダー・アイデンティティとして「力」に象徴される「男的なるもの」に価値をおくことに意味があるかという問題提起がなされ、(ジェンダー・フリー)や(男女共同参画)という理念を具体化する実践方策の議論の時期にきているという主張があった。この点について、山崎氏自身より「実践方策」

として、①看護職のジェンダー問題を検討する組織や仕組みをつくる、②男性看護師を増やす数値目標を決めその達成に努める、③初等・中等教育段階でのジェンダー教育を充実させ、看護職＝女性的職業＝献身的で奉仕的な聖職という社会通念の解消を児童・生徒のうちから図るという提案があり、例会において具体論を議論した。

次回例会は、1月。案内等希望の方は、事務局吉田まで [REDACTED]。
(看護研究部会：吉田 澄恵)

VI. 「保健医療社会学論集」編集委員会からのお知らせ

- 保健社会学論集の原稿を募集しています。

現在、第14巻1号の原稿の編集ならびに投稿原稿の査読を行っている最中です。投稿原稿は年中受け付けています。査読に時間がかかる恐れがありますので、できるだけ早めに書き上げて下記の編集事務局宛、投稿規定に沿って原稿をお送り下さい。また、インフォメーションのコーナーでは、当学会と関連が深い海外の学会や国際学会、国際会議の動向などをエッセイのような形式で構いませんので、掲載していきたいと考えています。次号の論集にも数本掲載する予定です。そのような国際的な学会や会議に参加された会員の方々は、是非、積極的に他の会員の方々に情報提供して下さいますようお願いいたします。短いものでも構いません。

〒184-8501

東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学 保健学(朝倉)研究室
保健医療社会学論集 編集委員会事務局

Tel/Fax [REDACTED]

E-mail: [REDACTED]

(編集委員会事務局：朝倉 隆司)

VII. 新人会員および退会者(8月22日～11月5日)

- 入会

[REDACTED] [REDACTED]
[REDACTED] [REDACTED]

- 退会

[REDACTED]

(学会事務局：山本 武志)

VIII. 会員の声

数年前の新カリ実施時から看護短大でジェンダー論の授業を開始しました。まず初回の授業で、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ、ジェンダー・フリーなどの概念について話します。セックス(生物学的性差)をもとに文化や社会が作りだしたジェンダー(男らしさ・女らしさといった性差)を認めつつ、個人差(個性)を尊重することがジェンダー・フリーだと考える立場があると話す、それには学生の多くは理解を示します。

しかし、セックスの基礎の上にジェンダーがあると考えのではなく、ジェンダーがまずあって、それがセックスをも二分法的に規定していると考える立場や、男女の特性を前提とせずに男女平等の実現（ジェンダーの解消）を目指すことがジェンダー・フリーだと考える立場について話すと、これにはあまり学生は理解を示しません。1990年代初めのポスト構造主義のジェンダー概念とそのジェンダー・フリー論は、学生には不評のようです。

この否定的評価は看護学生だけに限られたものではなく、男女共同参画政策の議論の中にも見られるものです。先日届いた「男女共同参画情報メール第26号」（H14.11.15発行）には次のような記事が載っていました。「・ 男女共同参画局から（前略）今週の火曜日（11月12日）、参議院内閣委員会で亀井郁夫議員が、男女共同参画社会の理念、行政の在り方について質問された。今年の春から、いろいろな議論があった問題なので、この機会に内閣官房長官、米田副大臣に公式に答えていただいた。私も「一部にジェンダーフリーを男女の区別をなくする、画一的に扱うことだ」という人もいるが、男女共同参画は、男性女性それぞれの個性、適性を発揮することだ。」と答えた。私達は差別や抑圧をなくすことをめざしているのであって、違いをなくすことはめざしていない。（後略）内閣府男女共同参画局長 坂東真理子」

保健医療に携わる専門職集団において支持されているジェンダー概念やジェンダー・フリー論は、どちらなのでしょう？ 入会間もない私にどなたか教えてくださいませんか。

（会員：山崎裕二 [REDACTED]

IX. 前号のニューズレターの訂正のお願い

前号 No.5,1,p7,2 行目の「次号の・・・いかがでしょうか？」の削除をお願いいたします。訂正しお詫び申し上げます。

（編集：福島 道子）

編集後記

雪が降ると思い出すことがあります。北国での冬の朝、駐車場の自家用車が真っ白に凍り、車に張った氷を溶かすべく、お湯を沸かしてフロントガラスにかけた瞬間「パキン!」。私の小さなマイカーはコチンコチンに凍ってしまったのです。もちろん、地元の方々に「常識知らず」と笑われました。今日は首都も大雪です。お湯をまくべきか、水を流して雪を溶かすべきか悩み、結局、玄関前から階段、そして階段下のアプローチまでひたすら人力で雪をどかしました。水を含んだ雪の塊は、ほんとに重かった・・・。

さて、会員からの投稿も積極的に載せていきたいと思っておりますので、「会員の声」欄への投稿、学会や研究会の告知、最近出版した著書の紹介などお寄せ下さい。

投稿の方法は郵送、ファクシミリ、Eメールが可能です。

郵送：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内
日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子

FAX： [REDACTED] Eメール： [REDACTED]

（広報担当理事：福島 道子／文責：平山 香代子）

日本保健医療社会学会ニューズレター No. 53 2003/02/10

日本保健医療社会学事務局
東京大学大学院医学系研究科健康社会学研究室内
東京都文京区本郷 7-3-1
(編集: 福島 道子 発行: 山崎 喜比古)

I. 第29回日本保健医療社会学会大会のお知らせと発表演題募集

第29回日本保健医療社会学会大会を下記のように開催いたします。

本大会はメインテーマ「保健医療社会学の可能性を問う」を掲げ、保健医療社会学が今日の保健・医療についての認識にどのような地平をもたらさうのか、また、保健・医療のあり方によつてどのような提言をなさうのか、さらには、社会学に対してもどのような寄与をなさうのか、について議論を深めていきたいと考えています。

皆様方の参加をお待ちしております。また、非会員の方のご参加も歓迎いたしますので、どうぞお誘いあわせの上お越しください。

[記]

1. 日程 2003年5月17日(土)・18日(日)
2. 会場 龍谷大学大宮校舎(JR京都駅より徒歩約15分)
3. 大会長 黒田浩一郎(龍谷大学社会学部)
4. プログラム概要
5月17日(土)
9:40 受付開始
10:30~12:30 一般演題セッション、要望演題セッション
13:30~14:10 学会総会
14:20~14:50 大会長講演
黒田浩一郎(龍谷大学社会学部)「保健医療社会学から社会学へ」
15:00~17:30 シンポジウム「病をめぐる意味・語り・会話」
橋本英樹「病い世界の構造と医師との会話における表出
—慢性関節リウマチ患者のインタビュー調査を事例に(仮題)」
(帝京大学医学部)
栗岡幹英「HIV被害被害者へのインタビュー調査を事例に(仮題)」
(静岡大学人文学部)
櫻田美雄「エスノメソドロジー・会話分析からみた医師と患者の会話
(仮題)」(徳島大学総合科学部)
司会: 平英美(滋賀医科大学医学部)、佐藤哲彦(熊本大学文学部)
18:00~20:00 懇親会(龍谷大学大宮校舎清和館談話室)

5月18日(日)

9:20 受付開始

10:00~12:00 一般演題セッション、要望演題セッション

13:00~14:00 教育講演

土屋貴志(大阪市立大学文学部)「医療倫理学と保健医療社会学」

司会:村岡潔(佛教大学文学部)

14:20~16:50 ラウンド・テーブル・ディスカッションA

テーマ:医療の「過剰」だけでなく、医療の「過少」にも注目すべきでは?

話題提供者:赤松昭

(頭部外傷や病気による後遺症をもつ若者と家族の会)

話題提供者:吉田澄恵(順天堂看護短期大学)

話題提供者:他に1名を予定

司会:佐藤純一(高知医科大学医学部)

司会:細田満和子(東京大学大学院人文社会系研究科)

ラウンド・テーブル・ディスカッションB

テーマ:患者会・家族会およびセルフヘルプグループの社会学は、病と医療の何を明らかにすることができるのか、何を目指すべきか??

話題提供者:筒井琢磨(皇學館大学社会福祉学部)

話題提供者:的場智子(日本学術振興会)

話題提供者:心光世津子(大阪大学人間科学部)

司会:進藤雄三(大阪市立大学文学部)

司会:杉山克己(青森県立保健大学社会福祉学科)

5. 参加費(当日申し受けます)

大会参加費 学会員4,000円、非会員6,000円

学生参加費 学会員3,000円、非会員4,000円

懇親会費 一般4,000円、学生2,000円

☆今大会では、懇親会参加の事前の申込みは不要です。当日に参加を受け、参加費はその際に申し受けます。

6. 演題募集

昨年度に引き続き、本大会でも「一般演題」と「要望演題」を募集します。発表は、「一般演題」と「要望演題」とも、以下の要領をお願いします。

(1) 1演題につき、発表は12分、質疑は8分の予定です。

(2) 発表の際に、OHP またはスライドを使うことができます(パソコンは不可)。使用を希望する場合は、「演題申込書」の該当箇所に○印を付けてください。なお、会場の設備の都合上、OHP、スライドいずれも可能な方は、できるだけOHPをご利用ください。

(3) OHP サポートは各自をお願いします。

(4) 配布資料がある場合は、各自で用意し、当日、会場で配布してください。

(5) 発表日時は4月にお送りする抄録集に載ります。各自でご確認ください。

要望演題は、以下のように、保健医療社会学が取り組むべきテーマを掲げ、皆様に議論し、交流していただきたいとの趣旨で設けました。

- (1) 医学知識の社会的構成
- (2) 患者会・家族会およびセルフヘルプグループ
- (3) 代替医療・非正統医療
- (4) ことなる保健医療関係職種間の関係
- (5) 福祉国家の変容と保健医療政策

7. 演題申込み方法

(1) 申込み方法は「一般演題」「要望演題」とも同じです。なお、「一般演題」で申し込まれた場合でも、「要望演題」セッションで発表していただくことがありますので、ご了承ください。

(2) 発表資格は、研究者、共同研究者とも会員であることが必要です。会員でない方は、大会までに入会手続きを済ませてください。入会手続きは、8. の学会事務局（東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室）までお願いします。

(3) 発表抄録を下記の要領で作成し、その原本1部、コピー1部の計1部を、そのファイルを保存したフロッピーディスク、「演題申込書」と一緒に、8. の大会事務局（龍谷大学社会学部黒田研究室）へ2003年3月17日（月）までにお送りください。大会事務局では、抄録を頂戴した時点で、受理した旨のハガキを郵送します。なお、フロッピーディスクは返却しません。

(a) 締め切り：2003年3月17日（月）必着

(b) 形式：A4判1枚、ワープロ横書き、40字×40行、明朝体

(c) 上下30mm、左右25mmの余白

(d) 演題を第1行中央寄せで、氏名（所属）を第3行に右寄せで、本文は第5行から始めてください。連名の場合は、発表者に○を付けてください。

☆なお、抄録は抄録集の段階でB5判に縮小されますので、文字や図表の大きさに注意してください。

☆お手元に「演題申込書」がない場合には、大会事務局（龍谷大学社会学部黒田研究室）に請求してください。

8. 事務局

〈大会事務局〉

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

龍谷大学社会学部黒田研究室

TEL. [REDACTED]、FAX. [REDACTED] (共用)

E-MAIL [REDACTED]

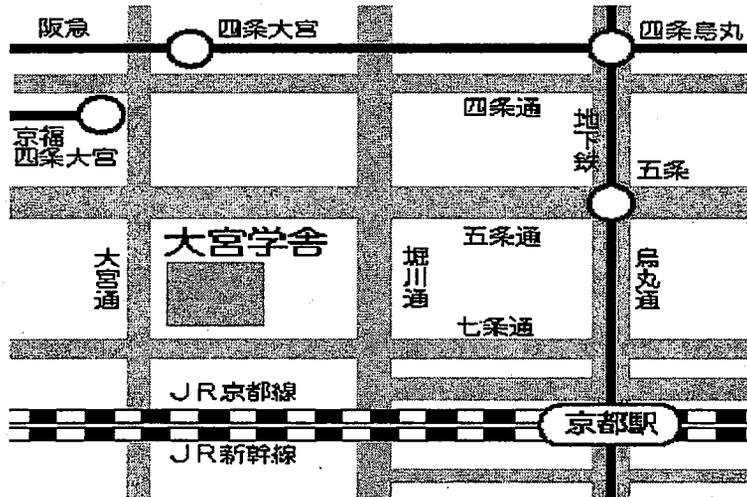
〈学会事務局（学会入会の問い合わせ）〉

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室

TEL. [REDACTED] FAX. [REDACTED]

9. 大会会場周辺図



(第29回大会長・黒田 浩一郎)

II. 第12回日本保健医療社会学会理事会報告

- ・日時：2003年1月10日(金) 20:00-21:30
- ・場所：東京医科歯科大学中央診療研究棟 7階第7ゼミナール室
- ・出席者：渋谷優子(学会長)、黒田浩一郎、園田恭一、朝倉隆司、野口裕二、福島道子、山崎喜比古(各理事)、山本武志(学会事務局次長)

【議題】

1. 第29回大会(2003年5月17-18日、於：龍谷大)について
黒田担当理事より、第29回大会の準備状況が報告され、今後の運び方等が討議された。
 2. 定例研究会及び研究部会について
関西地区例会は黒田担当理事より3月に1回予定され、関東地区例会も園田担当理事より年度内にもう1回開催を検討中であることが報告された。
 3. 学会誌(『保健医療社会学論集』)の編集と発行等について
朝倉・野口両担当理事より、第13巻2号の編集状況と今後の予定が報告されるとともに、編集委員会の交替期にあたり、副編集委員長を設け、スムーズな運営と移行が図れる方向で検討する必要性が確認された。
 4. 新入会員の承認ならびに退会者の確認について別紙参照。
 5. ニュースレターについて
福島担当理事より提案があり、1月末発行をめざすことになった。
 6. 役員選挙について
今年3月の理事改選に向けて早急に選挙管理委員会を立ち上げ、そのもとで作業を進めることが決まった。
- ・次回の理事会予定
2003年3月26日(水) 18時から 東京医科歯科大(予定)
(総務担当理事：山崎 喜比古)

Ⅲ. 関西地区定例研究会のご案内

関西地区研究会（第170回定例研究会）を下記のように開催します。当地区の学会員の交流会も兼ねておりますので、ご参加のほどよろしくご願ひいたします。また、学会員でない方の参加も歓迎しますので、お問い合わせのうえお越しく下さい。

日時：2003年3月29日（土）午後2時～6時

場所：大阪市立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル6階）

発表：

①栗岡幹英氏（静岡大学人文学部）「HIV薬害を巡る医師の語り」

②佐藤哲彦氏（熊本大学文学部）「ディスコースとしての医学知識：覚醒剤研究における」

（関西地区定例研究会担当理事：黒田 浩一郎）

Ⅳ. 看護研究部会報告のご案内

前回の報告後、1月に例会が開催された。「婦人科がん術後患者の生活障害に対する支援システムの開発—臨床から在宅へ—」という主題で、渋谷優子氏と中村美鈴氏により、報告があった。本研究は、病院管理研究所（現国立保健医療科学院）の長谷川敏彦氏と柿川房子氏が中心である「がん障害（部位別）と生活障害研究会」において、1999年から2001年に厚生科学研究費の助成を受けて行われた「がん患者のQOLに関する研究」の一部とのことであった。WHO障害モデルICIDH-2を参考に、各がんの生活障害の経過を時系列に追うという基本デザインがあり、明らかにされた支援内容をシステム化し、インターネットにて、情報公開するという長期構想をもって取り組まれている。発表者らは、婦人科がん（子宮がんと卵巣がん）を担当しており、研究成果の一部が公開された。インターネット上での成果公開の構想に関して、患者サイドから情報を探索する場合、生活障害が肥大化して受け取られるリスクや、研究途上の2002年にWHOが出したICFの障害モデルとICIDH-2の違い、キー概念である「生活障害」を当事者サイドから捉えなおす必要性などの意見交換が行われた。なお、例会後、新年会を行い、社会学、看護学、教育学等の学際的交流を深めた。また、本研究部会では、本年度よりメールによる情報交換を行う状況が整いつつあり（一部使用できない会員がある）、メーリングリストによる意見交換も自然発生的に開始されている状況である。

次回例会は、3月。案内等希望の方は、事務局吉田まで

（看護研究部会：吉田 澄恵）

Ⅴ. 「保健医療社会学論集」編集委員会からのお知らせ

次号の論集を3月初旬頃にはお手元に届けることができそうです。構成は、平成14年度の学会関連の特集論文、数本の投稿原稿、2本インフォメーション、2本の書評の予定です。

年2回の発行を決め、当初は投稿論文の集まりに不安を抱いていたのですが、少しずつ投稿も増えてきました。学会員の方々には、引き続き論集への投稿をお願いします。投稿をされる時には、掲載された論文の書式を見て、書式を整えてくださると手間が省けて助かります。

今年は選挙の年で編集委員長、半数の編集委員も年次大会の時期を境に交代します。3月までは、〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学保健学（朝倉）研究室気付 保健

日本保健医療社会学会ニュースレター No. 54 2003/4/30

日本保健医療社会学会事務局

東京大学大学院医学系研究科健康社会学研究室内

東京都文京区本郷 7-3-1

(編集: 福島 道子 発行: 山崎 喜比古)

1. 選挙結果報告および投票手続きに関するお詫び

1. 理事および監事選挙の結果報告

選挙管理委員会から、去る4月7日に行われた開票の結果にもとづき、得票数の多い方から5名および次点の方について報告を受け、理事就任の依頼をした。最終的に受諾頂いた5名の選出理事は、以下の方々である(敬称略、あいうえお順)。

小澤 温 (東洋大学)

木下 康仁 (立教大学)

黒田 浩一郎 (龍谷大学)

林 千冬 (神戸市看護大学)

福島 道子 (日本赤十字看護大学)

続いて行われた上記選出理事による協議の結果、指名理事として選ばれ、かつ、最終的に就任を受諾して頂いた2名の指名理事は、以下の方々である(敬称略、あいうえお順)。

的場 智子 (日本学術振興会、東京大学大学院医学系研究科)

米林 喜男 (順天堂大学)

同時に行われた監事選挙の結果、選出され、就任の受諾も頂いた2名の監事は、以下の方々である(敬称略、あいうえお順)。

平野 かよ子 (国立保健医療科学院)

細田 満和子 (日本学術振興会、東京大学大学院人文社会系研究科)

2. 学会役員選挙の投票手続きに関するお詫び

役員改選の選挙につきましては、多くの会員の皆様にご協力いただきました。誠にありがとうございます。役員選挙の投票手続きにつきまして、学会事務局よりお詫び申し上げたい点がございます。

通常、当学会の役員選挙の投票方法につきましては、「投票用紙を小さい封筒に入れ、それを大きい封筒に入れて投函する」方式をとっておりましたが、学会事務局の準備ミスにより、「大きな封筒を折りたたんで小さな封筒に入れる」という方法を採用することになり

ました。その際、その方法の変更に伴う投票要項の改定について、選挙の責任者である選挙管理委員への事前の承諾を取らずに会員に送付してしまいました。

つきましては、選挙管理委員の金子雅彦氏、的場智子氏には多大なるご迷惑をおかけし、また、会員の皆様にもご面倒をおかけ致しましたことを深くお詫び申し上げます。今後、ミスの無いよう細心の注意を払い学会事務局運営に励んで参りますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(総務担当理事・学会事務局責任者：山崎 喜比古)

II. 第29回大会のご案内

第29回日本保健医療社会学会大会の詳細につきましては、『抄録集』をご覧ください。

なお、大会をお引き受けするのは初めてのこともあって、これまでにすでにいくつかの不手際がありましたことをお詫び申し上げます。

とくに、下記の方々には、所属などを間違えてニューズレターの「お知らせ」、「大会案内」、「大会ポスター」に掲載してしまいましたことをお詫び申し上げます。

土屋 貴志氏 (誤) 大阪市立大学文学研究所→(正) 大阪市立大学文学研究科

吉田 澄恵氏 (誤) 順天堂看護短期大学→(正) 順天堂医療短期大学

的場 智子氏 (誤) 東京大学大学院人文社会系研究科→(正) 東京大学大学院医学系研究科

また、「セルフヘルプグループ」が、間違っ「セルヘルプグループ」や「セルフヘルプグループ」になっているところが、「大会案内」と「大会ポスター」にあります。

さらに、こちらの不手際ではありませんが、演題申し込みが予想外に多く、締め切り以前に申し込みをされた方と、締め切り以前に、申し込み書などの到着が遅れる旨の連絡を受けた方が48に達しました。そのため、既定のスケジュールや当方の対応能力などを考慮して、締め切り後の演題申し込みは受理できませんでした。この件は次年度の大会長に申し送る所存です。

このように、いろいろと不手際や予想しない事態が生じてはいますが、目下、着々と準備を進めております。それでは、皆様方と大会でお会いできる日を楽しみにしております。

(第29回大会長：黒田 浩一郎)

III. 第13回 理事会報告

日 時：2003年3月26日(水) 午後6～8時 於：東京医科歯科大学

出席：渋谷 優子(学会長)、黒田 浩一郎、朝倉 隆司、山崎 喜比古、福島 道子(各理事)

山本 武志(学会事務局次長)

1. 事務局次長交替について

山本 武志事務局次長より、4月からは小出 昭太郎さん(東京大学大学院 医学系研究科 博士後期課程)に引き継いで頂くことになった旨、報告され、了承された。

2. 第29回大会の準備について

大会長の黒田理事より第29回大会の準備状況が報告され、大会当日の運営の仕方等が討議された。

3. 役員選挙について

山崎総務担当理事・事務局責任者より、選挙管理委員を金子雅彦会員(防衛医大)と的場智子会員(日本学術振興会・東京大学大学院)に引き受けて頂き、3月後半、投票用紙の発送と投票が行われ、4月上旬には開票作業が行われる予定で進んでいる旨、役員選挙の準備に際しての事務局側のミスについて学会ニュースレターをとおしてお詫びする旨、開票後の新理事会の立ち上げ方、新旧理事会の引き継ぎと協力の仕方について報告され、討議の上、了承された。

4. 定例研究会の開催について

黒田関西地区担当理事より、関西地区例会は3月末に行われたこと、園田関東地区担当理事に代わって渋谷学会長から、今期最後の関東地区例会が4月14日に行われることが報告された。また、今後の研究活動について、定例研究会以外の形態も検討していいのではという意見も出された。

5. 学会誌の編集と発行について

朝倉学会誌編集担当理事より、第13巻2号の発行と現在の投稿・審査・編集状況についての報告があり、次期編集委員会への引き継ぎ事項と引き継ぎの進め方について討議された。

6. 学会入退会・財政等について

学会事務局より、入退会者が報告され、確認された。同じく学会事務局より、2002年度決算書(概算)について、報告され、支出増にもかかわらず新会員増加による収入増で、基本的にはバランスがとれている旨、報告された。

7. 学会ニュースレターの発行について

福島広報担当理事より、今期最後のニュースレターを連休前までには発送することをめざす旨、報告があり、確認された。

8. その他

大会時総会の報告と課題のうち、名誉会員の新たな推挙と2004年第30回大会開催校の件について、山崎理事より報告があり、討議された。

(総務担当理事：山崎 喜比古)

IV. 関東地区定例研究会報告

1. 第166回定例研究会 2002年7月12日(金) 東京医科歯科大学
坂本 照美 氏 (国立がんセンター中央病院 治療コーディネーター)
「臨床治療の現状とCRCの活動と役割」
臨床試験の意義とアウトライン、治療に係わる病棟看護師の役割など
2. 第168回定例研究会 2002年10月9日(水) 東京医科歯科大学
柄本 三代子 氏 (法政大学 非常勤講師 他)
「健康の語られ方」
今日“科学的「常識」”として構築され、取りあげられている言説や情報などの日常生活に及ぼしている影響など
3. 第169回定例研究会 2003年1月10日(金) 東京医科歯科大学
野口 裕二 氏 (東京学芸大学)
「臨床社会学とナラティブ・アプローチ」
臨床社会学の志向するところ、ナラティブ・アプローチの特徴など
4. 第171回定例研究会 2003年4月14日(月) 東京医科歯科大学
金井 Pak 雅子 氏 (東京女子医科大学)
「看護経済学について」
看護管理学における看護経済学の位置、先行研究の紹介など

(関東地区定例研究会担当理事：園田 恭一)

V. 関西地区定例研究会報告

関西地区研究会が、下記のように開催されました。

日時：2003年3月29日(土) 午後2時～6時

場所：大阪市立大学文化交流センター(大阪駅前第2ビル6階)

発表：①栗岡幹英氏(静岡大学人文学部)「医療的世界はどのように構築されているか」

②佐藤哲彦氏(熊本大学文学部)「ディスコースとしての医学知識：『覚醒剤研究』における」

参加者は19名。①の栗岡氏は、HIV薬害についての関西の社会学者を中心とする共同研究グループの一員であり、その共同研究の一環としてなされた、医師に対するインタビュー調査についての報告でした。②は、戦後の日本における、覚醒剤についての医学のディスコースの分析でした。医学・医療における語り・ディスコースをどのように分析すべきかについて、①でも②でも活発な議論がなされました。なお、栗岡氏は、今年度大会のシンポジウム「病いをめぐる意味・語り・会話」のシンポジストの1人であり、シンポジウムでの発表も、上記の共同調査に基づくものが予定されています。また、医学・医療における語り・ディスコースは、このシンポジウムのテーマでもあります。

関西地区研究会は関西近辺の学会員の交流会も兼ねていますので、お近くにお住まいの学会員の方々には、ご参加の程をよろしく願いいたします。平成15年度の関西地区研究会担当理事および開催日程はこれから決定していきます。

(関西地区定例研究会担当理事：黒田 浩一郎)

VI. 看護研究部会報告とご案内

今回は、3月の例会および新年度の予定について報告する。3月の例会は、「一般人の医療サービスに対する意識に関する一考察、臨床看護師の役割葛藤分析にむけて」という主題で、織田あゆみ氏が発表された。臨床における看護師が経験する「葛藤」に関する研究は多いが、本報告では、「役割」を分析概念の中心において、役割の期待とあて先、受け手のとらえ方といった一連の流れの中で、社会学的役割理論から考察を加えた内容が報告された。東洋大学社会調査室を調査主体として行われた「日常生活の意識と行動」の中で得た、医療職者でも患者でもない一般人の①治療方針の決定に関する意識、②エンドステージにおける希望に関する意識、③介護の依頼先に関する意識、④医療職者の性別役割の適性意識に関するデータ分析結果が報告された。調査結果は今後公開される内容であるため、割愛するが、この調査研究および考察に関して、調査法、質問文の開発背景、臨床看護師への役割期待を把握しようとする試みの重要性、それと対照する臨床看護師自身の自らへの役割期待を調査する方法等について意見交換を行った。さらに、研究成果の応用の方向性をどう考えるのかといった問いなど、研究構想全体にわたる活発な議論が行われた。

新年度については、今年度が比較的、「看護学」ベースの会員の発表が多かったので、「社会学」ベースの会員の発表を優先に発題者を募っていくこと、外部の講師を招聘しての部会をもつこと、役員改選を行うこと等について意見交換し、2ヶ月一回ペースの例会を継続することとした。次回例会は、4月。案内等希望の方は、事務局吉田まで

(看護研究部会：吉田 澄恵)

VII. 編集委員会からのお知らせ

この2年間、編集委員長、副編集委員長（野口理事）の2人体制で主に論集の編集に携わってきました。今回の役員選挙により、この任を解かれることとなります。編集委員も交代となります。編集委員のみならず、査読にご協力くださった会員と会員外の専門家の方々に厚くお礼を申し上げます。危ぶまれた年2回発行も、投稿論文の増加により何とか定着できそうです。

編集委員長としての感想を何点か述べますと、査読者の意見が分かれること、査読者を探すのが容易でない領域の論文や保健医療社会学論集という雑誌の性質への適否など、判断に苦しむ問題がありました。そのため論文投稿者にご迷惑をおかけした点もあるかもし

れません。これから雑誌の質を向上させて行くために、広範囲にわたる領域での査読者の確保、査読者と編集委員の役割分担の明確化、編集委員会の充実などいくつかあるように思います。また論文の範囲が、質的研究などの増加によりグッと広がってきました。投稿層も、これまでの保健医療や看護領域だけでなく社会学領域へと広がっているように思われます。そこで少し残念に思うのは、中堅層の投稿論文が少ないこと、量的な調査研究の論文が少ないことです。学会発表された演題から論文になっているものも少ないようです。これらがバランスよく掲載されると読み応えのある学術雑誌ができあがるのではないかと思います。論文のジャンルとしては、掲載された論文をめぐる論争や意見交換などのコーナーもあって良いのかもかもしれません。これらの課題は、次期編集委員長と編集委員会に検討をお願いしたい事柄でもあります。学会員が協力して質の高い学会誌へと育てていってほしいと願っています。

今後の投稿先（編集事務局）については、学会事務局（東京大学大学院 医学系研究科健康社会学研究室内）にお問い合わせください。しばらくの間は、混乱を避けるため、取り次ぎもいたします（朝倉）。

（編集委員会事務局：朝倉 隆司）

VIII. インフォメーション

保健医療社会学会の皆様へ、近著の紹介をさせていただきたく存じます。

1. 岩森龍夫著『第2版・現代経営学の再構築』（東京電機大学出版局、平成14年5月、5200円）
2. 岩森龍夫他著『リニューアル・リーディングス 現代の経営学』（学文社、平成15年2月、2800円）
3. 岩森龍夫他著『経営学の構図』（学文社、平成15年2月、2800円）

（会員：岩森龍夫）

IX. 名誉会員 橋本正己先生への追悼

橋本正己先生を悼む

公衆衛生をライフワークとされていた碩学橋本正己先生は、平成15年1月26日没せられました。享年85才。

先生は、敗戦後の荒れはてた日本での農民達の「蚊とはえのいない生活」づくりの実践を学び、公衆衛生の原点として着目されました。地域社会の人々が自らの健康、生活、生産を統一的に把握して、協同しての組織的な活動を公衆衛生活動とされました。この研究はプライマリヘルスワーカーの養成などタイ国などアジア各国で拡がりました。さらに研究は衛生行政学、公衆衛生学原論、公衆衛生史と拡げられ深められました。一方、念願の



日本保健医療社会学会ニュースレター No. 55 2003/8/19

日本保健医療社会学会事務局

東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室内

東京都文京区本郷 7-3-1

(編集：福島道子 発行：的場智子)

1. 第29回大会を終えて

第29回大会が2003年5月17日(土)～18日(日)に龍谷大学大宮学舎(京都市下京区)で開催されました。当学会が関東以外で大会を開催するのは、29年間の歴史の中で、今回がやっと2度目でした。したがって、今回の大会は、当学会が全国学会にふさわしく、関東以外の地で定期的に学会を開催できるかどうか試された大会でもあったと思います。この意味で、そして、少なくとも参加者数という点で、昨年度と変わらぬ数の方々にご参加いただき、成功裡に大会を終えることができました。これもひとえにご参加頂いた皆様方のおかげです。

とりわけ、教育講演の演者および司会者、シンポジウムとラウンド・テーブル・ディスカッションの発表者および司会者、部会の司会者、懇親会の司会者の方々には、1人1人のお名前を記すスペースがありませんが、とりわけ感謝申し上げます。17日の午前の部会から18日午後のラウンド・テーブル・ディスカッションまで、会場からあふれでるほどの参加者と熱気に満ちた発表・質疑・討論が繰り広げられたと聞き及んでおります。ありがとうございました。

ただ、大会引受校としましては反省すべき点が多々あります。たとえば、プログラムの完成が昨年度に比べて遅く、そのためにポスターや案内の作成および配布が遅くなってしまったこと、ポスター、案内、抄録集などで何人かの方々のお名前や所属を間違えてしまったこと、発表者数を低めに見積もっていて、そのためもあって、締め切りを過ぎての発表申込みは受理できなかったこと、いろいろの事情から抄録集の完成そして発送が遅れてしまったこと、初来者には大学の入り口が非常にわかりにくいことに気付かず、ガイドを正門に立たせることを怠ったこと、等々。これらが招いたかもしれない御不便、御不興、御不快につきましては、ご寛恕のほどを。また、当方が気付いていない不手際や失敗もあろうかと思しますので、遠慮なくご指摘いただければと思います。次年度の大会引受校に引き継ぐ所存ですので、よろしく願いいたします。

最後に、下記の方々の発表はキャンセルされました。『抄録集』完成以後にその旨の連絡がありましたので、記録のために、この場に記させていただきます。

第1部会第5発表

立命館大学産業社会学部 松田亮三

「医療への住民参加—英国における新たな挑戦の検討（第1報）—」

第4部会第3発表

立命館大学 北村健太郎

「『神聖な義務』論争をめぐる」

(第29回大会長 黒田浩一郎)

II. 第30回大会のお知らせ

第30回の大会は、2004年5月15日(土)・16日(日)の両日、東京・文京区白山の東洋大学で開催予定です。東洋大学は、他に朝霞・川越・板倉と計4キャンパスを有していますが、白山は本部に相当し、文系5学部と夜間コース、そして大学院があります。都営地下鉄白山駅から徒歩5分、営団地下鉄本駒込駅から徒歩7分と交通至便です。

私は、本学会には、前身の研究会時代の1974年に入会していて、その意味では「古参会員」なのですが、次々に種々の学会・協会・研究会に入会（現在約17）したため、自ずと「引力」の強い学会等に引かれてしまい、いつの間にか、本学会は「付き合いの良くない」方の学会になってしまいました。そんな私に、5月に強力な引力が働き、30回という記念すべき大会の会長のご依頼がありました。その引力の強さに動転しましたが、幸い4月から本学に赴任された小澤温先生が事務局長として全面的に推進役をして下さるので、「多忙病」罹患中ですが、引き受けさせていただくことにしました。

米林学会長・山崎前理事などを交えて、すでに準備会を2回行い、企画案として、(1)メインテーマは「保健医療社会学の現在・過去・未来」(2)メインシンポは「保健医療社会学と社会福祉学」(3)教育ないし記念講演は保健医療政策科学に関わる内容で(4)保健医療社会学の歴史と展望に関するリレー講演を持つ(5)社会調査法についてのラウンドテーブルディスカッションをする、等が出されています。学会の目玉はオリジナルな一般演題という見方もあり、「保健医療福祉政策科学；ヘルスプロモーションと『健康日本21』；健康被害論；ジェンダーと健康」などの要望課題を出す予定です。恥ずかしながら、大会長講演も準備しますので、会員の皆様のオリジナリティ溢れる、また、学術・社会に貢献する演題提出（抄録締切2月末予定）を心から期待しております。

(第30回大会長 片平冽彦)

III. 総会・理事会報告など

1. 第1回理事会 2003年4月29日 於 東京大学

出席者：園田恭一、山崎喜比古（以上前理事）、小澤温、木下康仁、黒田浩一郎、福島道子、

的場智子、米林喜男、小出昭太郎（学会事務局次長）

- （１） 前理事からの引継ぎ事項の報告ならびに新理事の役割分担の決定がなされた。
- （２） 新年度の予算案と活動計画について討議した。

2. 第2回理事会 2003年5月17日 於 龍谷大学大宮学舎

出席者：小澤温、木下康仁、黒田浩一郎、林千冬、福島道子、的場智子、米林喜男、小出昭太郎（学会事務局次長）

- （１） 学会総会の運営、ならびに総会に報告・提案する事項について、検討し決定した。

3. 第29回日本保健医療社会学会総会の報告

学会の総会は、2003年5月17日に龍谷大学大宮学舎にて行われた。議事次第と審議結果は以下の通りである。

学会長 挨拶

議長選出

第1号議案 2002（平成14）年度事業報告

1. 日本保健医療社会学会大会・総会の開催について

- ・ 第28回大会（日赤看護大、2002年5月）の開催。
- ・ 第29回大会（龍谷大、2003年5月）の準備。
- ・ 大会での発表資格について

2. 保健医療社会学論集について

- ・ 学会大会抄録集を論集の特別号として、第13巻は特別号、第1号、第2号の3号分を発行した。
- ・ 論集の販売額：会員外定期購読は特別号を含む1年分1万円。会員外へのバラでの販売は、原則として行わないが例外的に行う場合には1部3000円。

3. 定例研究会・研究部会について

- ・ 定例研究会－関東4回、関西2回の開催。看護研究部会の活動。これらに対し、学会から財政的補助が図られた。

4. 日本保健医療社会学会ニューズレターについて：4号分の発行。

5. 入退会の取り扱いについて：「5年以上滞納者は、資格喪失による退会者として承認・公表する。この滞納期間は漸次ゆくゆくは3年にする。」という昨年の総会決議にしたがい、執行する。

6. 新役員の選挙・選出

7. その他：「学会事務局＝東大大学院健康社会学にしばらくおく。」「事務局次長を設け、理事会にオブザーバー参加してもらおう。」として2年経過。

第2号議案 2002（平成14）年度決算報告、監査報告

日本保健医療社会学会 2002 年度決算書

自 2002 年 4 月 1 日 至 2003 年 3 月 31 日

単位：円

収入の部				支出の部			
	予算額	決算額	差異		予算額	決算額	差異
前期繰越金	219,570	219,570	0	印刷製本費	1,050,000	758,100	291,900
会費収入	2,270,000	2,660,800	390,800	郵送費	470,000	540,780	△ 70,780
学会誌刊行物売上	50,000	126,000	76,000	交通費	135,000	133,328	1,672
受取利息	300	400	100	事務局・広報謝金	350,000	383,500	△ 33,500
広告収入	300,000	40,000	△ 260,000	論集編集謝金	100,000	50,000	50,000
				消耗品費	130,000	325,251	△ 195,251
				会議費	20,000	45,570	△ 25,570
				部会・研究会活動補助費	380,000	446,119	△ 66,119
				その他(振り込み手数料等)	6,000	1,330	4,670
				予備費	198,870	362,792	△ 163,922
合計	2,839,870	3,046,770	206,900	合計	2,839,870	3,046,770	△ 206,900

会計監査 萩原 康子 (印) 山手 茂 (印)

新学会長挨拶と新理事・新会計監査の紹介（敬称略）

理事

米林喜男 : 学会長、渉外 小澤 温 : 定例研究会(関東) 木下康仁 : 論集編集
 黒田浩一郎 : 論集編集 林 千冬 : 定例研究会(関西) 福島道子 : 広報
 的場智子 : 総務

会計監査

平野かよ子 細田満和子

第3号議案 2003（平成15）年度事業計画

1. 日本保健医療社会学会大会・総会の開催について
 - ・ 第29回大会（龍谷大、2003年5月）の開催。
2. 保健医療社会学論集について

3. 定例研究会・研究部会について：概ね 2002 年度の継承
4. 日本保健医療社会学会ニューズレターについて：2002 年度とほぼ同じ。
5. 会員名簿の発行：前は、2001 年 5 月の大会時に発行された。2004 年度早期の発行をめざし、2003 年度は、その作成準備にかかる。
6. その他：第 30 回大会について

第 4 号議案 2003（平成 15）年度予算計画

日本保健医療社会学会 2003 年度予算書

自 2003 年 4 月 1 日 至 2004 年 3 月 31 日

単位： 円

収入の部		支出の部	
	予算額		予算額
前期繰越金	362,792	印刷製本費	1,050,000
会費収入(6000 円×360 人分、 新会員 7000 円×70 人分)	2,650,000	郵送費	420,000
学会誌刊行物売上	100,000	交通費	270,000
受取利息	400	事務局人件費	350,000
広告収入	80,000	論集編集費	50,000
		消耗品費	150,000
		会議費	30,000
		大会・研究会・部会活動補助費	360,000
		名簿作成準備費	60,000
		日本学術会議 社会福祉・社会保 障研究連絡委員会 活動分担金	20,000
		その他(振り込み手数料等)	6,000
		予備費	427,192
合計	3,193,192	合計	3,193,192

第 5 号議案 名誉会員の推挙、その他

- ・ 杉政孝会員 中野進会員を名誉会員に推挙、承認された。

4. 第 3 回理事会 2003 年 7 月 26 日 於 東京大学

出席者：米林喜男（学会長）、小澤温、木下康仁、黒田浩一郎、林千冬、福島道子、的場智子、小出昭太郎（学会事務局次長）

- (1) 第 29 回大会の総括が大会長の黒田理事より報告があり、討議された。

- (2) 第30回大会準備の進捗状況について小澤理事より報告がなされた。
- (3) 学会誌の編集委員会の構成ならびに次号および次々号の編集・発行方針、編集規定の改正点について黒田編集担当理事より提案され、討議された。
- (4) 今秋に関東と関西で開催する予定の定例研究会に関し、開催案が小澤、林両研究活動担当理事から提案され、討議された。
- (5) 日本学術会議の登録不備の件、ならびに科学技術振興事業団による複写物著作権処理手続きに関して的場総務担当理事より報告があり、討議された。
- (6) 長期にわたり学会費未納の会員に対する資格喪失退会措置手続きに関して、的場総務担当理事、小出事務局次長より報告・提案があり、討議された。
- (7) 次回理事会を11月7日(金)6時より東京大学にて開催することとなった。

5. 大会開催にあたり、中野進会員より学会に20万円の寄付をいただきました。ここに
お名前を記して、感謝の印とさせていただきます。

(総務担当理事 的場智子 学会事務局次長 小出昭太郎)

IV. 新学会長挨拶

日本保健医療社会学会会長 米林 喜男

理事改選によって構成された新理事会の中で、もっとも古くから本学会と関わりを持つものであるという理由のため会長に選ばれましたので、ご挨拶を申し上げます。

本学会の母体である、保健・医療社会学研究会が発足したのは29年前の1974年1月でした。研究会発足後15年を経た1989年5月には、「日本保健医療社会学会」へと名称が変更されました。来年(2004年)は、本学会も日本保健医療社会学会として装いを新たにしてから15年という節目を迎えることになり、研究会発足から通算いたしますと丁度30年になります。論語の中に“われ十五にして学に志し、三十にして立つ”という記述があります。この言葉を本学会に当てはめ、来年は会員の皆様とともに大なる飛躍の年にしたいと思います。そこで、会員の皆様には日頃の研究成果を年2冊発刊となりました保健医療社会学論集へ積極的にご投稿いただくとともに、来年の5月に東洋大学で開催されます学会大会で多数ご報告下さいますよう新会長としてお願い申し上げます。1974年11月に開催されました保健医療社会学研究会結成総会の折のシンポジウムでは、奇しくも私と篠原武夫先生(東京医科歯科大学)が司会を務め「保健医療社会学の課題と方法」というテーマの下で、那須宗一(中央大学)、安倉正夫(日本大学)の両先生にご報告をいただきました。那須、安倉、篠原の三先生とも既に鬼籍に入ってしまったわけです。私の役割はこうした第1世代ともいべき先生方と新理事の方々に代表される第3世代ともいべき先生方との橋渡しをすることではないかと思っております。どうか会員の皆様のご支援とご鞭撻をよろしく願います。

V. 学会役員退任の挨拶

日本保健医療社会学会の方向性への模索

日本保健医療社会学会の学会長として、平成13年5月より平成15年5月まで7名の理事と2名の監事により学会運営を進めてまいりました。実際の運営に当たり、学会長の重責を感じ理事会の役員の皆様の熱心な活動および事業遂行に支えられ今日に至りました。改めて謝意を申し上げます。本学会は、学会体制の整備が進む中で学会としての拡充を図るため、学会の組織、運営、財政、会員確保、学会活動の場を広げることなどの当面の課題がありました。また学会の役員の世界交代も今後進むことも考え、学会の在り方が問われていると思います。そのような状況で関東と関西の定例研究会を行い、学会も関東（東京）で開催し今回は関西（京都）で開催されました。会員については、徐々に増加傾向にあるが、財政は厳しい状況で行われている。そこで今後について感じたことについて述べる。

本学会は、保健医療社会学会としての学会の幅の広さが特色であり、他職種の学際性を基盤にしていることが、学会としての閉塞感がなく、専門的学会より一歩広げた学会として存在し、学会体制も整備されてきており、会員は問題意識や学際性の利点を求めていることより、様々な立場での話し合いや交流が図れることで会員が広がる工夫も考えられる。

1. 学会としての斬新さを取り入れて、研究会発表する、講演・シンポなどを開く、交流セッションなどに参加する。交流セッションでは、定例研究会や看護研究部会で取り上げたい課題や、保健医療社会で問題となっていることなどを自主企画による方法で実施することを取り入れ学会を活発にする。
2. 保健医療社会学会として何を構築し継承するのか検討する必要性
例えば、看護研究部会では各自の専門的研究の報告による検討会、その後、看護社会学とは何かの共通認識を図るための文献検討会、さらに「看護社会学」の研究会に築きつつある。専門職としてはいかに専門能力を身につけ質の良いケアを提供するかを常に課題にする。それに対する社会的アプローチはその計画、プロセス、結果においての様々な現象をどのように捉え、分析できるのか、専門的行為の行われ方とそれに伴う社会的機能、構造、関係性を明らかにしたり、社会の反応などを分析することで、専門職のケア提供の本質や問題性を見出せるかも知れない。また、方法の検討にもつながり、看護社会学の方向性を探る結果に至る。
3. 定例研究会の活用
年間計画を立て会員が参加し易いようにして、講演とそれによる共通問題をとりあげ話し合えるような深める会なども考えられる。
4. 学会誌の発刊と活用
教育・研究機関への配布
5. 財政基盤の問題の検討

最後に本学会の発展と会員が参加、活用できる学会に期待します。

(前学会長 渋谷優子)

VI. 関東地区定例研究会について

関東地区定例研究会はこれまで年間4回程度の開催で行われてきました。今年度もこの方針を引き継ぎながら進めていきたいと思っています。ただし、今年度は新旧理事の交代と次年度の30回大会の事務局を引き受けるなどの事情によって、1回少なく、3回程度の開催を企画しています。

内容的には、30回大会の企画のための学習会的な位置づけも兼ねて、以下の3つのテーマに関連する報告を企画しました。保健医療社会学と質的な調査方法に関連する報告、社会保障や保健医療福祉政策に関連する報告、国際生活機能分類を中心とした最近の国際的な障害の考え方に関連する報告、の3つです。

今年度の1回目は下記の通りに開催します。2回目、3回目の開催時期は12月、3月を予定していますが、報告者の予定もありますので、多少の変更もあるかと思えます。

定例会での学習を深めた上で、次年度の30回大会につなげていきたいと思えますので、会員の方は、ぜひ、ふるって定例会にご参加くださるようお願いいたします。

新理事として不慣れなことも多く、定例会の運営では、会員の皆様にご迷惑をおかけすることが多々あるかもしれませんが、ご了承ください。また、会員の皆様から定例会の企画や報告者についてなにかよいアイデアや情報などがありましたら、ぜひ、お知らせください。

第173回定例研究会（関東地区例会）

日時 10月17日（金） 18時から20時

講師 木下 康仁 先生（立教大学・社会学部・教授）

テーマ 実践の理論化と質的研究

場所 東洋大学・白山キャンパス 2号館15階（旧）社会学研究所
（地下鉄三田線・白山駅下車5分、地下鉄南北線・本駒込駅下車5分）

連絡先 小澤 温（東洋大学・社会学部・社会福祉学科）

TEL ■■■■■ FAX ■■■■■

（関東地区定例研究会担当理事 小澤 温）

Ⅶ. 関西地区定例研究会について

★★★近日開催★★★

関西地区定例研究会のご案内

テーマ「代替・補完医療と保健医療社会学—日本とイギリスの現状からの考察—」

日時：2003年9月14日（日）午後2時～6時

場所：大阪・梅田「YWCA 山西記念福祉会館」

（大阪市北区神山町 11-12 tel. [REDACTED]）

- * 第1報告：「イギリスの看護実践と看護教育における代替・補完医療」
Les Storey 氏（University of Central Lancashire 教授・看護師）
※逐次通訳：黒野利佐子氏（京都市立看護短期大学）
- * 第2報告：「現代日本の代替医療—社会的考察のためのメモ」
佐藤純一氏（高知医科大学）
- * コメンテーター：黒田浩一郎氏（龍谷大学）

今年度第1回目の関西地区定例会では、代替・補完医療をテーマに、急速に看護制度・教育改革の進行するイギリスにおける現状と日本の現状、そしてそれらが保健医療社会学にどのような論点や課題をもたらすかについてご報告いただきます。関西地区の会員はもとより、テーマにご関心をお持ちの多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

事前申し込みは不要です。当日直接お越し下さい。お問い合わせは下記にどうぞ。

担当：林千冬（神戸市看護大学） [REDACTED]

（関西地区定例研究会担当理事 林 千冬）

Ⅷ. 看護研究部会報告のご案内

4月の例会は、5月大会でのラウンドテーブルディスカッションに合わせ討論した。まず、吉田澄恵が、「『医療』の過小と『看護』の拡大の狭間の看護職」と題した話題提供予定内容を紹介。続いて、司会者となる細田満和子氏が「医療の過小」を問うことの医療社会学の歴史的文脈における背景と意義についての見解を示した。これについて、討論し、①「医療」という概念は、「医学的管理」なのか、②医療化に関する批判そのものが無効なのではなく、「医療提供の過小」について論じる必要がある、③看護職はこの時期だからこそ、退院計画やクリティカルパス作成といった連携のためのポジティブな変化を遂げている側面もあるといった意見交換がなされた。

5月末の例会では、三井さよ氏が、「ケアの持続へ向けて—問題的状況における賭けとしての戦略的限定化—」と題した試論を発表した。この報告では、「キュアからケアへ」とす

る医療の転換点を、医療専門職が自らの観点の限界を乗り越えて患者の「生」の多様性に開かれることと捉え、看護職が直面している患者との相克というケアを持続する上で危機的な状況（問題的状況）に焦点をあてられた。そして、この問題的状況で、看護職は「話を聞く」という戦略的限定化によって、患者の「生」の多様性に開かれ、働きかけの多様性を生み出そうと試みているという見解を示した。これに対し、「戦略的限定化」という命名の妥当性やその意義についての意見交換がなされ、こうした戦略的限定化に基づく一連の行為連鎖を「支える」ような場を作り出すことの必要性等が討議された。次回は9月20日、案内等希望の方は、事務局吉田まで（XXXXXXXXXX）。

（看護研究部会 吉田 澄恵）

IX. 編集委員会からのお知らせ

今年度の理事改選に伴い、これまで『保健医療社会学論集』編集担当理事を勤められて来られた朝倉隆司氏（編集委員長）と野口裕二氏（副編集委員長）が、理事の任期制限の規定により、退任となりました。代わって、新理事の中から、私と木下康仁氏が、それぞれ編集委員長および副編集委員長として、『論集』編集の任に当たることになりました。2人とも、学会機関誌の編集の仕事は初めてですので、何かとうまく行かないところあるかと思いますが、よろしく願いいたします。とくに、論文の投稿、書評でとりあげるべき本の推薦、インフォメーションでとりあげるべき話題の提案をお願い申し上げます。

また、これに伴い、下記のように、編集委員も改選となりました。新編集委員会の顔ぶれは以下の通りです。委員の選出にあたっては、任期は連続して4年までとすることにし、また、委員の負担軽減をはかって、委員の数を増やしました。

櫻田 美雄（徳島大学）
金子 雅彦（防衛医科大学校）
佐藤 純一（高知医科大学）
佐藤 哲彦（熊本大学）
杉澤 秀博（東京都老人総合研究所）
田村 誠（国際医療福祉大学）
中川 薫（都立保健科学大学）
西田 真寿美（岡山大学）
林 千冬（神戸市立看護大学）
橋本 英樹（帝京大学）
宮本 真己（東京医科歯科大学）

なお、上記に伴い、編集委員会事務局が下記に移転しました。今後、論文の投稿などは下記の方にお問い合わせいたします。

『保健医療社会学論集』編集委員会事務局
〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
龍谷大学社会学部社会学科黒田研究室
tel. [REDACTED] fax. [REDACTED] (共用)
e-mail [REDACTED]

(論集担当理事 黒田浩一郎)

X. 旧理事からのお知らせ

日本学術会議登録学会としての手続きのミスについてのお詫び

日本保健医療社会学会が登録していた日本学術会議から、昨年当学会に登録継続手続きの案内文書が送られたとされているにもかかわらず、送付先未変更に関連して生じた案内文書の紛失と、総務担当理事と事務局責任者としての私の失念とにより、登録継続手続きが放置され、その結果、本学会が第19期(2003年7月~2006年7月)の日本学術会議登録団体から外れてしまっていること、今からはその回復はできないことが本年5月に判明しました。

当時の総務担当理事であり学会事務局責任者として、重大なミスを犯し、会員の皆さまには大変なご迷惑をおかけすることになってしまいましたことを深くお詫び申し上げます。もとより、本学会が日本学術会議登録団体としての資格要件を十分に満たしていることにはいささかも変わりありません。来る第20期の学術会議への登録手続きは滞りなく行われますよう、組織上の改善を含めて、現総務担当理事と学会事務局には申し送りお願い致しましたことをご報告し、お詫びに代えさせていただきます。

(前総務担当理事・前学会事務局責任者 山崎 喜比古)

会員の声

第29回大会に参加して

京都ということで今回の学会は格別な楽しみがあった。京都の町並みや風情は心惹かれてしまうたまたまいが随所にあるし、京料理や漬物は私の大好物。しかも学会会場は東本願寺や二条城の近くとあって駅から歩くだけで「日本」を感じさせる。私は講演依頼などでも「京都」と聞くと二つ返事で承諾してしまうことが多い。事実、京都への出張は多いような気がする。ともあれ、さわやかな初夏の風に吹かれながら京都駅から徒歩で会場へ向かった。この「徒歩」という響きが、優雅?でまたよい。都心の生活を送る日常から離れ、一層、心を和ませてくれる。

さて、今回の学会では「医療における患者中心、患者の主体的な決定と参加」という一般演題セッションで第1部会の座長としての役割を持って参加した。2時間という長いセッションで演題は6題あり、どれも社会問題として挙げられるような重要なキーワードを持っていた。このセッションでは「ヘルスリテラシー」という新しい概念の紹介から始まり、諸外国での健康教育実践モデルの紹介、DV被害女性への Empowerment 支援とは何か、患者の健康行動にアウトカムをもたらす診療、サービス利用における要介護者の主体性など、幅広く議論された。フロアからの質問も活発で、そのやり取りから、現在の保健医療福祉のあり方やその社会環境への模索ということに関心が注がれたことは、この学会のテーマともリンクしたよいセッションであった。保健医療社会学研究によって明らかにするべく、ケア提供による社会貢献を意図した研究成果の発表であり、自分自身にとっても研究とは何かについて考える機会となり、感謝している。「参加してよかった」と満ち足りた気持ちで東京への帰途についた。

(聖路加看護大学 長江弘子)

インフォメーション

第8回日本在宅ケア学会学術集会

日時 平成16年1月24日(土)9時-17時

場所 日本教育会館(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)

メインテーマ 「在宅ケアの多様な展開」

学術集会長 福島道子(日本赤十字看護大学)

問い合わせ先 日本赤十字看護大学内 第8回日本在宅ケア学会学術集会事務局

TEL. [REDACTED] FAX. [REDACTED]

新入会員および退会者 (3月18日~7月23日) (敬称略)

・入会

[REDACTED]	[REDACTED]

編集後記

梅雨明け宣言がなかなかされず夏の暑さを待ち遠しく思っていたのですが、いざ、気温が高くなると身体の調子もふるわない状態の日々となりました。手に入らないものを欲しがり、手に入れば以前に抱いた思いを忘れていた自分でした。

さて、会員からの投稿も積極的に載せていきたいと思っておりますので、「会員の声」欄への投稿、学会や研究会の告知、最近出版した著書の紹介などお寄せ下さい。投稿の方法は郵送、ファクシミリ、Eメールが可能です。

郵送：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内
日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子

FAX： [REDACTED] (日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子)

Eメール： [REDACTED]

なお、紙面の都合等により、原稿の採否、若干の修正は当方にご一任願います。

(広報担当理事： 福島 道子 / 文責： 千葉 京子)

日本保健医療社会学会ニュースレター No. 56 2003/12/20

日本保健医療社会学会事務局

東京大学大学院医学系研究科健康社会学研究室
東京都文京区本郷 7-3-1

(編集：福島道子 発行：的場智子)

1. 第30回日本保健医療社会学会大会のお知らせと発表演題募集

第30回日本保健医療社会学会大会を下記のように開催いたします。

本大会はメインテーマ「保健医療社会学の現在・過去・未来」を掲げ、わが国の保健医療社会学がこれまでどのような研究課題と研究方法を行ってきたのかについて振り返りながら、現在、どのような研究が行われ、また、期待されているのか、将来どのような課題についての研究が期待されるのか、について議論を深めていきたいと考えています。また、大会1日目では、現在大きな争点となっている（社会福祉改革、医療改革を含めた）社会保障改革のあり方を踏まえながら、保健医療社会学の課題を深めたいと考えています。

皆様方の参加をお待ちしております。また、非会員の方のご参加も歓迎いたしますので、どうぞお誘いあわせの上お越しく下さい。

[記]

1. 日程 2004年5月15日(土)、16日(日)
2. 会場 東洋大学・白山キャンパス(地下鉄・三田線・白山駅、地下鉄・南北線・本駒込駅、徒歩5分)
3. 大会長 片平 洌彦(東洋大学・社会学部)
4. プログラム概要
5月15日(土)
9:20 受付開始
10:00~12:00 一般演題セッション、要望演題セッション
13:00~14:00 記念講演
神野直彦(東京大学大学院・経済学研究科)「競争社会から協力社会へ

- ー日本保健医療社会学会に期待する」
 司会：片平洸彦（東洋大学・社会学部）
- 14:10～16:40 シンポジウム「保健医療社会学と社会福祉学」
 大友信勝（東洋大学・社会学部）
 黒田研二（大阪府立大学・社会福祉学部）
 牧野忠康（日本福祉大学・社会福祉学部）
 司会：山崎喜比古（東京大学大学院・医学系研究科）、須田木綿子（東洋大学・社会学部）
- 16:50～17:30 総会
 18:00～20:00 懇親会

5月16日（日）

- 9:20 受付開始
- 10:00～12:00 一般演題セッション、要望演題セッション
- 13:00～13:45 大会長講演
 片平洸彦（東洋大学・社会学部）「薬害・難病・脂質栄養問題研究を通じて21世紀の保健・医療・福祉を考える」
- 13:50～14:50 リレー講演「日本における保健医療社会学の歴史と展望」
 姉崎正平（第一福祉大学）
 北原龍二（桜花学園大学）
 篠野脩一（熊本学園大学）
 司会：米林喜男（順天堂大学）
- 15:00～17:00 ラウンド・テーブル・ディスカッションA
 テーマ：保健医療分野の調査研究水準アップのための格闘と工夫ー実証性、実践と理論への示唆、エンパワーメントの観点から（仮題）
- ラウンド・テーブル・ディスカッションB
 テーマ：「病の経験と語り」を明らかにする意義

5. 参加費

- *大会参加費 学会員 4,000 円（4月30日までの申し込み）、学会員 5,000 円（5月1日以降、当日申し込み）、非会員 6,000 円
- *学生参加費 学会員 3,000 円（4月30日までの申し込み）、学会員 4,000 円（5月1日以降、当日申し込み）、非会員 5,000 円
- *懇親会費（事前申し込み、当日申し込み、いずれも）一般 5,000 円、学生 2,000 円

☆参加費は同封した郵便振り込み票にて送金してください。懇親会に事前申し込みされる方は大会参加費と合計して送金してください。

6. 演題募集

昨年度に引き続き、本大会でも「一般演題」と「要望演題」を募集します。

発表は、「一般演題」と「要望演題」とも、以下の要領でお願いします。

- (1) 1演題につき、発表は12分、質疑は8分の予定です。
- (2) 発表の際に、OHPまたはパワーポイントを使うことができます。使用を希望する場合は、同封した「演題申込書」の該当箇所には○印を付けてください。なお、会場の設備の都合上、OHP、パワーポイントいずれも可能な方は、できるだけOHPをご利用ください。
- (3) OHPサポートは各自でお願いします。
- (4) 配布資料がある場合は、各自で50部用意し、当日、会場で配布してください。
- (5) 発表日時は4月にお送りする抄録集に載ります。各自でご確認ください。

要望演題は、以下のように、保健医療社会学が取り組むべきテーマを掲げ、皆様に議論し、交流していただきたいとの趣旨で設けました。

- (1) 保健医療福祉政策科学分野
- (2) ヘルスプロモーションと健康日本21
- (3) 健康被害論
- (4) ジェンダーと健康

7. 演題申込み方法

(1) 申込み方法は「一般演題」「要望演題」とも同じです。なお、「一般演題」で申し込まれた場合でも、「要望演題」セッションで発表していただくことがありますので、ご了承ください。

(2) 発表資格は、研究者、共同研究者とも会員であることが必要です。会員でない方は、大会までに入会手続きを済ませてください。入会手続きは、学会事務局（東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室）までお願いします。

(3) 発表抄録を下記の要領で作成し、その原本1部、コピー1部の計2部を、そのファイルを保存したフロッピーディスク、「演題申込書」と一緒に、大会事務局（東洋大学・社会学部片平研究室）へ2004年2月27日（金）までにお送りください。大会事務局では、抄録を頂戴した時点で、受理した旨のハガキを郵送します。なお、フロッピーディスクは返却しません。

- (a) 締め切り：2004年2月27日（金）必着
 (b) 形式：A4判1枚、ワープロ横書き、40字×40行、明朝体
 (c) 上下30mm、左右25mmの余白
 (d) 演題を第1行中央寄せで、氏名（所属）を第3行に右寄せで、本文は第5行から始めてください。連名の場合は、発表者に○を付けてください。
 ☆なお、抄録は抄録集の段階でB5判に縮小されますので、文字や図表の大きさに注意してください。

8. 事務局

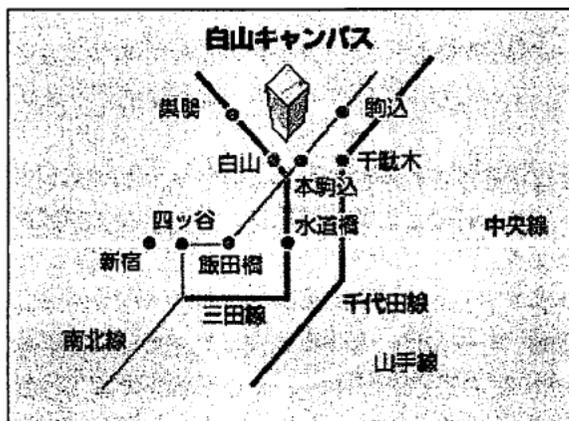
〈大会事務局〉

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
 東洋大学・社会学部・片平研究室内
 第30回 日本保健医療社会学会大会事務局
 FAXのみ [REDACTED]
 E-MAIL: [REDACTED]

〈学会事務局（学会入会の問い合わせ）〉

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
 東京大学大学院・医学系研究科・健康社会学教室内
 日本保健医療社会学会事務局
 E-mail: [REDACTED]

9. 大会会場周辺図



(第30回大会事務局長 小澤 温)

II. 第4回理事会報告

2003年11月7日(金) 於 東京大学

出席者：米林喜男(学会長)、小澤温、木下康仁、黒田浩一郎、林千冬、的場智子(各理事)、片平冽彦(次期大会長)、小出昭太郎(学会事務局次長)

1. 第30回大会(2004年5月15・16日、於 東洋大学白山校舎)について

1) 次期大会事務局長(小澤理事)より、大会のメインテーマ、シンポジウム企画、記念講演、今後のタイムスケジュール等について報告され、討議の上、了承された。

また次期大会長の片平会員(東洋大学)からも大会長講演、記念講演に関する説明を受けた。

2) 次号ニューズレターに第30回大会のプログラム概要を発表することが確認された。

2. 定例研究会について

関東地区例会と関西地区例会について、各担当の小澤理事、林理事より今後の予定などの提案があり、討議された。

3. 学会誌(『保健医療社会学論集』)の編集と発行等について

担当の黒田理事より、6月発行予定の第14巻1号が会員の手元には10月に届けられることになった経緯と、12月中発行予定の次号(第14巻2号)の準備状況が報告された。また投稿規定、執筆要項改定の提案がされ、討議された。

4. 科学技術振興事業団による複写物著作権処理手続きについて

的場理事より、科学技術振興事業団による複写物著作権処理に係る手続きについて報告がされた。またこれに関連し、本学会としても学会誌に掲載された論文の著作権および版權について今後検討していく必要があることが確認された。

5. 新入会員の承認ならびに退会者の確認について

小出事務局次長より、7月24日以降10月31日までの入会および退会希望者の報告があり、いずれも承認された。

6. ニューズレターについて：掲載記事のアウトラインについて討議、決定した。

7. その他：小出事務局次長より、今年度作成予定の学会員名簿の項目案が提案され、討議された。また次回理事会は、2004年1月10日(土)15時より東京大学で開催となった。

(総務担当理事 的場智子)

III. 関東地区定例研究会について

平成15年度の1回目(第173回)の関東地区定例研究会は10月17日に東洋大学・白山キャンパスにおいて開催されました。講師は、木下康仁会員(立教大学・社会学部・教授)で、テーマは「実践の理論化と質的研究」でした。この定例研究会は、質的研究への関心の高まりと第30回大会に向けてのPRを兼ねて、非会員に対しても幅広く呼びかけることにしました。そのため、当日の参加者は、会員40名、非会員80名の合計120名の

参加者になりました。参加者が多かったために、十分な討論がなされなかった課題はありますが、参加者（特に、非会員）に対しての学会PRには大いに貢献したと思いますので、今後も内容によっては公開の定例研究会を企画したいと思います。

2回目（第174回）の関東地区定例研究会は12月19日に東洋大学・白山キャンパスにおいて開催されました。講師は佐藤久夫氏（日本社会事業大学・教授）で、テーマは「国際生活機能分類（ICF）について」でした。

3回目（第175回）の関東地区定例研究会は1月23日に東洋大学・白山キャンパス・5号館（井上記念館）・5202教室、午後6時から8時の時間で行います。講師はセシル・ディディエジャン氏（パリ第10大学・大学院、早稲田大学・客員研究員）で、テーマは「妊娠と出産をめぐる身体感」です。セシル氏は文化人類学を専攻され、現在、日本の医療機関での調査研究を進めており、貴重な報告を聞くことができると思います。多くの会員の参加をお願いします。

なお、4回目（第176回）関東地区定例研究会は3月5日に東洋大学・白山キャンパスで開催し、講師は秋元美世氏（東洋大学・社会学部・教授）で、社会保障に関するテーマを予定しています。詳しくは改めてご案内します。

（関東地区定例研究会担当理事 小澤 温）

N. 関西地区定例研究会について

★★★保健医療社会学会・関西地区定例研究会のご案内★★★

テーマ「医療と看護の相互行為分析－エスノメソドロジーによる探究－」

日時：2004年3月6日（土）午後2時～5時（午後1時半開場）

場所：京都駅北歩3分「キャンパスプラザ京都」2階第3講義室

（地図は次ページ、

JR 京都駅ビル駐車場西側・京都中央郵便局西側、

下京区西洞院通塩小路下ル tel. [REDACTED]）

* 講演タイトル：「悪い知らせをいかに伝えるか（仮題）」

講師：Douglas Maynard 氏（University of Wisconsin 教授・医療社会学者）

指定討論者：未定

※司会進行：林千冬（神戸市看護大学）& 樫田美雄（徳島大学）

※逐語通訳あり。講演要旨（日本語）を含んだ資料配付あり

* 資料代：会員無料。非会員の方のみ資料代として500円

後援：日本 EMCA 研（予定）

* 参考文献：D. Maynard 2003 『Bad News, Good News』 The University of Chicago Press.

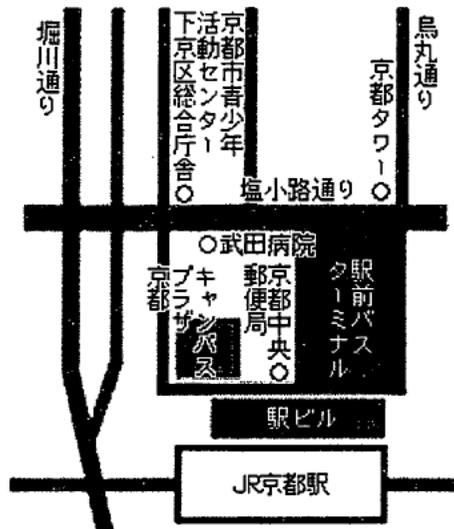
今年度第2回目の関西地区定例会は、明年3月6日、「医療と看護の相互行為分析」をテーマに開催する運びとなりました。医療と看護にかかわる質的調査法の中でも最近とくに注目を集めている「会話分析」および「エスノメソドロジー研究」の成果を、「Bad News Telling」研究の第一人者であるメイナード博士にご講演頂きます。

いったい医療者と患者と患者家族の間のどのようなコミュニケーションが、「悪い知らせ」を可能にしたり、問題あるものにしたりするのか。メイナード博士のご研究の特徴は、的確な実践例に基づいた議論展開にあり、調査方法論に関心のある方々だけでなく、医療の実践家の皆様にとっても意義ある研究例会になるものと考えております。

会場は、京都駅前徒歩3分の大変便利な場所にいたしました。150名収容が可能ですので、会員、非会員を問わず、どうぞ奮ってご参加ください。

事前申し込みは不要です。当日直接お越し下さい。お問い合わせは下記にどうぞ。

担当：樫田美雄（徳島大学）TEL&FAX [REDACTED]



(関西地区定例研究会担当理事 林 千冬)

V. 看護研究部会報告

9月の例会は、「生体肝移植ドナーのニーズとケアの可能性について」と題し、清水準一氏(東京大学大学院)から、先端医療と家族の問題に関する概観の後、ドナーとその家族を対象とした調査に基づいた報告がなされた。主なものとして、大多数が術前に比し90%以上回復していると回答したが、完全に回復したとするドナーでも回復に約4ヶ月かかっていたこと、術後に抱える主な問題点として、レシピエントの術後の生存、生活についての情報不足、レシピエントの治療を受けられる期間が限定され外来受診の負担が大きいこと、特に成人では経済的な負担の高いこと、さらに、移植に至る過程で、紹介元の医師の説明に不足や不満を感じたとの回答が約30%あり、移植施設で説明を受ける段階では、ドナーになることを決意しその場で決断したというものが半数以上を占めた等であった。これらから不適切な情報提供はドナー候補者への圧力を高めることにもつながるため、移植外科医からの説明以前の段階でどのように生体肝移植の情報を提供するかの課題が示された。その後、移植コーディネーターの資格認定や、移植病院と接触を持つ以前の段階からニーズを持つ患者や家族への看護へのあり方等の議論が交わされた。

11月の例会は、「ホームレスが抱える保健医療問題の現状と課題」と題して、守田美意子氏(東洋大学大学院)の報告があった。新宿区の路上生活実態調査に参加した経験と、緊急一時保護センターにおける継続的なフィールドリサーチ、看護相談経験の中で得られたケース報告では、利用できる福祉制度としての医療券の使用すらほとんど知らない情報弱者としてのホームレスの状況が語られた。その上で、ホームレスの保健医療

問題に活用できる我が国の法制度として、健康保険法の日雇い特例非保険者に関する特例や、老人保健法、結核予防法、労働安全衛生法、地域保健法を概観し、平成14年8月に成立した、ホームレスの自律の支援等に関する特別措置法（自律支援法）における保健医療問題のもつ対応の課題などについての見解が述べられた。さらに、今後の研究デザインについて説明があり、実態としての保健医療問題について検討することと、福祉制度上の保健医療問題への課題について検討することの分離の必要性、研究者の問題意識の共有などについて意見交換があった。さらに、法を運用する位置にある行政の保健師等の運用実態に関する調査や、健康問題が深刻化した状態で経済問題も抱えている患者として対応することになる病院看護職が、ケースを理解していく上では、ホームレスの健康観や社会的背景等に関する研究が必要ではないかといった意見があった。

今回は、1月10日。案内等希望の方は、事務局吉田まで [REDACTED]。
(看護研究部会 吉田 澄恵)

VI. 編集委員会からのお知らせ

機関誌『保健医療社会学論集』第14巻1号が予定(2003年6月)よりも大幅に遅れて刊行されました。理事改選に伴う新編集委員会の立ち上げおよび前委員会からの引継などに手間取ったためです。このため、受理論文の発行および投稿論文の査読が遅れることになってしまいました。関係者の方々にはお詫び申し上げます。

委員会では、目下、次号(第14巻2号)の刊行に向けて作業を行っています(2003年12月発行予定)。次号では、今年度大会の教育講演、大会長講演、シンポジウム発表3本の掲載を予定しています。合わせて、投稿論文、インフォメーション1本、書評2本を掲載の予定です。

論文の投稿状況ですが、投稿はさかんといえますが、査読を経て掲載受理にまで至るものは、その数が年に2回の発行にはぎりぎりの状態です。会員の皆様方には今以上の投稿を切にお願いいたします。なお、投稿は随時受け付けております。

それから、編集委員会では、「投稿規定」および「論文執筆要項」の改正を検討しています。おもな検討事項は、「研究ノート」の制限枚数(現行10枚)と、引用・参照の挙示方法(現行では、該当ページ数が示されない)です。決定次第、お知らせいたします。

申すまでもなく、上記のことすべてに関して、会員の皆様方からの要望あるいは提案をお待ちしております。遠慮なく、編集委員会までお伝えください。

最後に、繰り返しになりますが、投稿論文が不足気味です。換言すれば、掲載が受理されれば、即掲載という状況です。どうか、論文の投稿をよろしくお願い申し上げます。

(編集委員会委員長 黒田浩一郎)

VI. 『学会員名簿』用アンケートと登録確認のお願い

このたび『学会員名簿』を作成いたします。2004年度早期にお配りすることをめざしております。同封の葉書に必要事項をご記入の上、お早めに（なるべく1月9日までに）学会事務局宛にご返送ください。『学会員名簿』に掲載してよい項目には○をおつけください。

また、その葉書で登録住所等の確認を兼ねさせていただきます。変更のある方は、『学会員名簿』への掲載の可否にかかわらず、ご記入をお願いします。変更のない方も、確認のため、掲載の可否にかかわらずご記入いただけますと幸いです。ご記入がない場合には、現在の登録住所等のままとさせていただきます。

E-mailアドレスをお持ちの方は、連絡事務の効率化のため、掲載の可否・変更の有無にかかわらず、必ずご記入くださいますようお願いいたします。

お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。ご不明な点は学会事務局 [REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED] までお問い合わせください。

(学会事務局次長 小出昭太郎)

インフォメーション

☆新刊書のご案内

岩森龍夫他著「経営戦略と組織」全日本法規、平成15年8月

岩森龍夫他著「コーポレートガバナンスと企業価値」全日本法規、平成15年8月

◇ 日本健康科学学会シンポジウム

テーマ 「安全で安心できる健康食品とは～サプリメントの理解と適切な利用」

日時 平成16年2月7日(土) 10:00～17:00

会場 東京医科大学病院 臨床講堂 6階(東京都新宿区西新宿6-7-1)

問合先 日本健康科学学会シンポジウム事務局

Tel [REDACTED]

E-mail [REDACTED]

HP <http://www.hs.ipu.ac.jp/HIS/index.html>

◇ 第8回日本在宅ケア学会学術集会

日時 平成16年1月24日(土) 9:00～17:00

場所 日本教育会館(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)

メインテーマ 「在宅ケアの多様な展開」

学術集会長 福島道子(日本赤十字看護大学)

問い合わせ先 日本赤十字看護大学内 第8回日本在宅ケア学会学術集会事務局

TEL. [REDACTED]

◇看護研究部会定例会 1月の招待講演

テーマ：看護と情報

講師：中山和弘氏（聖路加看護大学）

日時：2004年1月10日（土） 15:00～17:00

会場：聖路加看護大学 602号室

参加費：看護研究部会員は無料、看護研究部会員外の方は500円となります。

インターネット時代の中で情報の共有化が進み、意志決定が難しくなっている面と容易になっている面がある。このような背景の中、看護職は、情報について何をどのように意識していけばよいのだろうか。中山氏が、インターネット社会と看護職の接点の中でお考えになっておられることとお話いただきます。

問い合わせ先：参加希望者は長江まで連絡をお願いします。E-mail [REDACTED]

新入会員および退会者（7月24日～10月31日）（敬称略）

・入会

[REDACTED]

・退会

[REDACTED]

（学会事務局次長 小出昭太郎）

編集後記

先日、宮崎県延岡市を訪れる機会がありました。出発時刻となった宮崎空港行きの電車に乗車していたところ、次のようなアナウンスが聞こえてきました。「まだ、乗客1名いらっしゃいます。」しばらくすると、階段を降りてきた乗客が電車に乗り込んできました。本数が少ないので乗り遅れたら大変です。改札係の駅員と運転手の連携に心がちょっと温まる感じがしました。いよいよ2004年が近づいてきました。皆様の新年が幸多き、心温まる年となりますことを願っています。

さて、会員からの投稿も積極的に載せていきたいと思いますので、「会員の声」欄への投稿、学会や研究会の告知、最近出版した著書の紹介などお寄せ下さい。投稿の方法は郵送、ファクシミリ、Eメールが可能です。

郵送：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内

日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子

FAX： [REDACTED] (日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子)

Eメール： [REDACTED]

なお、紙面の都合等により、原稿の採否、若干の修正は当方にご一任願います。

(広報担当理事： 福島 道子 / 文責： 千葉 京子)

日本保健医療社会学会ニュースレター No. 57 2004/2/12

日本保健医療社会学会事務局
東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室内
東京都文京区本郷 7-3-1
(編集：福島道子 発行：的場智子)

I. 第30回日本保健医療社会学会大会のお知らせと発表演題募集（第2報）

第30回日本保健医療社会学会大会を下記のように開催いたします。

本大会はメインテーマ「保健医療社会学の現在・過去・未来」を掲げ、わが国の保健医療社会学がこれまでどのような研究課題と研究方法を行ってきたのかについて振り返りながら、現在、どのような研究が行われ、また、期待されているのか、将来どのような課題についての研究が期待されるのか、について議論を深めていきたいと考えています。また、大会1日目では、現在大きな争点となっている（社会福祉改革、医療改革を含めた）社会保障改革のあり方を踏まえながら、保健医療社会学の課題を深めたいと考えています。

皆様方の参加をお待ちしております。また、非会員の方のご参加も歓迎いたしますので、どうぞお誘いあわせの上お越しください。

[記]

1. 日程 2004年5月15日（土）、16日（日）

2. 会場 東洋大学・白山キャンパス（地下鉄・三田線・白山駅、地下鉄・南北線・本駒込駅、徒歩5分）

3. 大会長 片平 洸彦（東洋大学・社会学部）

4. プログラム

5月15日（土）

9:20 受付開始

10:00～12:00 一般演題セッション、要望演題セッション

13:00～14:00 記念講演

神野直彦（東京大学大学院・経済学研究科）「競争社会から協力社会へ——日本保健医療社会学会に期待する」

司会：片平洸彦（東洋大学・社会学部）

14:10～16:40 シンポジウム「保健医療社会学と社会福祉学」

大友信勝（東洋大学・社会学部）

黒田研二（大阪府立大学・社会福祉学部）

牧野忠康（日本福祉大学・社会福祉学部）

司会：山崎喜比古（東京大学大学院・医学系研究科）、須田木綿子（東洋大学・社会学部）

16:50～17:30 総会

18:00～20:00 懇親会

5月16日（日）

9:20 受付開始

10:00～12:00 一般演題セッション、要望演題セッション

13:00～13:45 大会長講演

片平冽彦（東洋大学・社会学部）「薬害・難病・脂質栄養問題研究を通じて
21世紀の保健・医療・福祉を考える」

司会：木下康仁（立教大学・社会学部）

13:50～14:50 リレー講演「日本における保健医療社会学の歴史と展望」

姉崎正平（第一福祉大学）

北原龍二（桜花学園大学）

旗野脩一（熊本学園大学）

司会：米林喜男（順天堂大学）

15:00～17:00 ラウンド・テーブル・ディスカッションA

テーマ：保健医療分野の調査研究水準アップのための格闘と工夫——実証性、
実践と理論への示唆、エンパワーメントの観点から

坂野純子（岡山県立大学）

八巻知香子（国立身体障害者リハビリテーションセンター）

武藤香織（信州大学）

司会：中山和弘（聖路加看護大学）

ラウンド・テーブル・ディスカッションB

テーマ：「病の経験と語り」を明らかにする意義

蘭由岐子（賢明女学院短期大学）

天田城介（熊本学園大学）

萬代優子（東京大学大学院）

司会：筒井琢磨（皇學館大学）、的場智子（東京大学大学院）

5. 参加費

*大会参加費 学会員 4,000 円（4月30日までの申し込み）、学会員 5,000 円（5月1日以降、当日申し込み）、非会員 6,000 円

*学生参加費 学会員 3,000 円（4月30日までの申し込み）、学会員 4,000 円（5月1日以降、当日申し込み）、非会員 5,000 円

*懇親会費（事前申し込み、当日申し込み、いずれも）一般 5,000 円、学生 2,000 円

☆参加費は前回同封した郵便振り込み票にて送金してください。懇親会に事前申し込みされ

る方は大会参加費と合計して送金してください。

6. 演題募集

昨年度に引き続き、本大会でも「一般演題」と「要望演題」を募集します。

発表は、「一般演題」と「要望演題」とも、以下の要領でお願いします。

- (1) 1 演題につき、発表は 12 分、質疑は 8 分の予定です。
- (2) 発表の際に、OHP またはパワーポイントを使うことができます。使用を希望する場合は、同封した「演題申込書」の該当箇所に○印を付けてください。なお、会場の設備の都合上、OHP、パワーポイントいずれも可能な方は、できるだけ OHP をご利用ください。
- (3) OHP サポートは各自でお願いします。
- (4) 配布資料がある場合は、各自で 50 部用意し、当日、会場で配布してください。
- (5) 発表日時は 4 月にお送りする抄録集に載ります。各自でご確認ください。

要望演題は、以下のように、保健医療社会学が取り組むべきテーマを掲げ、皆様に議論し、交流していただきたいとの趣旨で設けました。

- (1) 保健医療福祉政策科学分野
- (2) ヘルスプロモーションと健康日本 21
- (3) 健康被害論
- (4) ジェンダーと健康

7. 演題申込み方法

- (1) 申込み方法は「一般演題」「要望演題」とも同じです。なお、「一般演題」で申し込まれた場合でも、「要望演題」セッションで発表していただくことがありますので、ご了承ください。
- (2) 発表資格は、研究者、共同研究者とも会員であることが必要です。会員でない方は、大会までに入会手続きを済ませてください。入会手続きは、学会事務局（東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室）までお願いします。
- (3) 発表抄録を下記の要領で作成し、その原本 1 部、コピー 1 部の計 2 部を、そのファイルを保存したフロッピーディスク、「演題申込書」と一緒に、大会事務局（東洋大学・社会学部片平研究室）へ 2004 年 2 月 27 日（金）までにお送りください。大会事務局では、抄録を頂戴した時点で、受理した旨のハガキを郵送します。なお、フロッピーディスクは返却しません。

(a) 締め切り：2004 年 2 月 27 日（金）必着

(b) 形式：A 4 判 1 枚、ワープロ横書き、40 字×40 行、明朝体

(c) 上下 30mm、左右 25mm の余白

(d) 演題を第 1 行中央寄せで、氏名（所属）を第 3 行に右寄せで、本文は第 5 行から始めてください。連名の場合は、発表者に○を付けてください。

☆なお、抄録は抄録集の段階で B 5 判に縮小されますので、文字や図表の大きさに注意してください。

8. 事務局

<大会事務局>

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

東洋大学・社会学部・片平研究室内

第30回 日本保健医療社会学会大会事務局

FAXのみ

E-MAIL:

郵便振替 加入者名 第30回日本保健医療社会学会大会

口座記号番号 00180-0-315042

<学会事務局 (学会入会の問い合わせ) >

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室内

日本保健医療社会学会事務局

E-mail: TEL: FAX:

(第30回大会事務局長: 小澤 温)

II. 第5回理事会報告

2004年1月10日(土) 於 東京大学

出席者: 米林喜男(学会長)、小澤温、木下康仁、黒田浩一郎、福島道子、的場智子(各理事)、小出昭太郎(学会事務局次長)

1. 第30回大会(2004年5月15・16日、於 東洋大学白山校舎)について
次期大会事務局長(小澤理事)より、大会の準備状況、今後のスケジュールについて報告され、討議の上、了承された。
2. 第31回大会開催候補地について討議され、今後も継続して討議することが確認された。
3. 定例研究会について: 関東地区例会について担当の小澤理事より前回の報告と、今後の予定についての提案があり、討議された。
4. 学会誌(『保健医療社会学論集』)の編集と発行等について: 担当の黒田理事より12月発行予定の第14巻2号の準備状況が報告された。また執筆要項、投稿規定改定について提案があり討議、了承された。次々号(15巻1号)の投稿状況についても報告を受けた。
5. ニューズレターについて: 掲載記事のアウトラインについて討議、決定した。
6. 新入会員の承認ならびに退会者の確認について: 小出事務局次長より、11月1日以降12月31日までの入会および退会希望者の報告があり、いずれも承認された。
7. その他: 次回理事会は、2004年4月30日(金)18時より東京大学で開催となった。
(総務担当理事: 的場 智子)

III. 関東地区定例研究会について

2003年度の2回目(第174回)の関東地区定例研究会は12月19日に東洋大学・白山キャンパス・5号館(井上記念館)・5202教室、午後6時から8時の時間で行いました。講師は佐藤久夫氏(日本社会事業大学・教授)で、テーマは「国際生活機能分類(ICF)につ

いて」でした。ICFの策定の背景、ICFを用いた事例分析の具体例などの報告がなされ、その後、活発な意見交換がもたれました。

3回目(第175回)の関東地区定例研究会は1月23日に東洋大学・白山キャンパス・5号館(井上記念館)・5202教室、午後6時から8時の時間で行いました。講師はセシル・ディディエジャン氏(パリ第10大学・大学院、早稲田大学・客員研究員)で、テーマは「現代日本における妊娠・出産一身体感の文化人類学的研究」でした。セシル氏は文化人類学を専攻され、日本の産科での参与観察型の調査研究を進めており、その体験をもとに、報告がなされました。その後、研究方法、今後の研究のまとめ方などに関して意見交換がなされました。

なお、4回目(第176回)関東地区定例研究会は3月5日に学会館分館(東大・赤門の隣)、午後6時から8時で開催します。講師は秋元美世氏(東洋大学・社会学部・教授)で、社会福祉・社会保障と人間観に関するテーマを予定しています。

(関東地区定例研究会担当理事:小澤 温)

IV. 関西地区定例研究会について

★★★保健医療社会学会・関西地区定例研究会のご案内★★★

テーマ「医療と看護の相互行為分析—エスノメソドロジーによる探究—」

日時:2004年3月6日(土)午後2時~5時(午後1時半開場)

場所:京都駅北歩3分「キャンパスプラザ京都」2階第3講義室
(JR京都駅ビル駐車場西側・京都中央郵便局西側、
下京区西洞院通塩小路下ル tel. [REDACTED])

*講演タイトル:「悪い知らせをいかに伝えるか(仮題)」

講師: Douglas Maynard氏 (University of Wisconsin 教授・医療社会学者)

指定討論者: 未定

※司会進行: 林千冬(神戸市看護大学) & 檜田美雄(徳島大学)

※逐語通訳あり。講演要旨(日本語)を含んだ資料配付あり

*資料代: 会員無料。非会員の方のみ資料代として500円

後援: 日本EMCA研(予定)

*参考文献: D. Maynard 2003 『Bad News, Good News』 The University of Chicago Press.

今年度第2回目の関西地区定例会は、来る3月6日、「医療と看護の相互行為分析」をテーマに開催する運びとなりました。医療と看護にかかわる質的調査法の中でも最近とくに注目を集めている「会話分析」および「エスノメソドロジー研究」の成果を、「Bad News Telling」研究の第1人者であるメイナード博士にご講演頂きます。

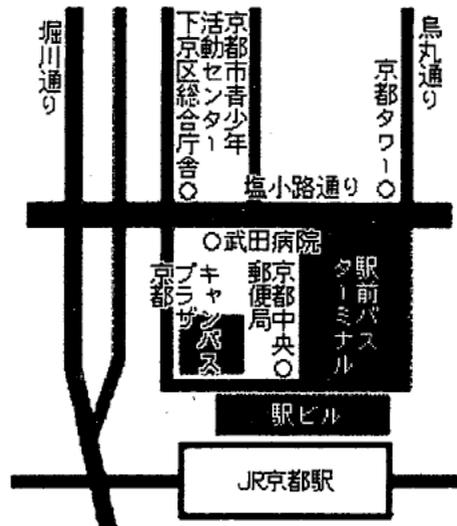
いったい医療者と患者と患者家族の間のようなコミュニケーションが、「悪い知らせ」を可能にしたり、問題あるものにしたりするのか。メイナード博士のご研究の特徴は、的確な実践例に基づいた議論展開にあり、調査方法論に関心のある方々だけでなく、医療の実践家の皆様にと

っても意義ある研究例会になるものと考えております。

会場は、京都駅前徒歩3分の大変便利な場所にいたしました。150名収容が可能ですので、会員、非会員を問わず、どうぞ奮ってご参加ください。

事前申し込みは不要です。当日直接お越し下さい。お問い合わせは下記にどうぞ。

担当：櫻田美雄（徳島大学）TEL&FAX [REDACTED]



(関西地区定例研究会担当理事：林 千冬)

V. 看護研究部会報告

1月の例会は、本部会初の招待講演を開催した。講師に中山和弘氏（聖路加看護大学）を迎え、「看護と情報—医療の不確実性、確率化、信頼、意思決定と看護情報学、看護情報ニーズ解析」と題してご講演頂いた。中山氏は、新設看護大学でのITインフラ整備の経験、教材作成を契機とした「ナースに役立つ種類のサイトとは？Nurse's SOUL」(http://www.geocities.jp/kazu_hiro/)の運営、「保健・医療者のためのWeb検索・活用ガイド」(医学書院2002)他の出版、聖路加看護大学の21世紀COEプログラム「市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点」における「健康資源コンテンツデジタル化とe-learning開発」の研究代表者を担っておられ、現在、看護情報学(nursing informatics)の可能性を探っておられる。このような中山氏から、参加者は、保健医療において、意思決定のための情報の必要性が増し、保健医療に関する情報が不確実なもの、リスクがあるものという確率論的理解が進んでいること、その中で、信頼 trust という概念の問い直しが必要であること、「決められない」「できない」ことに関するストレスのサポート等が問題になっていること等の気づきを与えられた。さらに、保健医療における情報は、①医療者と医療者、②医療者と患者・関係者、③患者・関係者と患者・関係者という三つの関係で情報の共有という変化が生じているとの見解を伺った。そして、これら三つの関係が同時に成立している場としてインターネットを理解する視点を知り、専門用語の難しさや、看護用語の定義のあいまいさや不統一が問題になっている状況を捉え直すことができた。その上で、情報リテラ

シー、ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、ディジションサポートについて検討が必要と学び、看護職がおかれている社会状況を「情報」という視点から解釈する機会を得た。次回の例会は、3/13（土）。案内等希望の方は、事務局吉田まで

（看護研究部会：吉田 澄恵）

VI. 編集委員会からのお知らせ

前号のニューズレターでお知らせしましたように、「投稿規定」および「論文執筆要項」を以下のように改正することになりました。おもな改正点は、「投稿規定」では、「研究ノート」の制限枚数を10頁から12頁に増やしたこと（第3条）、「論文執筆要項」では、引用参考文献の挙示方法を、引用ページ数を示さないスタイルから示すスタイルに変更したこと（第1条第6項）です。これらの規定・要項の適用は、第15巻1号（2004年6月発行予定）掲載論文からとなります。これから投稿される場合には、新規定に従って論文を執筆くださるようお願いいたします。

また、論文の投稿状況ですが、投稿はさかんといえますが、査読を経て掲載受理にまで至るものは、その数が年に2回の発行にはぎりぎりの状態です。換言すれば、掲載が受理されれば、即掲載という状況です。どうか、会員の皆様方には今以上の投稿を切にお願い申し上げます。なお、投稿は随時受け付けております。

（編集委員会委員長：黒田 浩一郎）

『保健医療社会学論集』投稿規定

1. 論文の投稿資格は、共著者を含めて全員が本会会員であり、投稿する当該年度までの年会費を完納した者に限る。
2. 投稿する論文は、他に未発表の日本語の論文に限る。ただし、学会等で口頭発表したものについては、その限りではない。
3. 投稿原稿の種類は、以下の通りである。

種 類	内 容	制限枚数
総説 (Review Article)	あるテーマに関する研究論文の総括、評価、解説	12 頁
原著 (Original Article)	新しい知見、理論が科学的に示された研究論文	12 頁
研究ノート (Research Note)	研究上の問題提起、興味深い事実や実態・事例に関する論文	12 頁
インフォメーション (Information)	保健医療社会学に関連する提案・提言、有用な資料や情報、論文の紹介など	6 頁
書評 (Book Review)	保健医療社会学にとって重要な著書の紹介・論評	2 頁

4. 論集は年2回発行し、論文の投稿は随時受け付ける。
5. 総説、原著、研究ノートについては、英文要約を論文の末尾に添付することができる。
6. 投稿の際には、コピー3部を編集委員会事務局宛に書留にて郵送すること。なお、コピー3部のうちの2部は査読用に使用するので、著者の氏名、所属機関を記入しないこと。投稿の際のカバーレターには、連絡担当者の連絡先住所、氏名、電話、email、原稿の種類を明記すること。
7. 論文の掲載の可否は、匿名の査読者の結果にもとづき編集委員会が決定する。
8. 編集委員会は、査読の結果により著者に論文の修正を求めることがある。著者は査読者の要求に応じて論文を修正し、修正箇所と修正内容等の一覧を提出しなければならない。ただし、査読者の意見に応じられないときは、その理由をあげて査読者に反論することができる。著者と査読者の間の意見交換は、すべて編集委員会事務局を通し、原則として文書により行う。
9. 掲載を認められた著者は、必要な修正を図った場合には修正箇所と修正内容等の一覧を付け、完成原稿1部とともに、内容を保存したフロッピーディスクを指定期日までに所定の宛先に書留郵便にて送付することを原則とする。
10. 本規定の改廃は編集委員会で決定する。

付則1 本規定は2004年2月1日より改定施行する。

2 編集委員会事務局を次のところにおく。

龍谷大学社会学部黒田研究室 (〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5)

TEL [REDACTED]

FAX [REDACTED]

Email [REDACTED]

『保健医療社会学論集』論文執筆要項

1. 原稿の体裁

本誌はB5判に製本されるが、原稿は以下の要領によりA4判で作成すること。

(1) 1ページの字数

40字×40行（横書き）、左右余白30mm、上余白20mm、下余白30mm

(2) 題目、本文等の書式

和文題目（中央揃え、14p、ボールド）

英文題目（中央揃え、10.5p）

執筆者名（中央揃え、10.5p）

所属名（中央揃え、9p）

執筆者名ローマ字（中央揃え、10.5p）

和文要約（400字以内、9p）

キーワード（5個以内、9p、ゴシック）

小見出し（10.5p、ゴシック）

本文（10.5p）

補註（8p）

引用文献（8p）

英文要約（掲載希望者のみ、論文の末尾、10行以内、10p）

(3) 小見出しの数字は、I 1 (1) の順に使用する。

(4) 本文中の句読点は、、、。（全角）を用いること。

(5) 本文への補註を必要とする場合は、⁽¹⁾ ⁽²⁾ ⁽³⁾…の記号で該当箇所の右肩に示し、「補註」として引用文献リストの前に一括すること。

(6) 引用は、本文中では該当箇所の直後に、（文献番号）、（文献番号1、文献番号2）、（文献番号、p. 頁数）、（文献番号、pp. 開始頁数-終了頁数）の記号で示す（例、(1)、(1, 2)、(3, p. 9)、(4, pp. 20-21)）。引用文献は一括して補註の後に「引用文献」として次のように記載すること。ただし、著者が3名以上いる場合は「ほか」「et al.」とする。通巻頁を用いている雑誌では号数を省略することができる。なお、雑誌名は省略しないこと。

・雑誌論文の場合

文献番号) 著者名：論文名、雑誌名、巻(号)、頁一頁、発行年(西暦)。

・編書中の論文の場合

文献番号) 著者名：論文名、編者のある場合の編者名、書名、頁一頁、発行所、発行地、発行年(西暦)。

・著書の場合

文献番号) 著者名：書名、発行所、発行地、発行年(西暦)。

・例：2) Nihon N, et al.: Health sociology; Theory and practice. *Journal of Health Sociology*, 12, 34-56, 1991.

3) Tokyo M, Bunkyo W: Medical sociology. In Nihon N, Tokyo M (eds.), *International Handbook of Health and Medical Sociology*, 12-34, Hongo Press, Tokyo, 1992.

4) 文京一郎：保健医療社会学。東京太郎編、健康科学、156-178、東京大学出版会、

東京、1993.

5) 東京太郎：健康と病気の社会学. 東京大学出版会、東京、1996.

(7) 参考文献はあげないこと。

(8) 図、表、写真等の挿入

- a. 図、表、写真等を挿入する場合は、原稿の該当箇所にきちんと挿入し、写真は印画紙に焼き付けたものを添付すること。
- b. 図や文字は、B5判に縮小されることを考えて、大きさを選択すること。
- c. 図、表、写真等を他の著作物から引用する場合は、出典を必ず明記し、必要に応じて原作者または著作権保持者から使用許可を得ること。
- d. 図・表の番号は図1、図2…、表1、表2…のように示し、図と表のそれぞれについて通し番号をつける。図表には必ずタイトルを付け、原則として図では下に、表では上に記すこと。

2. 論文の長さ

原稿の長さは、投稿規定に従い、原稿の種類ごとの制限頁数以内とする。

3. 本要項の改廃

本執筆要項の改廃は編集委員会が決定する。

付則 本執筆要項は2004年2月1日より改正施行する。

VII. インフォメーション

THE BRITISH SOCIOLOGICAL ASSOCIATION MEDICAL SOCIOLOGY GROUP

Annual Conference 2004

&

ISA RC15 INTER-CONGRESS CONFERENCE

September 16th - 18th, 2004

University of York, UK

Plenary Speakers will be

Peter Conrad

Harry Coplan Professor of Social Sciences

Brandeis University

who will speak on:

'The Shifting Engines of Medicalization'

Judith Green

Senior Lecturer in Sociology

London School of Hygiene and Tropical Medicine

who will speak on:

'Professions and Community'

Further details and abstract submission form available from:

bsamedsoc@britsoc.org.uk and www.britsoc.co.uk/msconf

(click on 'Annual Conference 2004')

The XVI ISA World Congress

Durban, South Africa

July 23rd-29th, 2006

Visit the webpage:

<http://www.ucm.es/info/isa/congress2006/>

Programme Co-ordinator, RC15:

William C. Cockerham

Department of Sociology

University of Alabama-Birmingham

1530 3rd Avenue South

U237 Birmingham

AL 35294-3307

USA

E-mail: [REDACTED]

Phone: [REDACTED]

Fax: 1 [REDACTED]

RC11-Sociology of Ageing

Inter-Congress Conference, 2004

'Ageing Societies and Ageing Sociology:

Diversity and Change in a Global World'

RC11, will be holding its Inter-Congress conference at the University of Surrey, Roehampton UK on 7th-9th of September 2004. For those travelling to the UK to RC15's conference, this is an excellent opportunity to combine two conferences!

The deadline for receipt of abstracts of papers of posters is: *February 1st, 2004*. Topic

For full details, visit www.soc.surrey.ac.uk/crag/ISA2004/index.htm or the ISA website www.ucm.es/info/isa.

(涉外担当理事：米林 喜男)

『学会員名簿』冊子用アンケートについて

ニューズレター前号で『学会員名簿』冊子作成のためのアンケートをお願いしましたが、まだお送りいただけていない方には再度アンケートハガキを同封させていただきました。今回または前回のハガキに必要事項をご記入の上、2月29日までにご投函ください。この時点で印刷にとりかかり、2004年度早期に冊子をお配りする予定です。

『学会員名簿』冊子に掲載してよい項目には○をおつけください。またこのハガキは住所等の登録確認を兼ねています。詳細はニューズレター前号(No. 56)(学会ホームページ <http://square.umin.ac.jp/medsocio/>にも掲載しています)の10ページをご覧ください。

お手数ですがご協力をお願いいたします。お問い合わせや、ハガキを出した後での変更がありましたら、学会事務局()、Tel ()、Fax ()までご連絡ください。

(学会事務局次長：小出 昭太郎)

新入会員および退会者 (11月1日～12月31日) (敬称略)

- ・入会 () ()
()
() ()
() (交)

- ・退会 ()

(学会事務局次長：小出 昭太郎)

編集後記

2004年を迎えて最初のニューズレターをお届けすることができました。今回は内容豊富でニューズレターの域を越えた観もありますが、それぞれ重要な記事ですので、しっかりお読みいただきたいと思います。

社会の動きは目まぐるしく自衛隊イラク派遣、そして足元では児童虐待などさまざまな問題が浮かび上がっています。自分に何ができるのか、立ち止まり思考することもままなりません。人間の幸福とはなんでしょうか。

さて、会員からの投稿も積極的に載せていきたいと思いますので、「会員の声」欄への投稿、学会や研究会の告知、最近出版した著書の紹介などお寄せ下さい。投稿の方法は郵送、ファクシミリ、Eメールが可能です。

郵送：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内
日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子

FAX： (日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子)

Eメール： ()

なお、紙面の都合等により、原稿の採否、若干の修正は当方にご一任願います。

(広報担当理事：福島 道子/文責：千葉 京子)

日本保健医療社会学会ニュースレター No. 58 2004/6/21

日本保健医療社会学会事務局

東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室内

東京都文京区本郷 7-3-1

(編集：福島道子 発行：的場智子)

1. 第30回日本保健医療社会学会大会を終えて

第30回大会後、早くも3週間余が経過しました。人生に喩えるなら「自立」の年である記念すべき大会を、皆様のご協力により何とか終えることができ、ほっとしているところです。

学会にとっては「不良会員」(諸般の事情で、一般演題では報告したことの無い会員、の意)である私を大会長に祀り上げてくださり、東洋大学で開催することとされたのは、恐らく、米林会長と小澤理事らの「共謀」に発すると推察されますが、もし今回の大会が一応の成功を収めたとすれば、この「共謀」は大変先見の明があったと言わざるを得ません。

今回の参加者は、登録数では234名ですが、登録漏れもあり、恐らく、250名を超えたと推察されます。これは、小澤温実行委員長の記憶では「史上最高」の規模とのこと。そして、内容的にも、ご承知のような盛り沢山のプログラム(一般演題は40)を組むことが出来ました。討論も大変活発でした。巷の学会では、最終日の午後ともなると、退出者続々と閑散としてしまう光景が見られることがありますが、今回は17時を過ぎてもなお討論が続き、会場片付け要員等がしばし待たされるほどでした。このような成果を挙げられたのは、記念講演をお引き受けいただいた神野直彦教授はじめ演者の皆様、推進役をされた小澤実行委員長、米林会長、会場担当の原山哲教授はじめ、多くの皆様のご協力の賜物です。本当にありがとうございました。

大会の準備経過を振り返ると、2003年6月9日以降7回にわたり、上記の「推進役」等により準備会を行ってきました。一般演題抄録締切りは2004年2月末とし、受付と発表日時・場所の連絡はメールで行いました。抄録集は4月上旬に印刷に入れ、会員に配布しました。これらの作業は私も可能な時間は割きましたが、何と言っても小澤・的場理事、小出事務局次長らの貢献によるところ大なるものがありました。この間小澤氏の尽力で4度に亘り持った関東地区研究会も準備の場ともなりました。会場は授業等の関係で4月を過ぎないとどの教室になるかわかりませんでした。幸い、他の行事が殆どなく、教務課のご配慮もいただいて、懇親会も含め希望通りの使用ができました。こうした準備の積み重ねが、上記のような結果をもたらしたわけです。

最後になりましたが、会場の提供のみならず、財政的支援までしていただいた東洋大学と、記念講演・シンポジウムに協賛していただいた同大学大学院社会学研究科に、厚く御礼申し上げます。

(第30回大会長：東洋大学社会学部 片平冽彦)

II. 総会・理事会報告

1. 第6回理事会 2004年4月30日 於 東京大学

出席者：米林喜男（学会長）、小澤温、木下康仁、黒田浩一郎、林 千冬、福島道子、的場智子、小出昭太郎（学会事務局次長）

- (1) 前年度の決算、新年度の予算案と活動計画について討議した。大会・研究会・部会活動補助費の増額に関して、今後検討していくこととなった。
- (2) 15年度に実施された定例研究会について、担当の小澤理事、林理事より報告された。
- (3) 第14巻2号の発行が大幅に遅れたこと、また学会誌への投稿状況について黒田理事より報告された。
- (4) 名誉会員の推挙についての的場理事より提案があり、討議された。
- (5) 会員名簿の作成に関する進捗状況と今後の取り扱いについて小出事務局次長から提案があり、討議された。

2. 第7回理事会 2004年5月14日 於 東洋大学

出席者：米林喜男（学会長）、小澤温、木下康仁、黒田浩一郎、福島道子、的場智子、小出昭太郎（学会事務局次長）

- (1) 第30回大会の運営、ならびに総会に報告・提案する事項について、検討し決定した。
- (2) 第31回大会の開催候補地について米林学会長より報告があり、討議された。
- (3) 長期にわたり学会費未納の会員に対する資格喪失退会措置手続きに関して小出事務局次長より報告があり、事務局からの会員継続意思確認に該当会員より返答が得られない場合は「資格喪失による退会」として処理を進めることが再確認され、該当者2名の退会が承認された。
- (4) 次回理事会は7月23日午後6時より、東京大学にて開催することになった。

3. 第30回日本保健医療社会学会総会の報告

学会の総会は、2004年5月15日に東洋大学にて行われた。議事次第と審議結果は以下の通りである。

開会の辞

学会長 挨拶

議長選出

第1号議案 2003（平成15）年度事業報告

1. 日本保健医療社会学会大会・総会の開催について
 - ・第29回大会（龍谷大、2003年5月）の開催。
 - ・第30回大会（東洋大、2004年5月）の準備。
2. 保健医療社会学論集について：学会大会抄録集を論集の特別号として、第14巻は特別号、1号、2号の3号分を発行した。
3. 定例研究会・研究部会について：定例研究会－関東4回、関西2回の開催。看護研

究部会の活動。これらに対し学会から財政的補助が図られた。

4. 日本保健医療社会学会ニューズレターについて：4号分の発行。
5. 学会員名簿の作成について：会員に名簿掲載情報の確認を実施。
6. その他：「学会事務局＝東大大学院健康社会学にしばらくおく。」「事務局次長を設け、理事会にオブザーバー参加してもらう。」として3年経過。

第2号議案 2003（平成15）年度決算報告、監査報告

日本保健医療社会学会 2003 年度決算書

自 2003 年 4 月 1 日 至 2004 年 3 月 31 日

単位：円

収入の部				支出の部			
	予算額	決算額	差異		予算額	決算額	差異
前期繰越金	362,792	362,792	0	印刷製本費	1,050,000	932,820	117,180
会費収入	2,650,000	3,088,000	438,000	郵送費	420,000	283,350	136,650
学会誌刊行物売上	100,000	237,000	137,000	交通費	270,000	174,590	95,410
受取利息	400	13	△ 387	事務局人件費	350,000	344,800	5,200
広告収入	80,000	60,000	△ 20,000	論集編集費	50,000	50,000	0
寄付	0	200,000	200,000	消耗品費	150,000	231,070	△ 81,070
定例研究会資料代	0	23,100	23,100	会議費	30,000	13,933	16,067
				大会・研究会・部 会活動補助費	360,000	757,299	△ 397,299
				名簿作成準備費	60,000	34,094	25,906
				日本学術会議 社会福祉・社会保 障研究連絡委員 会 活動分担金	20,000	20,000	0
				その他(振り込み 手数料等)	6,000	2,600	3,400
				予備費	427,192	1,126,349	△ 699,157
合計	3,193,192	3,970,905	777,713	合計	3,193,192	3,970,905	△ 777,713

2004 年 5 月 8 日 会計監査 平野かよ子 印
2004 年 5 月 12 日 会計監査 細田満和子 印

第3号議案 2004（平成16）年度事業計画

1. 日本保健医療社会学会大会・総会の開催について
 - ・第30回大会：（東洋大、2004年5月）の開催。
 - ・第31回大会：地方での開催を検討中。
2. 保健医療社会学論集について：第15巻の特別号、1号、2号を発行。

3. 定例研究会・研究部会について：2003年度の継承。
4. 日本保健医療社会学会ニューズレターについて：2003年度と同じ。
5. 会員名簿の発行
6. 役員の改選
7. その他

第4号議案 2004（平成16）年度予算計画

日本保健医療社会学会 2004年度予算書

自2004年4月1日 至2005年3月31日

単位：円

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	1,126,349	印刷製本費	1,430,000
会費収入(6000円×430人分、 新会員7000円×70人分)	3,070,000	郵送費	780,000
学会誌刊行物売上	200,000	交通費	240,000
受取利息	10	事務局人件費	350,000
広告収入	80,000	論集編集費	50,000
		消耗品費	290,000
		会議費	30,000
		大会・研究会・部会活動補助費	360,000
		名簿作成費	230,000
		その他(振り込み手数料等)	3,000
		予備費	713,359
合計	4,476,359	合計	4,476,359

第5号議案 名誉会員の推挙

- ・西 三郎 会員を名誉会員に推挙、承認された。

(総務担当理事：的場智子 学会事務局次長：小出昭太郎)

Ⅲ. 関東地区定例研究会について

平成15年度は4回の定例研究会を行いました。1回目(第173回)は10月17日に東洋大学・白山キャンパスにおいて開催されました。講師は、木下康仁会員(立教大学・社会学部・教授)で、テーマは「実践の理論化と質的研究」、参加者は、会員40名、非会員80名の合計120名の参加者でした。2003年度の2回目(第174回)は12月19日に東洋大学・白山キャンパスで行いました。講師は佐藤久夫氏(日本社会事業大学・教授)で、テーマは「国際生活機能分類(ICF)について」、参加者は会員および東洋大の大学院生

を中心に25名程度の参加でした。3回目(第175回)は1月23日に東洋大学・白山キャンパスで行いました。講師はセシル・ディディエジャン氏(パリ第10大学・大学院、早稲田大学・客員研究員)で、テーマは「現代日本における妊娠・出産—身体感の文化人類学的研究」、参加者は会員および東洋大の大学院生を中心に25名程度の参加でした。4回目(第176回)は3月5日に学士会館分館で開催されました。講師は秋元美世氏(東洋大学・社会学部・教授)で、テーマは「社会保障の権利」、参加者は会員および東洋大の大学院生を中心に35名程度の参加でした。

平成15年度の定例研究会は第30回日本保健医療社会学会の大会企画にそっての事前学習的な意味もこめて企画をしてきました。平成16年度は、学会員の関心・専門分野の広がりに応じて、さらに、定例研究会を発展させていきたい考えです。なお、平成16年度の1回目は9月17日に東洋大学・白山キャンパスで、講師は、原山哲会員(東洋大学・社会学部・教授)で、看護社会学に関するテーマを予定しています。

(関東地区定例研究会担当理事：小澤 温)

IV. 関西地区定例研究会について

昨年度の関西例会は以下のとおり2回開催されました。いずれも熱心な参加者のみなさんのご協力の下、盛会のうちに終わることができました。ありがとうございました。

なお、今年度第1回は9~10月頃、「チームワークとコラボレーション」をテーマに開催の予定です。詳細は追ってお知らせさせていただきますのでぜひご参加ください。

*2003年度 日本保健医療社会学会・関西例会報告

第1回

テーマ「代替・補完医療と保健医療社会学—日本とイギリスの現状からの考察—」

日時：2003年9月14日(日)午後2時~6時

場所：大阪・梅田「YWCA山西記念福祉会館」(大阪市北区神山町11-12 tel. [REDACTED])

*第1報告：「イギリスの看護実践と看護教育における代替・補完医療」

Les Storey氏(University of Central Lancashire 教授・看護師)

※逐次通訳：黒野利佐子氏(京都市立看護短期大学)

*第2報告：「現代日本の代替医療—社会学的考察のためのメモ」

佐藤純一氏(高知医科大学)

*コメンテーター兼ファシリテーター：黒田浩一郎氏(龍谷大学)

*参加者数 26名(うち学会員12名)

第2回

*テーマ「エスノメソドロジー—会話分析とエスノメソドロジーの未来」

(※徳島大学・樫田先生の科研プロジェクトと共催)

*日時：2004年3月7日(日)午後2時30分~5時30分

*場所：キャンパスプラザ京都 第1講義室

*報告者：D.メイナード博士(ウイスコンシン大学)

*コメンテーター：平英美氏(滋賀医科大学)、佐伯日登美(ヒューマンケア研究会)

*参加者数 55名(うち学会員18名)

(関西地区定例研究会担当理事:林 千冬)

V. 看護研究部会報告

平成15年度は7回の例会を行いました。昨年度末の3月の例会は、「看護における患者教育の方法に関する研究—ナラティブ・アプローチによる外科的治療法を受けるがん患者の体験—」と題し、大池美也子氏(九州大学医学部保健学科)から、看護における教育が一方通行の知識伝達が中心となっていることに対する問題に対し、ナラティブ・アプローチを用いた質的研究の報告がなされた。投稿予定の論文内容のため詳細は割愛するが、がん患者の体験は入院期間の短縮化や身体機能の回復をめざす医療状況とは異なり、反省による変化過程や体験からの学びがあった。さらに、選択と決定による生活の実践知と筋立てに基づく物語への支援が看護における教育に不可欠であることが明らかとなった。質的研究に関する疑問点や、データから見出された患者の生き生きとした体験をどのような知見として示すかなどについて意見交換がなされた。

平成16年度となり、5月の例会では、「臨床看護師の役割葛藤」と題し、織田あゆみ氏(元東洋大学大学院)から、研究報告がなされた。具体的には、離職の経験がある、もしくは離職を考えている看護師に職務上の悩みとライフヒストリーを聞き取ることで、それらを時間軸と社会関係上に関連づけることを試みたものである。離職を意識するほど悩む看護師に、期待と役割と地位(社会における位置づけ)がどのように理解され、意識されているのかを中心に分析した。詳細は割愛するが、何か決定的な出来事が原因というより、いくつもの要因が複雑に重なっていることが浮かび上がった。そして、看護師が悩みを抱え込むように構造的に原因が仕組まれたものが、現在の社会における「看護師の役割」であるという結論にたどり着いた。医療システム改変期にあたる現在「個人がなぜ悩むのか?」ではなく、「個人が悩む、見えにくい構造はなにか?」といった制度側に潜む側面を注視しなければならないと考える。発表に対し「役割理論」を応用した問題事象の捉え方といった方法論的観点などについて意見交換がなされた。(織田あゆみ

看護研究部会は2月に役員選挙を実施し、平成16・17年度の新役員が選出された。新役員は、吉田澄恵(部会長)、千葉京子(副部会長)、中村美鈴・三井さよ(事務局)。継続による充実を方針に活動予定である。次回の例会は、7月31日(土)。入会ご希望の方、例会の案内等ご希望の方は、事務局三井まで

(看護研究部会:千葉京子)

VI. 編集委員会からのお知らせ

機関誌『保健医療社会学論集』第14巻2号が2004年3月に予定(2003年12月)よりも遅れて刊行されました。前号が予定よりも6ヶ月遅れでの発行でしたので、遅れを少し取り戻したことになります。次号(第15巻1号)では遅れをさらに取り戻せればと考えています。編集委員会では、目下、この次号の刊行に向けて作業を行っています(2004年6月発行予定)。

ところで、前号のニューズレターでもお知らせしましたが、「投稿規定」および「論文執

[Redacted]

[Redacted]

計 45 名

・ 退会

[Redacted]

計 13 名

・ 資格喪失による退会

[Redacted]

計 2 名

(学会事務局次長：小出昭太郎)

編集後記

16 年度の活動も順調に歩み始めました。記念すべき第 30 回大会を盛会の中、終えることができたことを一会員として大変嬉しく思うとともに、本学会のさらなる発展を心から願っております。

さて、会員からの投稿も積極的に載せていきたいと思っておりますので、「会員の声」欄への投稿、学会や研究会の告知、最近出版した著書の紹介などお寄せ下さい。投稿の方法は郵送、ファクシミリ、E メールが可能です。

郵送：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内
日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子

FAX： [Redacted] (日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子)

Eメール： [Redacted]

なお、紙面の都合等により、原稿の採否、若干の修正は当方にご一任願います。

(広報担当理事：福島道子／文責：千葉京子)

日本保健医療社会学会ニュースレター No. 59 2004/10/29

日本保健医療社会学会事務局

東京大学大学院医学系研究科健康社会学研究室内

東京都文京区本郷 7-3-1

(編集：福島道子 発行：的場智子)

1. 第31回日本保健医療社会学会大会のお知らせ

第31回大会は、2005年5月14日（土）～15日（日）、熊本学園大学において開催することが、過日の理事会において決定されました。

天田城介会員と羽江の2名によって大会開催校としての責任を果たすことへの不安は大きいものです。しかし、米林喜男会長、2年前まで本学に在任された麓野脩一会員、理事の皆さんのすすめ、東京と東京以外の地区での開催が緒についたばかりであることなどを考慮し、31回大会開催校をお引き受けしました。田口宏昭会員など隣接する熊本大学の皆さんの援助、また、本学の社会福祉学部社会福祉学科ならびに環境福祉学科のスタッフ、大学院生の皆さんの助力を得て、31回大会を実り多い大会にしたいと思っております。とは言え、その鍵は、会員の皆さんが多くの研究成果を持ち寄っていただくことです。開催校としての準備の不十分な点を補って余りある報告と討論によって、東京と東京以外の地区での開催が軌道にのることを念じています。

本学では、有機水銀に汚染された水俣・不知火海沿岸地域と患者の、過去から現在に到る過程を包括的に歴史的教訓とする取り組みと共に、世界的に広がるにいたった水俣病問題を検証しつつ、未来を展望する「水俣学」構築を目指す共同研究が行われています。また、熊本は国立療養所菊池恵楓園、待労院に多数のハンセン病「元患者」の暮らす地域であり、ハンセン病差別が未感染児童に及んだ1950年代前半に起きた黒髪校問題では、後に本学学長となる鰐淵晴雄熊本大学長、高橋守雄本学学長や教員が深くかかわった歴史が本学にはあります。そして、ハンセン病裁判以前から始まった研究的取り組みは、現在、ハンセン病問題研究会として活動を持続しています。これらに私たちも参加しています。したがって、これらの問題を、31回大会において会員の皆さんによる討論によって、今後の示唆を頂けたらと考えています。

本学会が、その前身である研究会の時代から取り組んでいる病者、そして健康者を中心に置き、医師、看護師、介護福祉士、社会福祉士、その他のコ・メディカルなどのスタッフが関与する保健・医療を、社会学の立場から解明すると同時に、実際の寄与を行う保健医療社会学の前進をはかることは、31回大会の重要なテーマであると考えています。

たがって、この領域における個人・共同研究発表と共に、ラウンド・テーブル・ディスカッション等も設け、研究の発展と会員相互の研究的交流を実現しなければならないと考えています。

これから全体の構成を、理事会の力を借りつつ、作り上げなければなりません。私たちだけで出来るものではありません。東京を離れて本学会大会を開催された関西地域、これからの大会開催を望まれるであろう関東・関西地域以外の皆さん、そして、これまでの大会を積み重ねられてきた関東地域の会員の皆さんの、ご遠慮のない意見、示唆を期待しつつ、第31回大会を準備させていただきます。

なお、第31回大会に関する連絡先は、熊本学園大学社会福祉学部 天田城介会員
(〒862-8680 熊本市大江 2-5-1 tel・fax : ██████████ ██████████ E-mail :
██████████) です。

(第31回大会長：羽江 忠彦)

II. 理事会報告

1. 第8回理事会報告

2004年7月23日(金) 於 東京大学

出席者：米林喜男(学会長)、小澤温、木下康仁、黒田浩一郎、福島道子、的場智子(各理事)、小出昭太郎(学会事務局次長)

1. 第30回大会の総括：大会事務局長の小澤理事より会計報告がされ、討議された。ラウンドテーブルが好評だったこと、また演題締め切りの厳密さについて今後も検討が必要との議論がされた。
2. 第31回大会について：米林会長より、熊本学園にて5月14、15日に開催されることなど、準備の進捗状況が報告された。
3. 学会誌(『保健医療社会学論集』)の編集と発行等について：担当の黒田理事より投稿の状況と次号の発行予定について報告がされた。またこのところ発行が二ヶ月遅れの状態が続いていること、査読に関する問題点についても討議された。
4. 定例研究会について：関東地区例会の今後の予定などについて担当の小澤理事より、また関西地区定例会については小出事務局次長より報告があり、討議された。
5. 新入会員の承認ならびに退会者の確認について：小出事務局次長より、5月12日以降7月22日までの入会および退会希望者の報告があり、いずれも承認された。
6. ニュースレターについて：掲載記事のアウトラインについて討議、決定した。
7. その他：米林会長より、次期IIS大会は2005年7月5-9日に、Frontier of Sociologyのタイトルのもとストックホルムにて開催されるとの報告がされた。次回理事会は、2004年9月14日(火)18時より東京大学で開催となった。

2. 第9回理事会報告

2004年9月14日(火) 於 学士会分館

出席者：米林喜男(学会長)、小澤温、木下康仁、黒田浩一郎、的場智子(各理事)、羽江

忠彦（次期大会長）、天田城介（次期大会事務局長）、小出昭太郎（学会事務局次長）

1. 第31回大会（2005年5月14・15日、於 熊本学園）について：開催校となる熊本学園の羽江忠彦氏、天田城介氏より大会の全体構成、シンポジウム企画、タイムスケジュール等について報告され、討議された。また次号ニューズレターに第31回大会のプログラム概要を発表することが確認された。
2. 定例研究会について：関東地区担当の小澤理事より次期開催例会と今後のテーマ等について提案があり、討議された。
3. 学会誌（『保健医療社会学論集』）の編集と発行等について：黒田理事より次号の発行予定と投稿状況について報告された。また査読の進め方等について今後検討を要する項目についても提案がされた。
4. 新入会員の承認ならびに退会者の確認について：小出事務局次長より、7月23日以降9月10日までの入会および退会希望者の報告があり、いずれも承認された。
5. ニューズレターについて：掲載記事のアウトラインについて討議、決定した。
6. その他：米林会長より、日本社会学会が保健・医療・福祉分野の学会発表分類について検討が行われているとの報告がされた。次回理事会は、2004年12月9日（木）18時より東京大学で開催となった。

（総務担当理事：的場智子）

Ⅲ. 関東地区定例研究会について

平成16年度の1回目（第178回）は9月17日に東洋大学・白山キャンパスにおいて開催されました。講師は、原山哲会員（東洋大学・社会学部・教授）、テーマは「フランスと日本における医療組織の比較」で、参加者は会員を中心に30名程度の参加でした。報告内容は、フランスと日本の看護師養成教育・システムの相違点、医師および患者との関係の取り方の類似点と相違点、などを中心に、これまで、報告者の行ってきた調査研究や資料分析を中心になされました。報告後の討論では、フランスの専門医療の意義と問題点、フランスの地域医療の課題、フランスで高度専門医療化が起きた背景などについて活発な意見交換がなされました。さらには、フランスの医療政策のあり方に関しても議論が展開し、予定した時間を終了しても熱心な意見交換がなされました。英語圏の諸国に比べて、これまで情報の入りにくかったフランス医療の現状と評価および問題点が明確になった点では意義深い定例研究会でした。

今後の定例研究会でも、諸外国の保健医療社会学や保健医療福祉システムに関するテーマを取り上げていきたいと思っています。それに加えて、平成17年5月に予定されている第31回大会（熊本学園大学）企画の事前学習会としての位置づけも考えていきたいと思っています。第180回定例研究会は、12月10日（午後6時から8時まで）、東洋大学・白山キャンパス（5号館（井上記念館）3階5302教室）で行います。講師は、青山陽子会員（東京大学大学院）で、「ハンセン氏病の社会学」に関するテーマを予定しています。

（関東地区定例研究会担当理事：小澤 温）

IV. 関西地区定例研究会について

関西地区定例研究会第一回は、去る10月9日に、「保健医療従事者のチームワークとコラボレーション」をメインテーマに、以下のとおり開催されました。今回は初の神戸での開催となりましたが、関東から吉田会員をお招きし、地元・神戸からは新進気鋭の大学院生の参加を得て、参加者ともども活発な議論がおこなわれました。

第一報告：「チームワークと協働の概念をめぐる文献レビューから」

中川典子（神戸市看護大学大学院）

第二報告：「病院医療における職員間コラボレーションー医療現場での事例から」

吉田澄恵（順天堂大学看護学部）

日時：2004年10月9日（土）午後1時半～5時

場所：神戸研究学園都市 UNITY（ユニティ・大学共同利用施設）

JR・阪急・阪神三宮駅より神戸市営地下鉄「学園都市」

（関西地区定例研究会担当理事：林 千冬）

V. 看護研究部会報告

7月の例会は「病院から地域へ移行する退院患者の動向実態調査に見る在宅移行期における課題」と題し、長江弘子氏（聖路加看護大学）の報告がありました。この研究は、H14年度（社）日本看護協会看護政策基盤整備事業報告書（p 212-266）に掲載された「高度な医療ケアを必要とする患者を在宅へ移行する退院調整看護のあり方に関する検討」の一部です。結論として、退院患者が退院直後に訪問看護を導入することはまれであること、また配偶者の有無や子や孫との同居の有無により、在宅療養継続か施設移行となるかの違いが見られました。今回の報告では、訪問看護にどのようにつなげるかについての課題が主な論点となり、さまざまな意見交換の中で果たして相談機能は看護が担うことなのか、他の職種でも可能ではないのか等、看護を特化することへの疑問が投げかけられ、貴重な意見交換の場となりました。

9月の例会は2名の報告がなされ、「＜働きやすさ＞の概念化のころみ ～ケア従事者の心身負担特性～」と題した田中幸子氏（自治医科大学）と、「高齢者の健康自己管理の社会的環境要因との関係からみた特徴 ～居住地域内自治会集会所での健康相談の利用者の語りを介しての分析～」と題して小玉敏江氏（東邦大学）から報告が行われました。田中氏の報告内容は、ケアに携わる職種によって働きやすい職場のあり方への示唆を得ることを目的に東京都内の特別養護老人ホーム、養護老人ホームに勤務するケア職（介護職、看護職、生活相談員）を対象にした調査データを利用しての分析をされていました。働きやすさ感には、仕事の面白さ・報酬感、職場の人間関係・コミュニケーションの良好さと、休みのとりやすさに関連していました。バーンアウト傾向には、仕事の面白さ・報酬感、

人間関係の良好さとともに仕事の過重負担感、利用者とのかかわりに由来するストレスや自信のなさも関連していることが示されました。小玉氏の報告では高齢者の特徴や能力などについても活発な意見交換が行われました。両者の報告に対し看護学・社会学入り混じっての白熱した議論となりました。

今回の例会は、11月13日(土)です。入会ご希望の方、例会の案内等ご希望の方は、事務局三井までお願いします()。

(看護研究部会：千葉京子)

VI. 編集委員会からのお知らせ

機関誌『保健医療社会学論集』第15巻1号が2004年9月に予定(2004年6月)よりも遅れて刊行されました。2003年度に今次の編集委員会が新編成されてから、3冊目となりますが、新編集委員会の編成と旧委員会からの事務引継に伴う発行の遅れを取り戻すことができないでいます。

目下のところ、旧編集委員会からの事務引継が5月下旬で、その1ヶ月後の6月に第1号が発行予定となっています(第2号は12月)。これでは、編集委員会の交代の年度は、どうしても予定どおりの発行がむずかしくなりますので、発行予定月を見直す必要があるかと考えています。

また、今体制発足時に比べると、このところ投稿は盛んといえます。そのためもあって、いくつかの問題も生じております。どのような問題が生じているかについては、『論集』第15巻1号の「編集後記」に書いていますので、それをご参照ください。そこにも書いていますが、これらの問題に対して、規定・要項に明記されていないところは、前委員会から引継いだ慣例および今次委員会の裁量でもって対応しています。このところの投稿のペースが今後も続くとする、このようなやり方もそろそろ限界に来ると思われまます。規定・要項の改正、査読方法の改正・明文化などが必要な次期に来ていていると思ひます。しかし、今次委員会は任期があと8ヶ月ほどしかありませんので、これらの問題およびそれらに対する対応策については、次期の理事会・編集委員会に引き継ぐつもりです。

会員の皆様には、引き続き、論文の投稿をお願い申し上げます。また、委員会の運営に関しましても、ご要望やご意見をお待ちしております。

(編集委員会委員長：黒田浩一郎)

インフォメーション

日本健康科学学会 20周年記念シンポジウム

テーマ 「世界的規模の視点からのサプリメントの理解と適切な使用
～安全で安心できる食文化の浸透をめざして～」

日時 平成17年1月22日(土) 10:00～17:00

編集後記

例年になく台風上陸の多い年となり、各地での被害の大きさに心が痛みます。自然の力の中で、自然の力を生かしながら私たちは生活を営んでいる立場であることを痛感させられる今日このごろです。

さて、会員からの投稿も積極的に載せていきたいと思っておりますので、「会員の声」欄への投稿、学会や研究会の告知、最近出版した著書の紹介などお寄せ下さい。投稿の方法は郵送、ファクシミリ、Eメールが可能です。

郵送：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3 日本赤十字看護大学内
日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子

FAX： [REDACTED] (日本保健医療社会学会広報担当理事 福島道子)

Eメール： [REDACTED]

なお、紙面の都合等により、原稿の採否、若干の修正は当方にご一任願います。

(広報担当理事：福島道子／文責：千葉京子)